

付、引續御公役相勤い古町同様之町屋敷ニ御座い。

一、町内南之方ニ有之い同町家主吉兵衛拜借地之儀ハ、元祿十四辛巳年八月申、櫻井屋治郎右衛門儀、御代官伊奈半左衛門様ニ奉願御買請仕い惣坪數九千五百五拾五坪之内ニ有、寶永四年亥四月右治郎右衛門方中川屋佐兵衛ト申者ニ買取、以後享保十四年酉七月材木問屋齋藤屋伊左衛門外拾四人仲間ニ有買取所持仕い處、野地ニ有立不申いニ付、右地面差上可申い間、公役御免被下置い様同十八年丑四月材木問屋惣代仲間行事大和屋清右衛門方町年寄奈良屋市右衛門ニ相願い處、御伺之上、當分公役ニ御除被下置地面者先うか七置い様被申渡、材木問屋拾五人ノ者ニ御預ケ地ニ相成、仲間ニ有見守仕罷在浮地ニ有之い所、安永七戌年中同町家主吉兵衛儀、右地面公役銀上納仕、其外諸役共相勤可申い間、拜借地被仰付被下置い様、牧野大隅守様町方御勤役之節、奉願い處御吟味之上、同七月中願之通被仰付、吉兵衛儀、其節方公役銀上納諸役相勤拜借仕、尤水地之場所ニ付、追々取立、畑地ニ仕罷在い處、寛政六寅年中町御奉行所方冥加金差上可申旨被仰付、翌卯年方壹ケ年金貳兩宛、年々只今以上納仕、當時右吉兵衛拜借仕い町屋敷ニ御座い。

但、前文之通、此邊昔元加賀新田ト相唱い儀者、往古松平加賀守様御屋敷跡ニ付、相唱來い由申傳い得共、委細之儀、年代等相知不申い。

一、此邊里俗藪之内ト相唱い儀、當町方北之方小名木川裏通迄一圓之唱ニ御座い。

— 文政町方書上

附記一

〔附記一〕 屋鋪渡

圖略

半田丹阿彌

小日向臺半田丹阿彌屋敷 坪數三百五拾九坪三合。

東 堀田河内守。西 道。

南 道。北 近藤市左衛門抱屋敷。

東 十九間四尺。西 十六間三尺。

南 十八間五尺。北 貳十貳間四尺。

小日向臺半田丹阿彌抱屋敷拜領地ニ願相濟、御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無、御座請取申い、爲後日、仍如件。

元祿十五壬午年正月十五日

半田丹阿彌内 山名 源 兵衛 印

小日向臺今井九右衛門支配所之内、半田丹阿彌ニ拜領地ニ御渡被成、間數坪數相違無、御座い、爲後日、仍如件。

元祿十五壬午年正月十五日

今井九左衛門手代 室 伏 源 助 印

— 屋鋪渡預繪圖證文

元祿十五壬午年

正月十五日渡。今井九右衛門支配所之内
一、小日向臺三百五拾九坪三合

半田丹阿彌

市街充實時代

一一三

但是迄抱屋敷拜領ニ付渡ス。

〔附記、二〕 巢拂

廿八日元祿十五年正月○中略。

一、巢拂御書付寫

覺

一、策前御觸之通、寺社侍屋敷、鳶鳥巢をかけいへ、彌無油斷早速取拂、巢拔か多さる様、可仕い。若見落し、巢有之、玉子かへりいへ、巢うつし、山本藤右衛門、佐原十左衛門方へ可遣い。手前ニる巢移い義難成いへ、其段右兩人方迄可申越い。兩人方より支配之者遣し、うけさせ可申事。

一、江戸廻元御留場之内、鳶鳥巢をけいへ、其所之百姓より寄合番岡田喜兵衛櫻井太郎左衛門方へ注進可仕い。右四人之者及相廻、可致吟味間、左様可被心得事。

午元祿十五年正月

柳營日次記

屋鋪授受

十五年壬午元祿○紀元二二六二年二月十日壬戌正統○壬戌、三屋鋪受領者有リ。外ニ是

月元祿十五年(紀元二二六二年)二月屋鋪ノ授受若干。○屋鋪渡預繪圖證文。屋敷書拔。寛政呈請。

屋鋪授受事蹟

屋鋪授受 元祿十五年二月中、屋鋪ノ授受有リタル者ヲ舉グ。

圖略○

高井寶豐

番町高井八郎右衛門○寶豐屋敷 坪數五百五拾坪。

東 道。西 小宮山友右衛門。

南 柴山平九郎。北 道。

東 三十間四尺。西 二十三間壹尺。

南 十六間五尺五寸。北 二十四間三寸ヨ。

四谷元屋敷差上い爲御代地、番町明地之内願之場所ニる。今度高井八郎右衛門屋敷拜領仕い。四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座、請取申い。爲後日仍如件。

高井八郎右衛門内
青木與市郎印

元祿十五年壬午年二月十日

圖略○

牛込元天龍寺前小林藤左衛門屋敷上ケ地 坪數貳百坪。

東 道。西 石崎甚助。

南 道。北 水谷又市。

東 二十三間五尺。西 二十三間四尺。

南 八間四尺壹寸。北 八間壹尺。

牛込元天龍寺前小林藤左衛門上ケ屋敷、菊池平藏、水谷又市、石崎甚助右三人に御預ケ被成い。四方間數坪數御繪圖之面、相違無御座、御預リ申い。爲後日仍如件。

菊池平藏内
馬場冲右衛門印

元祿十五年壬午年二月十九日

市街充實時代

一一二五

菊池平藏
水谷又市
石崎甚助

水谷又市内 市場 久兵衛印 石崎甚助内 村上與二右衛門印

圖略○

徳川綱教

喰違外赤坂土橋外紀伊中納言殿○徳川綱教添屋敷繪圖證文。

元祿十五壬午年二月廿九日

○坪數記入ナシ。 東 道。西 道。 南 紀伊中納言殿。北 道(幅八間)。

東 十五間。西 貳十間。 南 百三十七間。北 百三十五間三尺。

但、元下水屋敷之内之由ニ付坪數ニ除申下。

同張札 此色紙付下處、東之方六尺三間、拜領地之外ニ馬立とけなきつけ申度之由、戸田金左衛門淡輪新兵衛被_レ申聞下ニ付、午三月朔日於_レ御城、小笠原佐渡守殿稻垣對馬守殿へ相窺下へハ、不_レ苦下之由被_レ御聞下ニ付、田舎間三間東之方へ拜領地之外ニ出シ、辻番所迄右之地取之内ニ御建させ可然由、金左衛門新兵衛へも被_レ申通下様ニ、御城附鴨井善兵衛則申渡下以上。

同 紀伊中納言殿添屋敷 坪數貳千三百七拾壹坪貳合。

東 道。西 明地。 南 紀伊中納言殿。北 明地。

東 十五間。西 貳十間。 南 百三十七間三尺。北 百三十五間三尺。

紀伊中納言殿中屋敷前之道并松平左京大夫上ヶ地之内、今度中納言殿爲_レ添屋敷被_レ致拜領、四方面數坪數、右御繪圖之面傍示枕之通、無相違請取申下。仍如件。

元祿十五壬午年二月廿九日

水野權十郎罷出渡_レ之。

淡輪新兵衛印 屋鋪渡預繪圖證文

元祿十五壬午年

二月十日渡。明地之内 一番町五百五拾坪

役名不知 高井八郎右衛門

但、四ッ谷屋敷差上_レ爲_レ代地被_レ下。

二月十九日預。小林藤左衛門上ヶ地 一、半込元龍寺前貳百坪

役名不知 菊池平藏

二月廿九日渡。紀伊殿中屋敷前之通並松平左京大夫上ヶ地之内 一、赤坂土橋外貳千三百七拾壹坪貳合

石谷又市 紀伊中納言殿添地

但、中屋敷地續ニ付、爲_レ添地被_レ下。

屋敷書拔

廿五日 ○元祿十五年 二月 ○中略。

市街充實時代

御同所○紀伊被相願ニ付、赤坂屋敷鶴姫君御殿場ニ添地被遣旨、黃門○徳川家老へ申渡。

——柳營日記

廿五日○元祿十五年二月○中略鶴姫君赤坂第宅の地を増加せらる。

——常憲院殿御實紀

四谷之内○中略

延寶年中、松平左京大夫○頼純屋敷御持組大繩地ニ有之ハ處、年月不知○元祿。右左京大夫

屋敷御持組大繩地共被召上、右上地之内南之方并間道敷共、元祿十五年二月紀伊殿○徳川

教○網ニ添地圍込ニ成、右圍込西脇通者、屋敷并道内ニ成、左京大夫上地割残内ニ有、繰替新

道敷出來。

——御府内往還沿革圖書

十一日癸亥○元祿十五年二月○紀元二二六四谷新宿○市内火有り、城西ヲ延燒

シテ、品川○武藏國ニ至ル。○變災

城西大火 顛末變災篇ニ記ス。

十一日○元祿十五年二月○中略辰刻四谷新宿失火、青山麻布品川まで延燒し、申刻ニ滅ゆ。麻布御殿品川

——憲廟實錄

二月十一日○元祿十五年四谷鹽町より出火、青山、麻布邊、芝浦、品川に至る。この時麻布御殿、品川

御殿、妙國寺、五重塔、二王門燒亡。○品川御殿御再建なし。妙國寺の塔もこれより絶しなるべし。

——武江年表

附記
品川行殿
ヲ廢ス

〔附記〕 品川行殿ヲ廢ス。

十四日○元祿十五年八月○中略

品川御殿奉行
小池彌次 兵衛○義久

右只今品川御殿無之ニ付、小普請入被仰付之。

——柳營日記

十四日○元祿十五年八月○中略品川の離第この春燒亡せしにて廢せらるれば、其奉行小池彌次

兵衛義久小普請に入らる。
——常憲院殿御實紀

十四日○元祿十五年八月○中略品川御殿奉行を罷ム。御殿燒亡の後、再建ハ不及ゆへふり。

——憲廟實錄

庶民賑濟

廿一日癸酉○元祿十五年二月○紀元二二六老中稻葉正往○丹後守ニ命ジテ庶民ヲ

賑濟セシム。廿六日戊寅○元祿十五年二月○紀元二二六若年寄本多正永○伯耆守之

ニ副タリ、乃チ諸奉行ニ令シテ、商料稟議セシム。○憲廟實錄。柳營日記。常憲院殿御實紀。

庶民賑濟事

庶民賑濟 歲饑ユルヲ以テ賑濟ス。

二十一日○元祿十五年二月○中略

近年庶民困究ること上聞ニ達し、賑濟の術を議せべしと云事を、執政稻葉丹後守正通

奉る。

市街充實時代

廿六日元祿十五年二月。執夏本多伯耆守正永正通、稻葉副貳として、庶民賑濟の事を奉る。

——憲廟實錄

廿一日元祿十五年二月。

一、近年末々之者迄及困窮之段被爲聞召、何卒被仰出様も可有之哉。就夫右御用稻葉丹後守正被仰付間、頭取可相勤之、且又若年寄之内一人、并諸奉行之内も定置、吟味可申付旨、被仰出。

廿六日元祿十五年二月。

去廿一日被仰出、い末々困窮之儀ニ付御用本多伯耆守差添、可相勤旨、且又諸奉行へ被仰出惣觸。

覺

近年末々之者及困窮、非人及出、若此以後凶年杯い、一入可致難義、就夫右御用之儀、丹後守被仰付間、何及申合、遂兪儀、丹後守へ可相伺之。——柳營日次記

廿一日元祿十五年二月。近年諸民究困するにより、賑救のことはからふべき旨、稻葉丹後守正往に面命せらる。

廿六日元祿十五年二月。稻葉丹後守正往に副貳し、賑濟のことはからふべきよし、少老本多伯耆守正永に面命し給ふ。よて諸奉行へ令せらるゝは、近年賤民疲弊に及び、乞巧となるも

白山別殿外郭

のありと聞ゆ、もし此後飢年などあらば、一しほ艱困すべし、よて賑恤の事、丹後守正往うけたまはれば、各商議し、査檢をとげ、正往へ伺ふべしとなり。——常憲院殿御實紀

白山別殿外郭事蹟

是頃、白山別殿石川區小ノ外郭ヲ築キ、阿濃津伊勢國城主藤堂高久和泉守ヲシテ役ヲ助ケシム。御當代記。

白山別殿外郭 傳フ。

一、二月下旬元祿十五年。白山御殿御普請事、御手傳藤堂和泉守高久也。是は右之御殿也、中にして、總曲輪出來ると云々。——御當代記

屋鋪授受

三月朔日壬午元祿十五年(紀元二三〇六年)三月三日。屋鋪替有リ。外ニ是月元祿十五年(紀元二三〇六年)三月。屋鋪ノ授受若干。屋鋪波預繪圖證文、屋敷書抄、甘露叢、寛政呈請。

屋鋪授受事蹟

屋鋪授受 元祿十五年三月ニ於ケル屋鋪授受左ノ如シ。

最上義如

一、駿河守義智之代、屋敷向柳原ニ御座い處、天和二壬戌年十二月廿八日類焼仕、其後刑部義雅之代、元祿十一戊寅年九月六日、同所屋敷類焼仕い。刑部義如之代、同十五壬午年三月朔日、向柳原之屋敷本所横堀酒井下野守屋敷ニ相對替仕、翌未年元祿十六年二月引移普請等出來仕、同年御暇ニ在在所ニ出立仕い後、十二月廿六日類焼仕い。

市街充實時代

新井正清

正富○千藏。新井

元拜領屋敷本所三笠町壹町目三百坪外之御預り地十六坪。三代目新井理右衛門正清小十人組川副金左衛門組之節、元祿十五年三月十日拜領仕仕。被仰渡御老中御姓名書留等無御座不知。然ル所右拜領屋敷と小普請組山口勘兵衛支配北村大十郎拜領屋敷濱町元矢之倉貳百八拾坪と相對替仕度段、寛政九丁巳年四月奉願い處、同年八月廿四日願之通被仰付旨、溝口相摸守被申渡、相對替仕仕。本所三笠町壹町目元拜領屋敷、先年類焼仕仕段申傳御座い得共、書留無御座、年月日等不知。

寛政呈譜

圖略○

藤堂良直

虎御門外藤堂伊豫守○良直屋敷建長屋有。

坪數貳千三百五十九坪。

東 京極縫殿。西 道。

南 京極縫殿。北 道。

東 七十九間四尺。西 六十四間。

南 四十七間壹尺。北 三十三間五尺。

虎之御門外田中内匠殿上ケ屋敷、今度藤堂伊豫守拜領仕仕。四方間數坪數、右御繪圖之面、傍示杭之通、并建長屋共、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年三月四日

甲斐庄喜右衛門渡之。

藤堂伊豫守内

長谷川勘平印

市川三十郎。平野善三郎。安川善太夫。原五郎左衛門。

中村半治。

圖略○

大久保御用屋敷跡鈴木清内上ケ地 坪數百貳拾坪。

東 水上作右衛門。西 蜂須仲右衛門。

南 道。北 伊達庄左衛門。

東 十貳間四尺五寸。西 十四間五尺五寸。

南 八間三尺貳寸。北 八間五尺。

同 水上作右衛門上ケ地 坪數百貳拾坪。

東 竹腰信濃守。西 鈴木清内上ケ地。

南 道。北 伊達庄左衛門。

東 十間三尺五寸。西 十貳間四尺五寸。

南 九間四尺貳寸。北 九間五尺五寸。

大久保御用屋敷跡水上作右衛門鈴木清内殿上ケ地、戸田采女正定○氏の御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座御預り申い。爲後日仍如件。

戸田采女正内 木野淺右衛門印

元祿十五壬午年三月七日

圖略○

市街充實時代

戸田氏定

元誓願寺前佐田玉淵上ケ屋敷 坪數貳百貳拾坪四合。

東 安藤内記。西 吉田主馬。

南 松野權十郎、丹羽小左衛門。北 道。

東西 八間三尺。

南北 貳十五間五尺五寸ヨ。

佐田玉淵殿上ケ屋敷、市橋下總守○信に御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座御預リ申い。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年三月十日

市橋下總守内 磯松十左衛門 印

甲斐庄喜右衛門内田邊作太夫。

清永喜兵衛。中村三左衛門。中村半次郎。

右立合、相改預レ之。

圖略○

内藤宿曾雌又左衛門上ケ地 坪數貳百貳拾坪。

東 依田佐五右衛門。西 岩本藤右衛門。

南 伊奈甚之助。北 道。

東西 貳十貳間三尺。

南北 九間四尺六寸餘。

依田佐五右 岩本藤右

内藤宿曾雌又左衛門上ケ地、拙者共兩人に御預被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座御預リ申い。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年三月十三日

御天守番 依田佐五右衛門 印

岩本藤右衛門病氣ニ付名代小普請 岩本七郎右衛門 印

甲斐庄喜右衛門内岡直右衛門。

平野善三郎。中村三左衛門。宇野小兵衛。

右立合、相改預レ之。

圖略○

齋藤利政

齋藤半五郎○利政預リ地 坪數貳拾七坪八合。

東 明地。西 道(三間)。

南 山本九兵衛預リ地。北 齋藤半五郎。

東西 壹間三尺貳寸。

南北 十八間八寸餘。

同 山本九兵衛○正預リ地 坪數貳拾七坪八合。

東 明地。西 道。

南 山本九兵衛。北 齋藤半五郎預リ地。

東西 壹間三尺貳寸。

市街充實時代

南北 十八間八寸。

右に於北本所中之郷齋藤半五郎南隣明地、山本九兵衛屋敷北隣明地、四方間數坪數御繪圖之通り、相違無御座、半五郎九兵衛御預り申ひ。何時及御用次第差上可申ひ。右御預り地之内、家作一圓仕間敷い。縦圍等仕い共見透い様輕可仕い。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年三月十三日

山本九兵衛内
中野才兵衛印
齋藤半五郎内
龜田兵右衛門印

山本九兵衛屋敷、先年松永市左衛門と相對替有之い處、文化十三年十一月市左衛門屋敷神保八郎と相對替有之、同年十二月十七日八郎は御預替致しい。

齋藤半五郎御預地、年曆相立いニ付、文化十三年十二月廿一日同家齋藤安太郎改預替。

圖略○

町野太郎兵衛預り地 坪數貳拾壹坪七合五勺。

東 明地。西 道(五間)。
南 町野太郎兵衛。北 植村五郎右衛門。
東西 壹間五寸。
南北 貳十間貳寸餘。

町野太郎兵衛

右に於北本所二三之橋間通、私拜領屋鋪北隣明地、四方間數坪數、御繪圖之面、相違無御座、

い。私御預り申ひ。何時成共御用次第差上可申ひ。右御預り地之内、家作一圓仕間敷い。縦圍等仕い共見透い様輕可仕い。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年三月十三日

町野太郎兵衛印
櫻井庄之助内鈴木源助。酒井與九郎内吉田只右衛門。
右兩人立合申ひ。

圖略○

村上次郎左衛門預り地。○坪數記入ナシ。

東 道(五間)。西 明地。
南 岡田傳六郎預り地。北 村上治郎左衛門。
東西 壹間三尺六寸。
南北 貳十五間。

村上正伸

右に於北本所二三之橋間通、村上治郎左衛門屋敷南隣明地、四方間數坪數御繪圖之面相違無御座、治郎左衛門御預り申ひ。何時成共御用次第指上可申ひ。右預り地之内、家作一圓仕間敷い。縦圍等仕い共見透い様輕可仕い。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年三月十三日

村上次郎左衛門内
竹田七左衛門印
櫻井庄之助内鈴木源助。酒井與九郎内吉田只右衛門。
右兩人立合申ひ。

市街充實時代

圖略○

長谷川長喜

長谷川藤藏喜○長預り地 坪數貳拾壹坪。

東 道(五間)。西 明地。

南 長谷川藤藏。北 宅間善五郎預り地。

東西 五尺。

南北 三十間。

宅間憲輝

宅間善五郎輝○憲預り地 坪數貳拾五坪。

東 道(五間)。西 明地。

南 長谷川藤藏預り地。北 宅間善五郎。

東西 五尺。

南北 三十間。

右者於南本所二三之橋間通長谷川藤藏屋敷北隣明地宅間善五郎屋敷南隣明地四方間數坪數御繪圖之面相違無御座藤藏善五郎御預り申。何時成共御用次第差上可申。右預り地之内家作一圓仕間敷。縦圍等仕。共見透。様輕く可仕。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年三月十三日

宅間善五郎内 佐藤 仁 兵衛 印

長谷川藤藏内 伊谷 安太夫 印

櫻井庄之助内鈴木源助。酒井與九郎内吉田只右衛門。

林小右

圖略○

林小右衛門預地 坪數七坪。

東 明地。西 道。

南 林小右衛門。北 村上主馬預り地。

東西 三尺六寸ヨ。

南北 十壹間三尺。

右兩人立合申。

右者於北本所二三之橋間通私拜領屋敷北隣明地四方間數坪數御繪圖之面相違無御座、私御預り申。何時成共御用次第指上可申。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年三月十三日

林小右衛門 印

櫻井庄之助内鈴木源助。酒井與九郎内吉田只右衛門。

右兩人立合申。

圖略○

村上主馬全○義預り地 坪數七坪。

東 明地。西 道。

南 林小右衛門預り地。北 村上主馬。

東西 三尺六寸餘。

市街充實時代

村井義全

南北 十壹間三尺。

右於北本所二三之橋間通村上主馬屋鋪南隣明地四方間數坪數御繪圖之面相違無御座主馬御預申○中爲後日仍如件。

元祿十五壬午年三月十三日

村上主馬內

田中林右衛門印

櫻井庄之助内鈴木源助酒井與九郎内吉田只右衛門。
右兩人立合申○中。

圖略○

神尾正利

神尾市太夫○中預リ地 坪數八拾四坪餘。

東 御六尺屋敷。西北へ 道。

南 神尾市太夫。

東 十九間貳尺。西北へ ○間數記入ナシ。

南 八間四尺壹寸。

右於北本所中之郷神尾市太夫屋敷北隣明キ地四方間數坪數御繪圖之面相違無御座御預リ申○中爲後日仍如件。

元祿十五壬午年三月十三日

神尾市太夫內

内田善右衛門印

櫻井庄之助内鈴木源助酒井與九郎内吉田只右衛門。

野澤清房

圖略○

野澤源左衛門○中預リ地 坪數百坪。

東 明地。西 道。

南 御小間造屋敷。北 野澤源左衛門。

東西 六間四尺餘。

南北 十五間。

右於北本所三之橋通私拜領屋敷南隣明地四方間數坪數御繪圖之面相違無御座私御預申○中爲後日仍如件。

元祿十五壬午年三月十三日

野澤源左衛門印

櫻井庄之助内鈴木源助酒井與九郎内吉田只右衛門。
右兩人立合申○中。

圖略○

植村正清

植村五郎右衛門○中預リ地 坪數貳拾壹坪七合五勺。

東 明地。西 道。

南 明地。北 植村五郎右衛門。

東西 壹間五寸。

南北 貳十間貳寸餘。

市街充實時代

右考於北本所二三之橋間通、植村五郎右衛門屋敷南隣明地、四方間數坪數、御繪圖之面、相違無御座、五郎右衛門御預リ申○中略。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年三月十三日

植村五郎右衛門内
中 田 源 太 夫 印
櫻井庄之助内鈴木源助。酒井與九郎内吉田只右衛門。
右兩人立合預之。

圖略○

新井理右衛門○正預リ地 坪數拾六坪。

東 道。西 明地。

南 新井理右衛門。北 河野庄七郎預リ地。

東西 壹間壹尺餘。

南北 貳十八間。

河野庄七郎○通預リ地 坪數拾六坪。

東 道。西 明地。

南 新井理右衛門預リ地。北 河野庄七郎。

東西 壹間壹尺餘。

南北 貳十八間。

河野通繁

右考於北本所三之橋通、新井理右衛門屋敷北隣明地、河野庄七郎屋敷南隣明地、四方間數

坪數、御繪圖之面、相違無御座、理右衛門庄七郎御預リ申○中略。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年三月十三日

新井理右衛門内
田 邊 喜 八 印
河野庄七郎内
大橋 助 右衛門 印
櫻井庄之助内鈴木源助。酒井與九郎内吉田只右衛門。

圖略○

岡田傳六郎預リ地 坪數四拾坪。

東 道。西 明地。

南 岡田傳六郎。北 村上次郎左衛門預リ地。

東西 壹間三尺六寸。

南北 貳十五間。

岡田傳六

右考於北本所二三之橋間通、私拜領屋敷北隣明地、四方間數坪數、御繪圖之面、相違無御座、私御預リ申○中略。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年三月十三日

岡 田 傳 六 郎 印
櫻井庄之助内鈴木源助。酒井與九郎内吉田只右衛門。
右兩人立合申。

文政十二壬午年十月八日大綱錄之丞預替ル。

圖略○

市街充實時代

赤坂内藤八郎左衛門上ヶ地 坪敷貳百五拾八坪。

東 淨土寺。西 道。東北 御下男。東北之角ニ辻番。

南 御下男。北 道。

東北 十壹間貳尺貳間半。西南 十貳間四尺。

東南 貳十間貳尺。西北 十八間壹尺五寸貳間。

赤坂内藤八郎左衛門殿上ヶ地米倉長門守明昌御預ヶ被成四方間數坪敷右御繪圖之面相違無御座御預リ申上爲後日仍如件。

元祿十五壬午年三月廿三日

米倉長門守内 杉原勘太夫印

水野權十郎内永田庄助。右立合相改預之。

圖略○

深川闕所方手代八人屋敷 坪敷八百坪。

東 町屋。西 道。

南 道(十間川々岸)。北 道。

東西 貳十壹間三尺七寸三分。

南北 三十七間。

深川之私共八人屋鋪拜領仕。四方間數坪敷右御繪圖之面并御定枕之通り相改相違

米倉昌明

闕所方手代八

無御座大繩ニ之請取申上爲後日仍如件。

元祿十五壬午年三月廿四日

闕所方上野武右衛門組 渡邊惣左衛門印

同 山田次太夫印

多田藤太夫組 萩原三左衛門印

同 中村新六印

水野小右衛門組 伊澤市左衛門印

同 關戸十郎右衛門印

鈴木與四右衛門組 吉田伊右衛門印

同 岡田善右衛門印

屋鋪渡預繪圖證文

元祿十五壬午年

三月四日預。田中内匠上ヶ屋敷 一虎御門外貳千三百五拾九坪

役名不知 藤堂伊豫守

三月七日預。水上作右衛門上ヶ地 一犬久保御用屋敷跡

戸田采女預地正

同日預。鈴木清内上ヶ地 一同所百貳拾坪

三月十日預。佐田玉彌上ヶ地 一元誓願寺前貳百貳拾坪四合

御天守番 市橋下總預地守

三月十三日預。曾維又左衛門上ヶ地 一内藤宿貳百貳拾坪

役名不知 依田佐五右衛門 岩本藤右衛門 兩人預地

市街充實時代

三月十三日預。
一北本所中之郷貳拾七坪八合宛
(○卷)文化十三年十二月改預替九。

役名不知

齋藤半五郎

同日預。

同

山本九兵衛

同日預。

同

神尾市太夫

三月十三日預。
一北本所二三ノ橋間通貳拾壹坪七合五勺

同

町野太郎兵衛

同日預。

同

村上治郎左衛門

一、同所四拾坪宛
(○卷)岡田傳六郎預地之方、文政十二年十月八日大網鎌之返預替。

同

岡田傳六郎

同日預。
一、同所貳拾壹坪七合五勺

同

植村五郎右衛門

同日預。屋敷臨空地
一、南本所二三ノ橋間通貳拾五坪宛

同

長谷川藤藏

同日預。同斷
一、北本所二三ノ橋間通七坪宛

同

林小左衛門

三月十三日預。
一、北本所三ノ橋通百坪

同

野澤源左衛門

同日預。
一、同所拾六坪宛

同

新井理右衛門

三月廿三日預。内藤八郎左衛門上ヶ地
一、赤坂貳百五拾八坪
○一本抹消

同

米倉長門守

三月廿四日渡。
一、深川八百坪

同

河野庄七郎

但、關所方手代八人分屋敷大繩ニテ渡ス。

同

山田次太夫

同

萩原三左衛門

同

中村新六

同

伊澤市左衛門

同

關戸十郎右衛門

同

吉田伊右衛門

同

岡田善右衛門

屋敷書拔
甘露業

一、六日○元祿十。藤堂伊豫守貞○良拜領屋布請取。

〔附記、一〕 里程書上

市街充實時代

一、二日元祿十五年三月。此度差上の諸國城下ヨリ御當地日本橋迄ノ里數、一國縮圖ノ組合、一紙ニ仕可然ノ由伺安藤筑後守元重不苦トノアイサツ也。——天享吾妻鑑

附記、一、酒造米數

〔附記、二〕 酒造米數錄上

三十日元祿十五年三月

御書付出

覺

前々酒造米之員數、御料と御代官、町方と其所之奉行入、私領と地頭より、領分きりニ改、員數無相違書付、御勘定所へ可被差出の。元祿十二年以來、酒造米不同可有之の。間、丑年寅年兩年分、年きりニ書付、可被差出の。但、丑年寅年之酒造米員數、不相知の所々、いつま之年成とも、相知次第、書付可申の。右兩年以後、酒相止の有之の共、酒造米之員數を書出可申の。跡々之酒造米書付取之と、上ニ有、當年酒造米之儀量極りの間、有躰書付可申旨、酒之者の入念申聞、無相違様ニ可致吟味の。當五月中迄之内、出來次第少も早く可差出の。委細の萩原近江守元重方へ可被承合の。以上。

午元祿十五年三月

柳營日次記

午元祿十五年四月七日。一、去ル元祿十五年四月七日。寅元祿十一年。兩年之酒造米石高、家主五人組名主致加判書上可申旨、御觸有之。

撰要永久錄

屋鋪授受

四月朔日壬子元祿十五年(紀元二二三年)三月十三日。屋鋪預有リ。外ニ是月元祿十五年(紀元二二三年)四月。

屋鋪ノ授受若干。○屋鋪渡預繪圖。證文。屋敷書拔。

屋鋪授受事蹟

屋鋪授受 元祿十五年四月左ノ屋鋪授受有リ。

圖略○

下谷七軒町六郷外記上ケ屋敷 坪數六百拾坪。内三十六坪建長屋。

東 小出伊勢守。西 道。

南 入堀。北 金田新太郎組屋敷御徒。

東 十九間五尺。西 十九間貳尺。

南 三十壹間壹尺。北 三十貳間。

六郷外記殿上リ屋敷、小出伊勢守元重の御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、并建長屋立具共、御目錄を以相改、相違無御座御預リ申の。爲後日仍如件。

元祿十五年壬午年四月朔日

小出伊勢守内 瀧 又 左 衛 門 印
佐川權左衛門 印

六郷外記上リ屋敷立具目錄

一門 引戸。但、裏門共錠鑰有。 貳枚。

一戸 但、半戸共。 六本。

市街充實時代

一、窓蓋 大小。
以上。

五枚。

元祿十五壬午年四月朔日

六郷彦四郎内
大西 只右衛門 印

圖略○

依田盛紀

裏四番町依田新五郎○盛紀屋敷建家有。 坪數七百六拾七坪。

東 多川平左衛門。西 山角内記。

南 道。北 内藤金左衛門。

東西 三十貳間四尺。

南北 貳十三間貳尺。

裏四番町荒川八之丞殿上リ屋敷、依田新五郎拜領仕い。四方間數坪數、右御繪圖之面御定
杭之通、并建長屋立具共御目錄之通相改、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年四月廿三日

依田新五郎内
榎本 折右衛門 印

水野權十郎内永田庄助。

右立合、相改渡レ之。

原五郎左衛門。中村半治。宇野小兵衛。

圖略○

生島秀福

小川町生島文右衛門○秀福屋敷 坪數貳百貳拾坪。建家有。

東 山田十太夫。西 道(幅六間)。

南 内田源助。北 竹内彌兵衛。

東西 七間貳尺。

南北 三十間。

袖岡久左衛門殿上ケ屋敷、生嶋文右衛門拜領仕い。四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之
通、并建家立具、疊長屋植木石等迄、御帳面を以相改、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年四月廿三日

生嶋文右衛門内
道嶋 儀右衛門 印

水野權十郎内中村傳右衛門。

右立合、相改渡レ之。

圖略○

芝岸町割殘地 坪數三拾坪。

東 安藤治右衛門。西 道(幅五間)。

南 赤岡金兵衛上リ屋敷。北 森市左衛門。

東西 三間。

南北 十間。

伊奈兵右衛門殿上リ屋敷之内割殘リ、森市左衛門に御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖
之面、相違無御座御預リ申い。爲後日仍如件。

市街充實時代

森市左

元祿十五壬午年四月廿七日

御留守居支配 森市左衛門印

甲斐庄喜右衛門内田邊作太夫。右立合、相改預之。

中村三左衛門。吾孫子幸右衛門。服部七右衛門。

圖略

常盤橋内松平下野守上ヶ屋敷 坪數三千六百八拾八坪。内建家八百七十式坪。

東 保田越前守役屋敷。西 内藤右近。

南 道(幅五間)御堀。北 道(幅八間)。

東 七十壹間四尺。西 二十四間三尺、四十七間。

南 三十九間、十九間一尺五寸。北 五十六間、貳尺五寸。

常盤橋内松平下野守殿上ヶ屋敷松平美濃守吉保柳澤保の御預ヶ、四方間數坪數右御繪圖之

面并建家立具疊長屋土藏植木石等迄、御帳面を以相改、相違無御座御預リ申。爲後日仍如件。

柳澤吉保

元祿十五壬午年四月廿八日

松平美濃守内 上村市郎右衛門印

吉田 九兵衛印 井口 甚太夫印

池田 才二郎印

——屋鋪渡預繪圖證文

元祿十五壬子年

四月朔日預。六郷外記上リ屋敷 一 下谷七軒町六百拾坪

小出 伊勢 預地

五月十九日萩原源兵衛に渡ス。

四月廿三日預。荒川八之丞上リ屋敷 一 裏四番町七百六拾七坪

役名不知 依田 新五郎

同日渡。袖岡久左衛門上ヶ屋敷 一 小川町貳百貳拾坪

同 生島 文右衛門

四月廿七日預。伊奈兵右衛門上リ地割殘 一 芝岸町三拾坪

御留守居支配 森市左衛門 預地

四月廿八日預。松平下野守上ヶ屋敷 一 常盤橋内三千六百八拾八坪

松平 美濃 預地 屋敷書拔

〔附記、一〕 地代店賃錄上

一十五年來町々地代店賃之高下、名主支配切可書出旨、喜多村ニ被申渡。撰要永久錄

〔附記、二〕 春米屋錄上

一、町々春米屋名前、名主支配切可書出旨、喜多村ニ被申渡。撰要永久錄

市街充實時代

一一五三

附記、一 地代店賃錄上

附記、二 春米屋錄上

將軍前田氏
邸來臨

廿六日丁丑二年元祿十五年(紀元二三六)四月○丁丑(紀元三三六)三月將軍綱吉川○德初テ金澤賀○國城主前
田綱紀加○松平ノ本郷邸本○市內ニ臨ム。妻○柳營日次記。天享吾

將軍前田氏
邸來臨事蹟

將軍前田氏邸來臨 相傳フ。

廿六日元祿十五年四月

御供揃五半時。巳后刻、松平加賀守綱紀○前田宅へ初る被爲成。

一、今朝加賀守登城。謁奏者番田村右京大夫○建退去。

一、與參、松平美濃守吉保○柳澤阿部豐後守武○正土屋相摸守直○政秋元但馬守知○喬稻葉丹後守征○正

松平右京大夫真○輝加藤越中守英○明御側青山伊賀守成○祇大久保長門守寬○教大目付仙石伯

耆守○久近藤備中守、御目付別所孫右衛門長田喜左衛門、大久保甚兵衛津田三左衛門、荒

木十右衛門、御使番赤井平右衛門、杉浦兵九郎野一色頼母、元方御納戸頭平岡市右衛門、同

組頭二人、平番三人、拂方御納戸頭飯田惣右衛門、同組頭三人、平番七人、御腰物奉行黒澤全

之助、同平番四人、與御右筆團安左衛門、井出源左衛門、松野彌右衛門、御膳奉行山下佐五右

衛門、石川甚左衛門、御賄頭小川全左衛門、大木伊兵衛、御臺所頭坂入半兵衛、佐藤彦六郎、疋

田勘左衛門、岡田三右衛門、此外進物番等相越。

一、御留守小笠原佐渡守重○長井上大和守○正

一、已上刻出御御斗目長於大廣間御車寄御乘駕。

一、御供、稻垣對馬守富○重本多伯耆守、御側衆嶋田丹波守由○利安藤出雲守富○信御書院番頭土

屋山城守、御小性組番頭戶田土佐守、御目付天野傳四郎多門傳八郎、御步行頭稻葉左衛門、

戶田喜兵衛、小十人頭神尾市左衛門、大嶋織部、中與衆、此外御近習之面々、御供勤之、御供之

面々、慰斗目半袴着之。

一、爲御迎加賀守又左衛門御斗目長御成御門之外迄罷出、但馬守御取合申上、上意有之、加

賀守又左衛門玄關上之間に立歸在之、但、上意有之、御駕籠止之、尤地不居。

一、一類共御斗目長御成御門之外迄罷出、豐後守御取合申上、上意有之、但、上意有之、御

駕籠止之、尤地不居。

一、御目見被仰付御斗目長の家來共、御成御門之外御目通不有之、披露無之。

一、御供之被召連御斗目長御譜代之面々、詰衆、奏者番、御成御門之内不在之、御目見、上意有之、但、御

譜代之面々罷在御斗目長段對馬守申上、上意有之、御駕籠不止。

一、松平讃岐守常○頼酒井雅樂頭○忠井伊掃部頭通○直堀重門之内不罷在、御目見、上意有之、但、

讚岐守雅樂頭掃部頭罷在御斗目長段對馬守申上、上意有之、御駕籠不止。

一、御駕籠不下御、加賀守御先立、又左衛門不其所不殘在之、但、加賀守より先御斗目長御側衆大

久保長門守、加賀守跡不但馬守。

一、御成廊下より表書院へ脇奥之廊下通被爲成、加賀守止り御斗目長處不上意有之、美濃守、但

市街充實時代

馬守御挨拶。

一、奥之書院上段御着座、御刀懸御褥。

御慶斗加賀守持出之、御前ニ備之、御手被爲附之。加賀守又左衛門にも御慶斗被下之、上意有之。美濃守御挨拶言上之。

但、御三方加賀守引之。

一、奥之書院ニるへ、何カ小サ刀不帶。

一、加賀守ハ被下物御成前ニ奥之書院御次之間より其次之間迄並置。但、下段敷居之内ニ之、
御襖障子越中守開之御太刀目録但馬守騎斗目長。下段中央より下へ持出之、加賀守頂戴之。御次ハ退去。御目通り之臺、進物番のしめ長引之、御襖障子越中守立之。

一、又左衛門ハ被下物是も兼ル上段脇御右之方縁ニ並置之前ニ屏風立之。其節屏風御小納戸衆引之。御勝手よりも臺一ツ進物番持出之、下段敷居之内並之。御太刀目録但馬守下段下より一疊目之上ハ持出、又左衛門頂戴之、御次ハ退去。

一、表之書院ハ宸前之廊下通出御、御先立美濃守。但、此内ニ奥書院之被下物共、御小納戸衆引之。

一、表之書院御着座。御刀懸御褥。加賀守より獻上物、出御以前より下段敷居之内ニ臺一、其外ハ御次之間より其次之間迄並置之、御太刀目録相摸守のしめ長持出、下段中央より下に置之、披露。加賀守御禮、御太刀目録奏者番のしめ長引之、御襖障子美濃守右京大夫立之。獻

上物、進物番慶斗目半上下着之引之。次又左衛門獻上物、下段敷居之内ニ臺一ツ、其外ハ敷居之外置之、御襖障子美濃守右京大夫開之。御太刀目録奏者番騎斗目長持出、下段より一疊目之上ニ置之披露。又左衛門御禮、御襖障子美濃守右京大夫立之。獻上物進物番引之、御襖障子美濃守右京大夫開之。家來共御禮申上之。太刀目録奏者番披露、但、家來之進物ハ御前ハ不出。

一、一類共一同ニ出座、御目見、上意有之。相摸守御挨拶。

一、奥之書院入御、此節御休息間ニ、松平備後守吉妻、松平右衛門督吉妻、仙溪院、松平飛騨守利松平長門守利前田采女利より差上物、御内證より加賀守又左衛門其外之面々より獻上物、御成前より並置之、御通り之節美濃守披露、奥之書院入御以後、御小納戸衆引之。

一、重ル奥之書院上段御着座、加賀守又左衛門出座、下段御向着座。

御給仕次御相伴之給仕勤ハ分、長袴着之。

御引渡。御雜煮御引渡替ル。御吸物御雜煮替ル。

御捨土器。御盃之臺。御押。

加賀守又左衛門にも引渡、雜煮、吸物出ル。加賀守給仕、又左衛門給仕、共に名欠。

御銚子。御加。

御前ハ被召上、御加有之、其御盃臺に載之、下段中央ニ御酌扣有之時、加賀守出座有る頂戴

市街充實時代

之御肴被下之後御刀御脇差被下之御右之方より豊後守尉斗目長袴着之下段中央より上は持出加賀守出座有る頂戴之御次は退刀脇差帶之御禮退座刀脇差取之出座加有之盃を持御次は退之時但馬守尉斗目長袴着取之臺に載之御酌は渡之。

御前に被召上之時加賀守出座有る御禮御肴差上之時此時加賀守より御刀御脇差獻上之御勝手之方より丹後守長袴斗目御前に持出披露上意有之直に引之御加有之其御盃臺に載之下段より少下ニ御酌扣有之時又左衛門出座有る頂戴御肴被下之後御刀被下之右の方より豊後守下段中央は持出又左衛門出座有る頂戴御次は退座刀取之出座加有之盃を持御次は退之時但馬守有之臺に載之御酌は渡之御前に被召上之時又左衛門出座有る御禮御肴差上之時此時又左衛門より御刀差上之御勝手之方より丹後守御前に持出披露上意有之直に引之御加有之其御盃加賀守へ被下御肴被下之加賀守給る相納御膳部引之加賀守又左衛門御次は退去此節七五三御本膳計下段御敷居際御目通り迄御小性衆持出加賀守出座御挨拶申上之御膳入。

一、奥書院ニ御講釋被遊加賀守又左衛門并一類共且又讃岐守雅樂頭掃部頭御譜代之面々詰衆奏者番大目付御目付御目見ニ罷出の家來共拜聞。

一、加賀守ニ講釋被仰付之。

一、於舞臺御馳走之御能三番上覽。

翁。高砂。觀世。東北。竹田權兵衛。祝言。諸橋權之進。狂言末廣か。

一、能初床机御免加藤越中守勤之。

一、御休息間に被爲入常之御膳被召上之御盃之臺出ル。

一、御休息間に加賀守又左衛門被爲召之加賀守は御茶入御手自被下之美濃守右京大夫御挨拶御次は退座又左衛門は御掛物御手自被下美濃守右京大夫御挨拶御次は退去老中ハ罷出。

一、於御次備後守妻右衛門督妻仙溪院は御内證より被下物加賀守は美濃守申渡之。

一、備後守妻右衛門督妻仙溪院は被下物以目錄加賀守は相摸守申渡之庶表書院三之間。

一、飛驒守長門守采女は被下物見物所之後ニ相摸守申渡之老中列座。

但被下物兼有る其席ニ並置。

一、家來は被下物相摸守申渡之不及列座其後頂戴之節ニ奏者番計出座。

一、表書院ニ御仕舞被遊之加賀守又左衛門并一類共且又讃岐守雅樂頭掃部頭御譜代之面々詰衆奏者番大目付御目見ニ罷出の家來共拜見加賀守又左衛門并松平安藝守長野綱

松平右衛門督松平備後守は仕舞被仰付之。

一、奥之書院上段御着座御慰斗加賀守持出御前は備之御祝被遊上意有之又左衛門も出過多還御御先立丹後守御供越中守對馬守。

一、爲御送加賀守又左衛門御成之時之通罷出丹後守御取合申上上意有之。

市街充實時代

御駕籠と、めい儀御成之時之通。

一、一類共爲御送御成之時之通罷出、豊後守御取合申上之、上意有之。

御駕籠と、めい儀御成之時之通。

一、御目見被仰付い家來共御成之時之通御目通りま在之。

一、讃岐守雅樂頭掃部頭、堀重御門之内に罷在御目見、上意無之。

一、御供被召連い御譜代之面々、詰衆奏者番御成御門之内に罷在御目見、上意無之。

一、御成御門之外より爲御使、本多伯耆守を以、加賀守又左衛門に上意有之、御成玄關にて

述之、追付登城御請申上之。

一、還御以後、加賀守又左衛門登城、於御座間御目見佐渡守御披露、御手自御履斗被下之、美

濃守老中右京大夫御挨拶。

一、相詰一類共、

松平安藝守、松平右衛門督、松平備後守、松平飛驒守、淺野土佐守、長松平長門守、前田采

女、前田隼人、利

一、御供被召連い御譜代之面々、

松平讃岐守、酒井雅樂頭、井伊掃部頭、牧野備前守、春松平遠江守、忠松浦壹岐守、久

世出雲守、重青山下野守、忠蜂須賀飛驒守、隆青山播磨守、幸松平伊賀守、忠阿

部飛驒守、正三浦壹岐守、明松平彈正忠久、正秋元伊賀守、高稻葉長門守、正

一、被下物、

眞御太刀、備前國宗、代金十七枚五兩

白銀三千枚。

時服百。

繻珍百卷。

御盃之時、船津正宗、代金貳百枚

御刀、吉光、代金三百五十枚

御脇差、師匠坊肩衝、代金三百五十枚

眞御太刀、備前長元、代金十三枚

黃金五十枚。

時服五十。

御盃之時、眞宗、代金百七十五枚

御刀、眞宗、代金百七十五枚

御掛物、卒翁筆布袋繪、代金百七十五枚

綿百把。

御文臺硯。

御文臺硯。

市街充實時代

松平加賀守に。

松平又左衛門に。

松平備後守妻に。

松平右衛門督妻に。

綿百把。

御内證より、
十炷香箱。

時服十。

同七。

同六。

一位様より、
綿三百把。

二種一荷。

御臺様より、
同斷。

五丸様より、
綿二百把。

二種一荷。

露姫君様より、
同斷。

八重姫君様より、
同斷。

一位様より、
綿二百把。

二種一荷。

御臺様より、
同斷。

五丸様より、
八重姫様より

二種一荷、
綿百把、

仙溪院。

松平飛驒守。

松平長門守。

前田采女。

松平加賀守。

松平又左衛門。

黄金十枚。

時服五。御紋附。

黄金五枚。

時服四。内、二御紋附。

黄金三枚。

時ふく四。

黄金二枚。

時服三枚。

家老 本多安房守

一門 前田主税

家老 横山左衛門

同 前田美作

同 奥村伊與

同 前田備前

家老 玉井勘解由

前田權作

不破彦三

永原左京

菊地十六郎

西尾隼人

成瀬左京

献上物、

眞御太刀。備前長光。

市街充實時代

黄金三百枚。
 時服百。
 段子五十卷。
 色繻子五十卷。
 猩々緋三十間。
 綿五百把。
 御馬一疋。鞍置。
 御盃之時、
 御刀。代金三百枚。
 御脇差。新藤五國光。代金二百枚。
 御内證より、
 御茶入。きづや肩衝。
 御懸物。徐熙筆。
 御看一箱。
 眞御太刀。助長。代金十枚。
 白銀三百枚。
 羽二重百疋。
 御盃之時、
 御刀。左文字。代金百五十枚。
 御内證より、
 御書棚。
 御看一箱。
 紗綾五十卷。

松平加賀守より。

松平又左衛門より。

御檜重一組。
 御看一箱。
 御内證より、
 御十炷香箱。
 御看一箱。
 紗綾五十卷。
 御檜重一組。
 御看一箱。
 御内證より、
 御伽羅箱。
 御看一箱。
 紗綾五十卷。
 御檜重一組。
 御看一箱。
 御内證より、
 銀御丁子金。
 御看一箱。
 御太刀金馬代。
 綿百把。
 御内證より、
 銀釣花入。
 御看一箱。
 御太刀金馬代。
 紗綾三十卷。
 市街充實時代

平松備後守妻方。

平松右衛門督妻方。

仙溪院方。

松平飛驒守方。

松平長門守方。

東京市史稿

御内證より、御檜重一組。

御看一箱。

御太刀金馬代。

御内證より、御檜重一組。

御看一箱。

一位様、白銀百枚。

紗綾百卷。

二種一荷。

御臺様、同斷。

五丸様、八重姫君様、

白銀百枚。

紗綾五十卷ツ。

二種一荷。

一位様、白銀百枚。

二種一荷。

御臺様、同斷。

五丸様、八重姫君様、

白銀五十枚。

一一六六

前田采女より。

松平加賀守より。

松平又左衛門より。

二種一荷。

時服六、銀馬代。

同五、同。

同斷ツ。

時服四、銀馬代。

時服三、銀馬代ツ。

一、所々勤番、一御歩行御道番六組、在郷番三組勤之。

御先番

市街充實時代

家老 本多安房守

一門 前田主税

家老 横山左衛門

家老 前田美作

家老 奥村伊與

家老 前田備前

家老 玉井勘ヶ由

前田權作

不破彦三

永原左京

菊地十六郎

西尾隼人

成瀬左京

御書院番頭 倉筑後守

一一六七

御成御門、居宅門前
下乘貳人

中之門、向之小路貳人
天澤寺方貳人

勝手門、下馬貳人

本郷通町屋敷、加賀守屋
敷角貳人

屋敷之内、

御小性之番頭北條右近大夫

新御番頭能勢市十郎

御持筒頭桑山志摩守

御弓頭杉浦武兵衛

御鐵炮頭鈴木三郎九郎

同赤井五郎作

御徒頭夏目藤右衛門

安藤治右衛門

金田新太郎

柳營日次記

一、廿六日元祿十五年四月今日御成ノ御道筋ハ、神田橋ヨリ昌平橋、湯島通、本郷五町目へ入セラ
ル。彼地加之輩。

杉浦藤兵衛。鈴木兵九郎。赤井五郎作。

一、御成ノ剗加賀守家來へ御目見被仰付輩、

五万三千石

一万石

二万二千石

一万七千石

二万二千石

右八家老。

五千石

三千二百石

四千五百石

三千七百石

五千石

三千石

二千五百石

右ノ分御目見被爲受。

一、御成御殿繪所ノ次第、

御殿御上段

市街充實時代

七手頭

同

同

同

同

本多安房守

前田主税

横山左衛門

奥村伊與

前田備前

若老

玉野井勘ヶ由

前田權之助

又左衛門方不破彦三

同菊地十二郎

永原左京

西尾隼人

成瀬左京

松竹梅

御下段

御次間

續溜ノ間

二ヶ所

御湯殿

續御廊下

同御廊下ニ

御書院御上段御納戸構

御下段

御三間

御溜リ

同所

同所

大溜

御休息所御下段

御次

御床後

松梅 養朴

若松 洞元

雪松 水鳥

杜丹 芙蓉

紅白梅 春笑

芙蓉 探信

眞水鳥 隨川

秋水野 柳鶯

秋野 隨川

柳鶯 隨川

荊田 鶴梅

杉松 安仙

鴈松 宗仙

芳野瀧田 永叔

若松躑躅 春悅

御溜リ

御廊下

御式臺

御溜リ

御舞臺

東方御溜リ

御廊下

御成廊下

御廊下

拜見所

御近習

御次二ヶ所

御溜リ

西方御溜リ

一、拜領ノ品、

眞御太刀備前長光代二百貫時服百トンス五十卷ヒロウト五十卷

御内證ニテ、

市街充實時代

濱松千鳥 如川

雪中花鳥 春洞

老松 探雪

松梅 探雪

老松 探雪

紅白梅 芳隣

竹椿小鳥 休碩

一葉松 柳雪

竹長春 休山

梅長春 伯厚

牡丹 良譽

梅牡丹 喜石

右若松躑躅同斷 圓俊

梅雲

御刀義弘代金三百枚御脇指會津新藤五國光。代金二百枚。御茶入。師道坊カタツキ。

右加賀守へ。

御太刀備前助長十代金十枚。黄金五十枚。時服五十。

御内證ニテ、

御刀、左文字代三千貫。御掛物變翁筆痴絶賛。

右又左衛門へ。

同。

時服十。

同。

時服七。

同六、綿百把。

加賀守家來へ被下物、

黄金十枚拾七。

同。

同。

黄金十枚拾四。

松平備後守

松平右衛門督妻

松平飛驒守

松平長門守

前田采女

仙倉院

本多安房守

前田近江守

横田山城守

前田美作守

同。

黄金三枚拾四。

同。

同。

同。

同。

同。

同。

同。

一、献上之次第、

眞御太刀。備前國宗二尺五寸。代三百五十貫。黄金三百枚、色繻子五十卷。時服百、純子五十卷、綿五百把、猩々

皮三十間御馬一匹、白月毛鞍置。

御内證ヨリ、

御刀、嶋津正宗二尺二寸七分半。代金二百枚。御脇指、吉光九寸五分。代七千貫。

右加賀守ヨリ。

眞御太刀、備前長光二尺二寸。代金十三枚。銀子三百枚、色羽二重百匹、御刀、貞宗二尺四寸五分。代三千五百貫。

右又左衛門ヨリ。

市街充實時代

奥村伊織

前田備前守

玉野井勘ヶ由

前田權之助

不破彦三

永原左京

菊地十六郎

西尾隼人

成瀬左京

御紗綾五十卷、檢重一組。
御香十種、十種香箱。
御紗綾五十卷、檢重一組。
御香十種、御伽羅一組。

松平備後守妻
松平右衛門督妻

右同斷。

御内證ニテ、

丁子釜。

金馬代綿百把。

御内證ニテ、

銀花生。

銀馬代紗綾三十卷。

御内證ニテ、

檜重一組、御香十種。

金馬代紗綾十卷。

御内證ニテ、

檜重一組、鹽鯛一箱。

一、加賀守家來献上物。

銀馬代、給六。

同 給五。

松平飛驒守人
同 松平長門守人
同 松平長門守人
同 前田采女
同 前田采女
同 同 人
本多安房守
前田近江守

同。

同 給四。

同。

銀馬代、給三。

同。

同。

同。

同。

同。

同。

同。

御能組

翁、三番三。

高砂觀世。權右衛門。

東北權兵衛。源六。

祝言吳服。

狂言、末廣ガリ。

市街充實時代

三郎右衛門。又左吉。

市九郎兵衛。庄兵衛。

彌三郎。又三郎次郎。

長右衛門。

横山山城守
前田美作守
奥村伊織
前田備前守
玉野井勘ヶ由
前田權之介
不破彦三
永原左京
菊地十六郎
西尾隼人
成瀬左京

御仕舞。

羽衣。高砂。國栖。

自然居士。

芦刈。

田村。

舟辨慶。

放下僧。

右ノ通相濟、巳ノ中刻ニ御成ナサレ、申ノ中刻ニ還御。

備	右	安	又	加
前	衛	藝	左	賀
守	門	守	衛	守
	督	守	門	守

天享吾妻鑑

屋鋪授受

五月二日癸未

元祿十五年(紀元二三〇二年)癸未(三正綜覽)

屋鋪受領者有リ。外ニ是月(元祿二十三年)

六月二年)屋鋪授受若干。屋敷書拔。寛政呈請。文。

屋鋪授受事

屋鋪授受 左ノ各屋鋪ハ元祿十五年五月ノ授受ニ係ル。

圖略。

大瀬光房

市ヶ谷長淵寺谷大瀬定右衛門光房屋鋪 坪數百拾九坪。

東 道(幅四間)。西 かけ空地壹間兩支配。

南 關口文左衛門。北 足坪百壹坪。

東 八間。西 五間。

同 足坪百壹坪。南 十八間。北 十八間四尺。

東 道(幅四間)。西 かけ空地壹間兩支配。

南 大瀬定右衛門。北 明地百貳坪。

東 貳間。西 九間四尺七寸。

南 十八間四尺。北 十七間壹尺。

市ヶ谷長延寺谷土取場跡之内ニ、六年巳前丑十一月御徒目付相勤い節屋敷坪數貳百貳拾坪之積拜領仕い所内百拾九坪同年十二月十四日中坊長兵衛殿方御渡シ、足シ坪之儀ニ御用土取拂次第重る請取申答ニ證文差出シ置い。然ル處右御用土大形取仕廻申いニ付、此度於同所爲足坪百壹坪御渡被成、四方間數坪數、御繪圖之面、傍示杭之通、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年五月二日

水野權十郎内誰。

右立合、相改渡シ之。

圖略。

堀田伊豆守正虎物揚場 坪數百貳坪。

東 道。西 塚堀。

市街充實時代

堀田正虎

御天守番七郎兵衛事
大瀬定右衛門印

南 御石置場。北 塚堀。
東西 六間。
南北 十七間。

右々南本所新大橋近所堀田伊豆守拜領屋敷西之方大川通河岸、今度伊豆守揚場奉願い。四方間數坪數、御繪圖之面、傍示杭之通、相違無御座御預り申い。何時成共、御用之節々指上可申い。右預り地之内、家作一圓仕間敷い。縦園等仕い共、見透い様輕可仕い。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年五月三日

堀田伊豆守内 倉林彦兵衛印

櫻井庄之助内鈴木源助。酒井與九郎内加島喜兵衛。

右兩人立合、相渡申い。

圖略○

市ヶ谷長淵寺谷土取場 坪數百八坪。

東 道。西 平林太郎右衛門。
南 大瀬定右衛門。北 湊源五左衛門、町田伊兵衛。
東 三間。西 八間五尺。
南 十八間壹尺。北 十八間。

右土取場道奉行衆御預りニ被成、右繪圖之通口上シ相預ケ申い。道奉行美濃部權之助家來高橋市太夫齋藤太左衛門兩人立會請取申い。已上。

道奉行

只今迄之拜領地遠方故替地奉願い覺

亥十一月

大瀬七郎兵衛

關口文左衛門

右之通組頭を以差上ケ申い。

大瀬七郎兵衛

關口文左衛門

願之通屋敷替被下い。所之儀々追多可相達い。右之通り子十月三日秋元但馬守殿被仰渡い。旨、水野權十郎殿、赤井平右衛門殿被仰渡い。

一、丑十一月毎度申上い。通り市ヶ谷土取場拜領仕度旨、繪圖を以大瀬七郎兵衛、關口文左衛門願上申い。

一、丑十一月廿二日秋元但馬守殿、米倉丹後守殿、永野權十郎殿に被仰渡い。繪圖ヲ以て願之通御屋敷被下い旨、被仰渡い。

一、丑十二月十四日中坊長兵衛殿方請取申い。右之土取場道奉行衆方之御用明キ不申い。土取明場三百坪餘有之い間、繪圖之内捨り地共ニ貳百貳拾坪文左衛門請取申い。

殘り百拾坪餘七郎兵衛請取申い。尤中坊長兵衛殿に證文ニ差御用土取仕廻、重多足シ坪御渡可被成旨、加筆有之、請取申い。已上。

午四月

關口文左衛門
大瀬定右衛門
七郎兵衛印

圖略○

市街充實時代

關口正知

(朱書)元祿十之方ニ、本證文有之。

市谷長淵寺谷關口文左衛門^知。屋敷 坪數貳百貳拾坪。

東 道。西 靱山源右衛門。

南 杉山久助。北 大瀬七郎兵衛。

東 十間四尺三寸。西 十三間三尺壹寸。

南 十八間貳尺。北 十八間。

市ヶ谷長淵寺谷土取場跡之内ニ、今度屋敷拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面傍示杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

元祿十丁丑年十二月十四日

御徒目付

關口文左衛門 印

中坊長兵衛内大東竹右衛門。

右立合、相改渡之。

圖略。

(朱書)元祿十之方ニ、本證文有之。

市谷長淵寺谷大瀬七郎兵衛^房。屋敷 坪數百拾九坪。

東 道(幅四間)。西 明地。

南 關口文左衛門。北 土取場。

東 八間。西 五間。

南 十八間。北 十八間四尺。

大瀬光房

本多助芳

市ヶ谷長淵寺谷土取場跡之内ニ、今度屋敷坪數貳百貳拾坪拜領仕。内百拾九坪只今御渡シ被成。四方間數坪數、右御繪圖之面傍示杭之通、相違無御座請取申。御用土取仕廻、重る足シ坪御渡可被成。爲後日仍如件。

元祿十丁丑年十二月十四日

御徒目付

大瀬七郎兵衛 印

中坊長兵衛内大東竹右衛門。

右立合、相改渡之。

圖略。

三番町通本多若狹守^房。屋敷 坪數二千三百坪。

東 道。西 道。

南 割餘リ。北 道。

東 四十八間貳尺。西 四十八間。

南 五十四間。北 五十四間。

本多若狹守麻布屋敷差上、爲代地如願三番町通馬場前明地之内ニ、屋敷拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年五月十日

本多若狹守内

杉江與左衛門 印

水野權十郎渡之。

圖略。

市街充實時代

下谷七軒町萩原源兵衛屋敷 坪數六百拾坪。建長屋有。

東 小田伊勢守。西 道。

南 入堀。北 金田新兵衛。

東 十九間五尺。西 十九間四尺。

南 三十壹間壹尺。北 三十貳間。

市ヶ谷南寺町萩原源兵衛屋敷上ハ爲代地。下谷七軒町六郷外記殿上リ屋敷願之通り今度拜領仕ハ。四方間數坪數右御繪圖之面傍示杭之通并建長屋立具等迄御目錄を以相改相違無御座請取申ハ爲後日仍如件。

元祿十五壬午年五月十九日

萩原源兵衛内 澤地 儀 右衛門 印
平野善三郎。原五郎左衛門。中村半治郎。

水野權十郎渡之。

圖略○

小石川火之番町木村小左衛門屋敷 坪數貳百貳拾坪。

東 土屋友右衛門。西 坂部勝次郎。

南 岡安利右衛門。北 道。

東西 貳十四間五尺。

南 九間壹尺。北 八間三尺五寸。

小石川火之番町後藤長助上ヶ地。今度私拜領仕ハ。四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之

通相違無御座請取申ハ爲後日仍如件。

元祿十五壬午年五月十九日

二之丸火之番 木村 小左衛門 印

水野權十郎内永田庄助。

右立合、相改渡之。

清水喜兵衛。吾孫子幸右衛門。中村三右衛門。

圖略○

下澁谷本多若狹守上ヶ地 坪數三千坪。

張札屋敷廻リ松杉檜之苗木貳百本程有之ハ。

東 山口修理。西 道。

南 森對馬守。北 道、山口修理。

東 七十六間九寸。西 八十七間九寸。

南 三十間。北 三十間。

下澁谷本多若狹守殿上ヶ地、山口修理。○弘に御預被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座御預ケ申ハ爲後日仍如件。

元祿十五壬午年五月廿一日

山口修理内 上原 權右衛門 印
岩倉 理兵衛 印

水野權十郎内永田庄助。

右立合、相改預之。
平野善三郎、吾孫子幸右衛門、安川善太夫、中村半治
右立合、相改預之。

萩野清貞

萩野小左衛門^清屋敷 坪數三百坪。

圖略○

東 道。西 明地。

南 明地。北 小間遣屋敷。

東西 十六間貳尺。

南北 十八間貳尺貳寸。

右者於北本所二三之橋間通、今度萩野小左衛門御屋敷就拜領仕、四方間數坪數傍示杭之通、御繪圖之面、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

元祿十五壬午年五月廿一日

萩野小左衛門内
坪井善右衛門 印

水野權十郎、櫻井庄之助。

圖略○

町野平十郎^幸屋敷 坪數五百坪。

町野幸次

東 道。西 道。

南 明地。北 金田小太郎。

東西 十九間壹尺八寸。

南北 貳十五間五尺四寸。

右者於北本所三四之橋間通、今度町野平十郎御屋敷拜領仕、四方間數坪數傍示杭之通、御繪圖之面、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

元祿十五壬午年五月廿一日

町野平十郎内
中谷七郎左衛門 印

水野權十郎、櫻井庄之助、酒井與九郎。

右三人立合相渡ス。

圖略○

茗荷谷近所万年七郎右衛門^忠屋敷 坪數貳百三坪。

万年賴忠

東 道。西 榑原左平太。

南 良念寺。北 道。

東 十貳間五尺。西 十五間。

南 十六間貳尺。北 十三間五尺。

茗荷谷近所今井九右衛門殿御代官所之内、今度願之通り万年七郎右衛門屋敷拜領仕、付御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通り、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

元祿十五壬午年五月廿二日

万年七郎右衛門内
森田忠 助 印

市街充實時代

水野權十郎渡之。

服部七右衛門。清水喜兵衛。中村三左衛門。

右屋敷境、如先規、御定杭之通、紛無御座い。爲後日仍如件。

法傳寺末

良

念

寺印

榊原左平太内

竹内

治

右衛門印

右々今井九右衛門支配所之内、今度拜領屋敷御渡被成、間數坪數相違無御座い。爲後日仍如件。

今井九右衛門内

山口

仙

右衛門印

圖略○

小石川御殿近所梶助右衛門忠屋敷 坪數三百坪。

東 加々美權七郎。西 内藤孫十郎。

南 薦木甚五兵衛。北 道。

東西 十六間。

南北 十八間四尺五寸。

小石川御殿近所細井助九郎殿抱屋敷上り地之内ニ、梶助右衛門屋敷拜領仕い。四方間數坪數、右御繪圖之面、傍示杭之通、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年五月廿二日

梶助右衛門内

谷

左

衛門印

梶正忠

水野權十郎渡之。

宇野小兵衛。安川善太夫。市川三十郎。

圖略○

番町小林平次郎忠屋敷 坪數三百坪。

東 道。西 なき、割餘り地。

南 なき。北 道。

東 六間三尺。西 十間五尺七間。

南 二十壹間四尺六間四尺。北 二十九間。

番町明地之内、願之場所ニ、小林平次郎屋敷拜領仕い。四方間數坪數、右御繪圖之面、傍示杭之通、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年五月廿三日

小林平次郎内

須藤

源

五左衛門印

水野權十郎渡之。

清水喜兵衛。宇野小兵衛。市川三十郎。

圖略○

愛宕下吉田盛方院上ヶ屋敷 坪數四百六拾八坪。内、貳百七拾壹坪建家有。

東 土岐寛菴。西 道。

南 道。北 河野松菴。

市街充實時代

小林正休

東西 二十四間。
南北 十九間三尺。

愛宕下吉田盛方院殿上リ屋敷有馬左衛門佐純御預ケ被成四方間數坪數右御繪圖之面并建家立具疊長屋土藏植木石等迄御帳面を以て相改相違無御座御預申純爲後日仍如件。

有馬清純

元祿十五壬午年五月廿五日

水野權十郎内永田庄助。
右立合相改預之。

有馬左衛門佐内
堀江源太左衛門 印

吉田盛方院上リ屋敷建家立具疊植木石目錄

- 一、裏門戸 但、錠鑰有。 壹枚。
- 一、戸 但、半戸共。 百五十五本。
- 一、障子 但、半障子共。 百貳拾貳本。
- 一、襖 但、小窓共。 九十八本。
- 一、疊 但、半疊共。 貳百貳十九疊。
- 一、梯子 大小。 拾貳挺。
- 一、植木 大小。 四十九本。
- 一、石手水鉢 大小。 四ツ。

- 一、石燈籠 大小。 三ツ。
- 一、飛石 大小。 十五。
- 一、石 大小。 百六ツ。

以上。

午元祿十五年五月廿五日

屋鋪渡預繪圖證文

元祿十五壬午年

五月二日渡。土取揚跡之内
一市ケ谷長淵寺谷百壹坪

御天守番
大瀬定右衛門

但、御徒目付相勤ハ節、元祿十七年致拜領ハ貳百貳拾坪之内、同年十二月十四日百拾九坪相渡、殘坪之儀、御用土取仕廻次第重可相渡旨證文いとし置ハ付、右殘坪不殘渡ス。

五月三日渡。
一南本所新大橋近所新規物揚場地所百貳坪

堀田伊豆守
本多若狭守

五月十日渡。馬場前地之内
一三番町通貳千三百坪

同役名不詳
萩原兵衛

五月十九日渡。六郷外記上リ屋敷
一下谷七軒町六百拾坪

二丸火之番
木村小左衛門

五月十九日渡。後藤長兵衛上リ地
一小石川火之番町貳百貳拾坪

一一八九

市街充實時代

五月廿一日預。本多若狹守上ヶ地
一、下灘谷三千坪
一本ニ但、屋鋪廻リ松杉檜之苗木貳百本程有之。

山口修
預地。

五月廿一日渡。
一同所^北所二三ノ橋間通三百坪

荻野小左衛門
役名不詳

五月廿一日渡。
一同所三四ノ橋間通五百坪

町野平十郎
役名不詳

五月廿二日渡。今井九右衛門御代官所之内
一、茗荷谷近所貳百三坪

梶助右衛門
役名不詳

同日渡。細井助九郎御代官所之内
一、小石川御殿近所三百坪

小林平次郎
役名不詳

五月廿三日渡。明地之内
一番町三百坪

有馬左衛門
預地。

五月廿五日預。吉田盛方院
一、愛宕下四百六拾八坪

屋敷書拔

○朱
當六月六日武田織部に渡ス。

屋敷書拔

神保元茂

元茂^{初茂治。又茂隆幼左吉。後主膳。}
○神保。

同^元。十丁丑年五月十九日屋鋪御用ニ付被召上替地虎ノ御門内戸田能登守殿屋敷被下置旨、戸田山城守殿被仰渡、同十五年八月十日南本所鍋嶋紀伊守屋敷ニ相對替願之通被仰付旨、稻垣對馬守殿被仰渡。
——寬政呈譜

屋鋪授受

六月四日甲寅^{元祿十五年(紀元二三〇)甲寅、三正綜覽。}屋鋪受領者有リ。外ニ是月^{元祿十五年(紀元二三〇)}

六月二年)屋鋪ノ授受若干。○寬政呈譜。屋鋪渡預。繪圖證文。屋敷書拔。

屋鋪授受事
蹟
稻葉正直

屋鋪授受 元祿十五年六月左ノ屋鋪授受有リ。

正直^{從五位下。下野守。初河内守。幼名大經。}
○稻葉。

一、同^元。十五午年六月四日、兼々願之通番町御堀端ニ有屋敷拜領仕。但、於本所屋敷拜領仕得共、遠方故御振替之儀、奉願いニ付、被仰付い。

——寬政呈譜

圖○

新黒銀三
十六人

麻布白銀新黒銀三拾六人分屋敷 坪數貳千五百貳拾坪。壹人ニ付七十坪宛。

東 道三ツマタ。西 道。

南 割殘リ。北 道。

東南へ 三十七間。西 十九間五尺八寸八分。

南 百十壹間三尺。北 百四十四間。

同 新黒銀四拾人分屋鋪 坪數貳千八百坪。

東 道。西 道。

南 道。北 道。

東 貳十三間半。西 貳十壹間三尺。

南 百四十四間三尺。北 百三十貳間三尺。

市街充實時代

麻布白金明地之内、願之場所新黒鉄七十六人之屋敷壹人前七拾坪宛之積リ大繩之御渡被成、四方間數坪數右御繪圖之面傍示杭之通り、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

元祿十五壬午年六月四日

新黒鉄組頭
吉田次郎右衛門印
同
鵜野澤庄兵衛印

甲斐庄喜右衛門内岡直右衛門。
右立合、相改渡之。

宇野小兵衛。安川善太夫。中村半太夫。

圖略。

小宮山長
寬

神田佐柄木町小宮山孫十郎長屋敷 坪數貳百坪。建家有。

東道。西 荒川土佐守。

南道。北 中津三左衛門。

東 十貳間五尺。西 十貳間三尺五寸。

南 十六間五寸。北 十五間三尺。

伊藤助十郎殿上ヶ屋敷、小宮山孫十郎拜領仕、四方間數坪數、右御繪圖之面、并建家立具、疊長屋土藏植木等迄、御目錄を以相改、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

元祿十五壬午年六月五日

小宮山孫十郎内
中村次右衛門印

圖略。

武田信興

愛宕下武田織部信屋敷 坪數四百六十八坪。建家有。

東 土岐寬菴。西 道。

南 道。北 河野松菴。

東西 貳十四間。

南北 十九間三尺。

吉田盛方院上リ屋鋪、武田織部拜領仕、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、并建家立具、疊長屋土藏植木石等迄、御目錄ヲ以相改、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

元祿十五壬午年六月六日

武田織部内
友野紋右衛門印

圖略。

番町割殘リ 坪數百貳拾四坪。

東 淺羽治右衛門。西 道。

南 淺羽治右衛門。北 山名佐兵衛。

東 十五間貳尺。西 十七間四尺五寸。

南 七間五尺。北 八間四尺。

番町淺羽治右衛門常。眞屋敷西之方割殘地、則治右衛門に御預ヶ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座預リ申、勿論小屋掛等仕間敷、爲後日仍如件。

元祿十五壬午年六月七日

淺羽治右衛門内
高橋半右衛門印

市街充實時代

淺羽貞常

水野權十郎内中村傳右衛門。
右立合、相改預之。

平野善三郎。吾孫子幸右衛門。安川善太夫。

圖略○

番町淺羽治右衛門預リ地 坪數百貳拾四坪。

東 淺羽治右衛門。西 道。

南 道。北 山名左兵衛。

東 十五間貳尺。西 十七間四尺五寸。

南 七間五尺。北 八間四尺。

同 割殘淺羽治右衛門預地 百貳拾四坪。

東 山名左兵衛。西 淺羽治右衛門。

南 道。北 山名佐兵衛。

東 十五間。西 十七間三尺。

南 八間四尺。北 七間四尺。

番町淺羽治右衛門東之方預リ地。西之方拜領地之内、御割替奉願い處、願之通拜領仕い。則繰替御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年六月七日

淺羽治右衛門内
高橋半右衛門印

新見隆屋

圖略○

二番町通新見忠右衛門^{屋敷}屋敷 五百坪。

東 森本市右衛門。西 道。

南 道。北 本多若狭守。

東 十八間三尺貳寸。西 貳十壹間。

南 三十間。北 貳十四間。

同 森本市右衛門^武屋敷 坪數五百坪。

東 道。西 新見忠右衛門。

南 道。北 本多若狭守。

東 貳十壹間。西 十八間三尺貳寸。

南 貳十四間。北 三十間。

新見忠右衛門、森本市右衛門元屋敷差上、今度二番町通明地之内、如願之屋敷拜領仕い。四方間數坪數、右御繪圖之面、傍示杭之通、相違無御座、請取申い爲後日仍如件。

元祿十五壬午年六月七日

新見忠右衛門内
稻子安右衛門印

市街充實時代

水野權十郎渡之。

服部七右衛門。宇野小兵衛。原五郎左衛門。

圖略。

福王信傍

二番町通福王市左衛門。屋敷。坪數四百六拾坪。

東道。西明地。

南明地。北稻葉河内守。

東西十六間三尺八寸ヨ。

南北二十七間三間八寸ヨ。

同 稻葉河内守。屋敷。坪數九百坪。

東道。西松田善右衛門。

南福王市左衛門。北脇坂甚兵衛。

東西三十三間。

南北二十七間一尺六寸ヨ。

松田勝廣

同 松田善右衛門。屋敷。坪數七百坪。

東稻葉河内守。西道。

南明地。北内藤十郎兵衛。

脇坂安通

同 脇坂甚兵衛。屋敷。坪數千坪。

地形惡敷ニ付御斷申上差上之間。同月十三日請取申。

東道。西内藤十郎兵衛。

南松田善左衛門。北割殘リ。

東西三十三間。

南北三十壹間一尺八寸餘。

内藤貞次

同 内藤十郎兵衛。屋敷。坪數六百坪。

東脇坂甚兵衛。西道。

南松田善左衛門。北割殘リ。

東西三十三間。

南北十八間一尺一寸。

裏行短キ由ニ付。同月十三日割替相渡之。證文取替申。

稻葉河内守脇坂甚兵衛松田善右衛門内藤十郎兵衛福王市左衛門元屋敷差上ケ。今度貳番町通明地之内ニ多如願之屋敷拜領仕。四方間數坪數。右御繪圖之面。傍示杭之通。相違無神座銘々請取申。爲後日仍如件。

市街充實時代

元祿十五壬午年六月七日

脇坂甚兵衛内
 杉本 加助 印
 内藤十郎兵衛内
 柏崎平次右衛門 印
 水野權十郎渡之
 宇野小兵衛。原五郎左衛門。吾孫子幸右衛門。清水喜兵衛。
 稻葉河内守内
 加川又兵衛 印
 松田善右衛門内
 桐源五右衛門 印
 福王市左衛門内
 蘭部奎右衛門 印

圖略○

小川町生嶋文右衛門上ヶ屋敷

坪數貳百貳拾坪。内建家七拾五坪。

東西 七間貳尺。
南北 三十間。

生島文右衛門殿上ヶ屋敷。松平對馬守○近御預被成。四方間數坪數。右御繪圖之面。并建家立具。疊長屋土藏。植木石等迄。御帳面を以相改。相違無御座御預リ申。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年六月十日

生島文右衛門上ヶ屋敷立具疊植木石目錄

- 一、門引戸 但、くゝ戸共。 貳枚。
- 一、戸 但、半戸共。 五拾六本。
- 一、障子 但、半障子共。 十四本。

- 一、疊 但、半疊共。 七十壹疊。
 - 一、襖 但、小襖共。 十本。
 - 一、植木 但、大小。 十三本。
 - 一、石 但、大小。 貳十壹。
- 以上。

圖略○

赤坂辻番所 坪數壹坪貳合五勺。

東 鈴木源左衛門組。西 道。
 南 内藤八郎左衛門上ヶ地。北 道。
 東北 三尺。西南 三尺。
 南東 二間三尺。西北 二間三尺。

赤坂靈仙院様御上ヶ地之内新道米倉長門守竹腰近江守井上佐太夫組合辻番所。願之通リ御廣ヶ被成。間數坪數。右御繪圖之面。相違無御座請取申。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年六月十日

竹腰近江守内
 市川 武兵衛 印
 米倉長門守内
 杉原 勘太夫 印
 井上佐太夫内
 山本 三右衛門 印
 甲斐庄喜右衛門内岡直右衛門。
 平野善三郎。原五郎左衛門。中村三右衛門。

右立合、相改渡之。

圖略○

赤坂築地松田善右衛門上ヶ地割殘 坪數貳百五拾五坪。松平新平（○乘馬）兩人預之。

東 松平新平。西 道。
南 服部忠左衛門。北 道。

東 十貳間五尺。西 十三間四尺。
南 貳十壹間三尺。北 十九間壹尺。

同 服部忠左衛門屋敷 坪數貳百五十五坪。

東 松平新平。西 道。
南 松平伊左衛門。北 割殘松平兩人預地。

東 十壹間四尺。西 十貳間。
南 貳十四間。北 貳十壹間三尺。

赤坂築地松田善右衛門殿上ヶ地、松平伊左衛門、松平新平兩人に御預ヶ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座御預リ申（○）。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年六月十日

松平伊左衛門内 泉 彌市右衛門（○）印
松平新平内 川 野 庄 太 夫（○）印

圖略○

酒井市三郎屋敷 坪數四百坪。

東 道。西 明地。
南 織田左兵衛。北 留岡平左衛門。

東 西 十六間。
南北 貳十五間。

右考於北本所二三之橋間通、今度酒井市三郎御屋敷就拜領仕（○）、四方間數坪數、傍示杭之通御繪圖之面、相違無御座請取申（○）。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年六月十二日

酒井市三郎内 前田 忠 左 衛 門 印
奥田八郎右衛門、櫻井庄之助、酒井與九郎。
右三人立合相渡ス。

圖略○

二番町通内藤十郎兵衛次（○）屋敷 坪數六百坪。

東 明地。西 道。

市街充實時代

南 松田善右衛門。北 明地。
東 貳十八間一尺七寸。西 同上。
南北 貳十壹間壹尺貳寸ヨ。

内藤十郎兵衛市ヶ谷加賀屋敷之内元屋敷差上、願之通番町明地之内ニ多屋敷拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面、傍示杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年六月十三日

内藤十郎兵衛内
柏崎平次右衛門 印

水野權十郎内中村傳右衛門。
右立合、相改渡之。

平野善三郎。清水喜兵衛。吾孫子幸右衛門。

圖略○

番町ふまき地。

東 小林平次郎。西 青柳伊織。
南 安西彌十郎。北 割残り。

東 安西彌十郎ト小林平次郎之間などま貳間三尺。

南 貳十四間壹尺。北 貳十壹間四尺。

北へ 小林平次郎ト青柳伊織之間などま。

東 十間五尺、六間四尺。西 十七間一尺。西北へ 貳間三尺。

安西彌十郎政。青柳伊織。屋敷續ふまき之所、兩人の御預被成、四方間數坪數、右御繪

安西元政
青柳正勝

圖之面、相違無御座御預リ申。勿論小屋掛等も仕申間敷。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年六月十三日

安西彌十郎内
井上又兵衛 印

青柳伊織内
松本儀右衛門 印

水野權十郎内中村傳右衛門。

右立合、相改預之。

平野善三郎。清水喜兵衛。吾孫子幸右衛門。

圖略○

西丸下依田新五郎上ヶ屋敷 坪數三百坪。建家有。

東 道。西 松浦藤五郎。

南 道。北 加藤源太左衛門。

東西 貳十五間五尺。

南 十貳間壹尺五寸。北 十壹間。

西之御丸下依田新五郎殿上ヶ屋敷、柳生備前守の御預被成、四方間數坪數、右御繪圖

之面、并建家立具疊長屋土藏植木石等迄、御目錄を以相改、相違無御座御預リ申。爲後日、

仍如件。

元祿十五壬午年六月十五日

柳生備前守内
物集女 藤右衛門 印

甲斐庄喜右衛門内岡直右衛門。

市街充實時代

柳生俊方

右立合、相改預_レ之。

市川三十郎。宇野小兵衛。平野善三郎。

圖略○

依田新五郎上屋鋪

一、長屋二間半、梁十壹間半 但、二階こけら。

長屋戸障子員數

一、表門扉 但、くゝ？ 鎚共。

貳枚。

一、表門挽戸

壹枚。

一、表通窓戸

十四本。

一、内窓戸

但、聖窓四ツ。

七本。

一、出格子

但、戸四本。

三ヶ所。

一、障子

壹本。

一、馬屋

但、大戸くゝ？。

壹ヶ所。

一、表門番所戸

貳本。

一、雪隠 右合戸障子三十三本。内、障子壹本。

貳ヶ所。

一、本屋疊

百十五疊。

本屋戸障子員數

一、玄關まゝら戸 但、外障子貳本。

四本。

一、障子

四十七本。

一、唐紙小襖障子

三十六本。

一、雨戸

拾九本。

一、窓

但、兩所。

貳ヶ所。

一、押入戸

但、戸貳本。

四本。

一、踏次土戸

但、内引出シ高六寸ノ戸貳寸。

五本。

一、土藏

但、貳間四間_毛戸壹本。

壹ツ。

一、井戸

但、蓋共。

三ツ。

一、春屋

但、貳間梁三間。

壹ヶ所。

一、湯殿

但、貳間梁三間。

壹ヶ所。

一、雪隠

但、戸附。

四ヶ所。

一、石

但、戸附。

貳ツ。

一、植木

但、戸附。

四本。

右合戸障子百貳拾三本。

市街充實時代

惣ノ

戸 大小。

障子 百十七本。

唐紙襖障子 三十六本。

疊 大小。 四十本。

右之通御座ハ以上。 百十五疊。

午〇元祿十五年六月十五日

依田新五郎内 岡本兵右衛門 印

圖略〇

小石川築地齋藤甚助上リ屋敷 坪數三百九坪。

東 宅間庄三郎。西 井出藤九郎。

南 道。北 齋藤小三郎。

東 貳十六間貳尺。西 貳十七間貳尺五寸。

南 十壹間貳尺五寸。北 十壹間壹尺五寸。

小石川築地齋藤甚助殿上リ屋敷宅間庄三郎喜井出藤九郎兩人ハ御預ケ被成ハ四方

間數坪數右御繪圖之面相違無御座御預リ申ハ勿論小屋掛等も仕間敷ハ爲後日仍如件。

元祿十五壬午年六月廿日

宅間庄三郎内 平松 與兵衛 印

宅間憲喜 井出藤九

井出藤九郎内 谷庄兵衛 印

水野權十郎内中村傳右衛門。

右立合、相改預レ之。

圖略〇

小川町三好一平上ケ屋敷 坪數六百七十四坪。内、建家百九十八坪。

東 土岐出羽守、畠山下總守。西 道。

南 半井爐菴。北 森與五左衛門。

東 三十六間貳尺。西 三十三間、貳間一尺。

南 十九間。北 十間五尺、九間一尺。

三好一平殿上ケ屋敷内藤駿河守枚ハ御預ケ被成、四方間數坪數右御繪圖之面并建家

立具疊長屋土藏植木石等迄御帳を以相改、相違無御座御預リ申ハ仍如件。

元祿十五壬午年六月廿日

内藤駿河守内 川西 左次右衛門 印

三好一平上リ屋敷立具目錄

一、門扉 但、くゞ共錠鑰有リ。三枚。

一、戸 但、半戸共。百拾壹本。

一、障子 但、半障子共。四十四本。

一、襖 但、小襖共。四十壹本。

市街充實時代

内藤清枚

- 一、壘 但、半壘共。 百九十壘。
- 一、植木 但、大小。 百三十五本。
- 一、石 但、大小。 五十壹。
- 一、梯子 但、大小。 三挺。
- 以上。

元祿十五壬午年六月廿日

圖略○

小石川龍慶橋三橋佐左衛門上り屋敷

坪數五百六拾七坪。内、建家百八十四坪。

東 本多主殿。西 道。

南 大屋雲四郎。北 三井吉三郎。

東 十七間五尺。西 十七間四尺。

南 三十壹間四尺。北 三十三間三尺。

三橋佐左衛門殿上り屋敷、内藤伊織○忠に御預ヶ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、并建家立具壘長屋土藏植木石等迄、御帳面を以相改、相違無御座御預り申い。仍如件。

元祿十五壬午年六月廿二日

内藤伊織内 柳澤彦兵衛印

三橋佐左衛門上り屋敷立具壘植木目錄

一、門扉

但、錠錠有りと。
但、錠錠ととも。

三枚。

- 一、戸 但、半戸共。 百四本。
- 一、障子 但、半障子共。 三十八本。
- 一、襖 但、小襖共。 三十三本。
- 一、壘 但、半壘共。 百五十九壘。
- 一、植木 大小。 四十七本。
- 以上。

元祿十五壬午年六月廿二日

圖略○

北本所三四之橋淺野内匠○長上り家

坪數田舍間貳千三百拾四坪九合餘。

建家百六拾八坪七合五勺。

北東長屋百貳拾六坪。

土藏十貳坪。

馬屋拾坪。

建家都合三百拾六坪七合五勺。

東 田舍間五十間五尺貳寸。西 同上。

南 同四十五間三尺ヨ。北 四十五間三尺ヨ。

右淺野内匠上り家、今度丹羽和泉守○氏に被下置、御繪圖之面相違無御座請取申い。文○下

市街充實時代

照爲後日仍如件。

元祿十五壬午年六月廿五日

丹羽和泉守内

鈴木

新藏印

水野權十郎。櫻井庄之助。酒井與九郎。
右三人、立合渡之。

圖略○

佐竹壹岐守^長義屋敷 坪數貳千七百坪。

東 割殘地。西 内藤捨五郎。

南 明地。北 道。

東西 五十貳間三尺八寸。

南北 五十壹間壹尺七寸ヨ。

右悉於北本所三四之橋間通。今度佐竹壹岐守御屋敷就拜領仕、四方間數坪數、傍示杭之通、御繪圖之面、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

元祿十五壬午年八月廿六日

佐竹壹岐守内

高根

彦七印

甲斐庄喜右衛門。櫻井庄之助。酒井與九郎。

右三人、立合相渡之。

圖略○

二番町通戶田六兵衛^由屋鋪 坪數五百坪。

戶田由勝

美濃部茂濟

圖略○

二番町通美濃部彦左衛門^茂屋敷 坪數七百七拾壹坪六合。

東 道。西 内藤十郎兵衛。

南 稻葉河内守。北 割殘リ。

東西 十八間壹尺七寸ヨ。

南北 十七間壹尺六寸ヨ。

美濃部彦左衛門^茂。四番町屋敷差上、爲代地番町脇坂甚兵衛殿上ヶ地之内ニ願之通、屋敷拜領仕、四方間數坪數、右御繪圖之面、傍示杭之通、相違無御座請取申、爲後日仍如

市街充實時代

戶田六兵衛千駄ヶ谷御鹽硝藏跡元屋敷差上、願之通リ番町明地之内御引替屋敷拜領仕、四方間數坪數、右御繪圖之面、傍示杭之通、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

元祿十五壬午年六月廿七日

酒井右京亮組與頭戶田六兵衛内

平井嘉右衛門印

甲斐庄喜右衛門渡之。

服部七右衛門。清水喜兵衛。中村半治。原五郎左衛門。

件。

元祿十五壬午年六月廿七日

甲斐庄喜右衛門渡之。

服部七右衛門。清水喜兵衛。中村半治。原五郎左衛門。

二條御裏御門番頭美濃部彦右衛門内
小川安兵衛印

石井宗故

圖略○

芝岸町石井宗故屋敷 坪數百五拾坪。

東 安藤治右衛門。西 道。

南 町屋。北 割殘。

東 十間。西 十五間。

南北 十間。

芝岸町赤岡金兵衛殿上リ屋敷、今度願之通拙者拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面、傍示杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年六月廿九日

甲斐庄喜右衛門内岡直右衛門。

右立合、相改渡之。

御表具師
石井宗故印

服部七右衛門。中村三左衛門。清水喜兵衛。

圖略○

本多忠常

筋違橋外丹羽和泉守殿上ケ屋敷

坪數貳千貳百六拾五坪。内、建家千五十七坪。

東 杉浦内藏之丞。西 道。

南 道。北 本多五郎右衛門、遠藤主膳、中山下野守。

東 貳十六間五尺。西 三十貳間。

南 七十七間四尺。北 七十六間貳尺。

丹羽和泉守殿上ケ屋敷、本多能登守^{○忠}御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、并建家立具疊長屋土藏植木石等迄、御帳面を以相改、相違無御座御預ケ申。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年六月廿九日

本多能登守内

西山全右衛門印

水野權十郎内永田庄助。

右立合、相改預之。

丹羽和泉守上ケ屋鋪建具疊植木石目錄

一、門扉 但、^{く、記共。}錠^{有リ。}六枚。

一、戸 但、半戸共。三百八十四本。

一、障子 但、半障子共。三百三拾□本。

一、襖 但、小襖共。九

一、疊 但、半疊共。九百八十壹疊。

一、植木 但、大小。九十六本。

市街充實時代

一、石 但、大小。

七拾八。

一、梯子 但、大小。

四ツ。

一、石燈籠 但、大小。

壹ツ。

一、手水鉢 但、大小。

九挺。

元祿十五壬午年

屋鋪渡預繪圖證文

六月四日渡。明地之内
一、麻布白金五千三百貳拾坪

新黒 欽 者 次郎 一本 新黒 野澤 兵衛 七拾 六人 分屋敷

但、壹人ニ付七拾坪宛七拾六人分大繩ニテ渡ス。

六月五日渡。秋山一齋上ケ地并長谷川正悦上ケ地割殘

役名不知 水上 作 右衛門

一、赤坂百貳拾坪

當七月五日渡替ニ相成消印。

同日渡。伊藤助十郎上ケ屋敷
一、神田佐柄木町貳百坪

小宮山 孫十郎

六月六日渡。吉田盛方上ケ屋敷
一、愛宕下四百六拾八坪

武 田 織 部

六月七日渡。
一、番町四百坪

淺羽 治 右衛門

但、東之方御預地下西之方拜領地之内ト願之通割替渡。

同日預。
一、同所百貳拾四坪

右 同 預地人

六月七日渡。明地之内
一、二番町五百坪宛

但、元屋敷差上爲代地被下。

役名不知 新見 忠 右衛門

同日渡。同斷
一、同所九百坪

同 稻 葉 河 内 守

但、右同斷。

同日渡。同斷
一、同所七百坪

同 松 田 善 右衛門

但、右同斷。

同日渡。同斷
一、同所四百六拾坪

同 福 王 市 左衛門

但、右同斷。

六月十日預。生島文右衛門上ケ屋敷
一、小川町貳百貳拾坪

松 平 對 馬 預地守

同日渡。
一、赤坂壹坪貳合五勺

但、靈仙院様御上ケ地之内、新道辻番所増地所ニ渡ス。

米 倉 長 門 守

竹 腰 近 江 守

井 上 左 太 夫

役名不知 松 平 伊 左衛門

六月十日預。松田善右衛門上ケ地割殘
一、赤坂築地貳百五拾五坪

市街充實時代

六月十二日渡。
一、同所三ノ橋間通。四百坪
六月十三日渡。明地之内
一、二番町通。六百坪

同(〇)役名不詳
酒井市三郎
同(〇)役名不詳
内藤十郎兵衛

但、市ヶ谷加賀屋敷差上爲代地被下。
同日預。彌十郎、伊織兩人屋敷續ふ。とま之所。
一、番町坪數不知。町百坪番。

同
安西彌十郎

六月十五日預。依田新五郎上ヶ屋敷
一、西丸下。三百坪

青柳伊織
兩人預地

六月廿日預。藤基助上リ地
一、小石川築地。三百九坪
〇一本抹消。

柳生備前
預地守

〇(朱)
當閏八月十一日竹田平左衛門に渡ス。

宅間庄三郎

同日預。三好一平上リ屋敷
一、小川町。六百七拾四坪
〇一本抹消。

井出藤九郎
兩人預地

六月廿二日預。三橋佐左衛門上リ屋敷
一、小石川龍慶橋。五百六拾七坪
〇一本抹消。

内藤駿河
預地守

〇(朱)
當七月廿一日生島文右衛門に渡ス。

内藤伊織
預地

六月廿五日渡。淺野内匠上リ屋敷
一、北本所三四ノ橋間通。貳千三百拾四坪九合餘

丹羽和泉守

六月廿七日渡。明地之内
一、二番町通。五百坪

酒井右京亮組與頭
戸田六兵衛

但、千駄ヶ谷御鹽硝藏跡屋敷差上爲代地被下。

同日渡。脇坂甚兵衛上ヶ地之内
一、同所七百七拾壹坪

二條御表御門番頭
美濃部彦左衛門

但、四番町屋敷差上爲代地被下。

六月廿九日渡。赤岡金兵衛上ヶ地
一、芝岸町。百五拾坪

御表具師
石井宗故

同日預。丹羽和泉守上ヶ屋敷
一、筋違橋外。貳千貳百六拾五坪
〇(朱)

本多能登守
預地

〇(朱)
當七月六日安藤長門守に渡ス。

屋敷書拔

一、深川 郡山藩

柳澤吉保

下賜 〇柳澤吉保。
元祿十五年六月廿八日。小日向代地トシテ
一萬千六百二十坪。

伯爵柳澤家回答

上屋敷 神田筋違橋外今ノ萬(坪數不詳)

元和三年丁巳七月式部少輔氏信賜フ。

元祿十五年壬午六月和泉守氏晉ノ時、事故アリ被收。

上屋敷 北本所四ツ目坪數不詳)

市街充實時代

元祿十五年壬午六月和泉守氏音賜フ。
享保五年庚子十二月和泉守薫氏返納。

——子爵丹羽家回答

附記
利根川凌

〔附記〕 利根川凌

柳營日次記ニ據レバ、

十一日 六月○元祿十五年
六月○中略。

御代官

平岡十左衛門

雨宮勘兵衛

金貳枚ツ、。

右者常州戸根川見分被仰付之ニ付、御暇老中申渡之。

廿八日 七月○元祿十五年
七月○中略。

御勝手

御代官

平岡十左衛門

雨宮勘兵衛

川凌見分歸

丹羽氏音除
封收邸事蹟

廿二日壬申○元祿十五年(紀元二二六)六月○壬申、三正綜覽。岩村○美濃國城主丹羽氏音○和泉守ノ封ヲ除
キ、府邸ヲ收メ、越後國頸城郡ノ内一萬石ヲ給シ、嚮ニ收ムル所ノ前赤
穂○播磨國城主淺野長矩○内頭ノ本所邸○市内本所區ヲ與ヘテ閉門セシム。○憲廟實錄。柳營日

次記。屋鋪渡預繪
圖證文。屋敷書抜。

丹羽氏音除
封收邸事蹟

丹羽氏音除封收邸 始末左ノ如シ。

二十二日○元祿十五年六月。美濃國岩村城主丹羽和泉守氏音家中の士ヲ鎮撫せる事不能により
て、其家士二十五輩黨を結て嗽訴せるゆへ、和泉守氏音ハ、城地を奪ひ祿を奪て、越後國頸
城郡の内にて一萬石を給り、閉門に家士淺井新右衛門西尾次太夫多胡平藏須賀金左衛
門斬刑之處に、妻木郷右衛門遠嶋に被流、原田太郎兵衛前田清兵衛鈴木權石衛門今井八
郎兵衛西山與右衛門追放。二十五日、堀大和守親賢、遠山和泉守友春、岩村城を收む。和泉守
友春守る。丹羽和泉守氏音ニあつゝられたる岩佐權之介、同辰之介を内藤駿河守清長に
預らる。

——憲廟實錄

廿二日 五月○元祿十五年六月。

高一萬九千石。

濃州岩村城主

丹羽和泉守○氏

右家中之仕置不宣、不調法ニ被思召ひ、依之、城地被召上之、領知減少、壹萬石之高ニ被仰付、
屋敷被召上、本所淺野内匠上屋敷被下閉門可仕旨。

右於土屋相摸守○政宅、老中列座、相摸守申渡之、御目付津田三左衛門、石尾織部立合。

於評定所

丹羽和泉守家來

淺井新右衛門 西尾治太夫 多故平藏 須賀金左衛門。

市街充實時代

一一九

四人頭取任、廿五人之者連判爲致、徒黨を致し、我意を立、段、不届ニ付、死罪申付者也

右同人家來
妻、木郷、右衛門

主人爲之由ニ書付差出、得共、内證ニ四人之者共荷贍之様子不届ニ依、之遠嶋申付者也。

右同人家來

原田太郎兵衛、前田清兵衛、鈴木權右衛門、今井八郎兵衛、

西山與右衛門。

策前四人之者一統連判仕、段、不届ニ得共、以後致了、簡連判のき、付、追放申付者也。

右之通、松前伊豆守保田越前守、大久保湛兵衛、鈴木次郎右衛門立合、申渡之。

——柳營日次記

廿二日元祿十五年六月。美濃國岩村城主丹羽和泉守氏音が城を收公せられ、所領一万九千石を減削せられ、越後國頸城郡の内にて、一万石賜り閉門せしめらる。其家人等廿餘人、黨をむすび騷擾せしによりてなり。家人等死刑遠流追放に處せらるゝ者多し。

——常憲院殿御實紀

氏音庄之助、越中守、和泉守、從五位下。

○上この年元祿十四年。岩村美濃國の商賈貪邪の所爲ありしに、漸くあらはれしかば、これを

糺明せしむるところ、家従等その事に託して私欲をさしはさみ、互に黨をむすびて我意を立んとす。まかるに徒黨のもの凡二十餘人にして、其罪に處すべきの詮議容易ならざるかゆへ、遅々に及ぶのあひだ、すでに上聞に達し、家臣等を按問せられ、十五年六月二十二日、家臣等三十餘人、重科に處せらる。この日、氏音も家の掟よからざること、を咎められ、岩村の城地を收め、所領を削て一萬石とふされ、筋違橋外の居邸を本所にうつして閉門せしめらる。七月十八日、越後國頸城郡のうちにいて領地を賜ふ。十二月二十四日、閉門をゆるさるといへども、猶拜謁をとめられ、十六年四月二十五日赦免あり。

——寛政重修諸家譜

筋違橋外邸ヲ收公シテ本多氏ニ預ケ、尋デ之ヲ安藤氏ニ與フルト共ニ氏音ニハ別ニ本所淺野長矩邸ヲ與フルト別項記ス所ノ如シ。

〔附記〕 德川氏精進日鳴物停止

覺

一、八日、十七日、廿日、廿四日。

此日、公儀御精進日之處、船ニる鼓、大鼓、三味線、其外之鳴物ニる、夥敷さま、た、有之ニ付、折節、御城邊にも聞、御精進日ニハ、鳴物無用可致。武士町人ニ依らば、船借、船頭、右之日、杯、前廉ニ爲、申聞、さま、不申、様ニ可仕。以上。

六月廿四日元祿十五年

——撰要永久錄

市街充實時代

一一二二

附記
德川氏
精進日
鳴物
停止

屋鋪授受

七月四日甲申元祿十五年(紀元二三〇二年)甲申三正綜覽。松山中國備城主安藤信友門守長前岩村

濃國美城主丹羽氏音泉守和ノ筋違橋外邸神田區ヲ賜フ。外ニ是月元祿十五年(紀元二三〇二年)

屋鋪授受 元祿十五年七月左ノ屋鋪授受有リ。柳營日記。屋鋪授受預繪圖。證文。屋敷書拔。寛政呈譜。

屋鋪授受事

四日元祿十五年七月

丹羽和泉守氏音屋敷被下レ之。

安藤長門守友信

安藤信友

牧野備後守成貞深川屋敷と引替被下レ之。

松平彈正忠久正

松平正久

右老中申渡之。

柳營日記

信友政藏長門守右京進右京亮對馬守始重興重行信賢。

同年元祿十五年七月四日筋違橋外丹羽遠江守上ケ屋敷二千貳百六拾四坪家作共ニ拜領仕

イ。同年十二月廿七日隣家遠藤主膳屋敷五百八拾九坪と本所下屋敷と相對替ニテ上屋

敷入申イ。同十七年甲申四月四日筋違橋外屋敷隣中山下野守上ケ屋敷九百拾八坪之所

爲添地拜領仕イ。坪數都合三千八百四拾壹坪相成イ。

成貞從四位下侍從備後守幼名兵部成垣後藏人號大菅。

同元祿十五年七月四日登城仕イ處濱町屋敷爲増地松平彈正久正跡屋敷拜領。

牧野成貞

寛政呈譜

圖略

赤坂元馬場水上作右衛門屋敷 坪數百貳拾坪。

東 吉田伊右衛門。西 山本宗有。

南 道。北 品川權太夫、山村甚太夫。

東 十間。西 九間五尺。

南 十貳間貳寸。北 十貳間壹尺貳寸。

秋山一齋上ケ屋敷并長谷川正悅上ケ地割殘共願之通拜領仕イ。四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座請取申イ。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年七月五日

中野下役 水上作右衛門印

圖略

筋違橋外安藤長門守友信屋敷 坪數貳千貳百六拾五坪。

東 杉浦内藏允。西 道。

南 道。北 本多五郎右衛門、遠藤主膳。北 中山下野守。

東 貳十六間五尺。西 三十貳間。

南 七十七間四尺。北 七十六間貳尺。

筋違橋外丹羽和泉守殿上ケ屋敷、今度願之通安藤長門守拜領仕イ。四方間數坪數、右御繪市街充實時代

水上作右

圖之面傍示枕之通并建家立具疊長屋土藏植木石等迄御帳面を以相改相違無御座請取申い爲後日仍如件。

元祿十五壬午年七月六日

安藤長門守内 又 市印

甲斐庄喜右衛門渡之。

服部七右衛門平野善三郎原五郎左衛門中村半治。

圖略○

川田ヶ窪割餘リ 坪數五拾貳坪。

東 德永頼母組。西 道。

南 佐橋茂兵衛。北 鈴木清内。

東 七間貳尺六寸。西 六間貳尺六寸。

南 八間。北 七間三尺。

川田ヶ窪佐橋儀兵衛預リ地割殘則兩人に御預ヶ被成い四方間數坪數右御繪圖之面相違無御座御預リ申い爲後日仍如件。

元祿十五壬午年七月六日

佐橋儀兵衛○佳重内 手嶋磯右衛門印

中野下役内

鈴木清内印

圖略○

川田ヶ窪鈴木清内屋敷 坪數百貳拾坪。

東 近藤源左衛門組。西 道。

南 割殘リ。北 近藤源左衛門組。

東 貳十間五尺。西 貳十三間三尺五寸。

南 七間三尺。北 壹間三尺。

川田ヶ窪大久保元屋敷差上い爲御代地川田ヶ窪佐橋儀兵衛殿預リ地之内願之場所ニる元坪之通拜領仕い四方間數坪數右御繪圖之面御定枕之通相違無御座請取申い爲後日仍如件。

中野下役 鈴木清内印

元祿十五壬午年七月九日 右組屋敷境如先規紛無御座い爲後日仍如件。

近藤源左衛門組

永持勘

大竹又六郎印

德永頼母同心

上原惣

太夫印

圖略○

二番町窪田伊右衛門方○正屋敷 坪數五百坪。

東 道。西 戸田六兵衛明地。

南 明地。北 福玉市左衛門。

東西 十八間八寸ヨ。

南 貳十七間三尺。北 貳十七間三尺八寸ヨ。

市街充實時代

青山宿窪田伊右衛門元屋敷差上、願之通り番町明地之内ニ御引替屋敷拜領仕。四方間敷坪數、右御繪圖之面、傍示杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年七月十日

酒井右京亮組與頭窪田伊右衛門内

秋野竹右衛門 印

市川三十郎、吾孫子幸右衛門、中村半治。

甲斐庄喜右衛門渡之。

圖略○

木挽町三丁目横町淺野大學上ケ屋敷 坪數千九拾坪、内、建家六百坪。

東 京極主膳正。西 町屋。

南 道。北 脇坂淡路守。

東 四十壹間。西 三十七間四尺。

南 貳十九間四尺。北 貳十九間。

淺野大學殿上リ屋敷松平駿河守○久松定陣。御預ケ被成、四方間敷坪數、右御繪圖之面、并建

家立具疊土藏植木石等迄御帳面を以相改、相違無御座御預申。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年七月廿一日

松平駿河守内

多賀新右衛門 印

淺野大學殿上リ屋敷建家立具植木石目錄

一、門扉

、く、に共。錠鑰有。

三枚。

一、戸

但、半戸共。

貳百三十七本。

一、障子

但、半障子共。

貳百十八本。

一、襖

但、小ぶら共。

七拾五本。

一、疊

但、半疊共。

四百六十貳疊。

一、石

但、大小。

三拾壹。

一、植木

但、大小。

十三本。

一、梯子

但、大小。

十三挺。

一、石手水鉢

壹ツ。

以上。

圖略○

小川町生島文右衛門○秀屋敷 建家有。坪數六百七拾四坪。

東 土岐出羽守、畠山下總守。西 道。

南 半井爐菴。北 森與五左衛門。

東 三十六間貳尺。西 三十三間。

南 十九間。北 十間五尺、九間壹尺。

三好市平殿上ケ屋敷、今度生嶋文右衛門拜領仕。四方間敷坪數、右御繪圖之面、傍示杭之通、并建家立具疊長屋土藏植木石等迄、御帳面を以相改、相違無御座請取申。爲後日仍如

市街充實時代

件。

元祿十五壬午年七月廿一日

生島文右衛門内 吉村勘兵衛印

甲斐庄喜右衛門内岡直右衛門。右立合、相改渡之。

服部七右衛門。宇野小兵衛。安川善太夫。吾孫子幸右衛門。

圖略。

小川町生嶋文右衛門上ケ屋敷 坪數貳百貳拾坪。庭家有。

東 伏屋新助。西 道。

南 竹内彌兵衛。北 秋間新右衛門。

東西 七間貳尺。

南北 三十間。

小堀政房

生嶋文右衛門殿上ケ屋敷、小堀大膳^{○改}の御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面并建家立具植木石共、御目錄之通、相違無御座御預リ申[○]。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年七月廿一日

小堀大膳内 永岡傳兵衛

甲斐庄喜右衛門内田邊作太夫。

服部七右衛門。清水喜兵衛。吾孫子幸右衛門。安川善太夫。

右立合、相改預之。

圖略。

小川町生嶋文右衛門上ケ屋敷建家繪圖略。

生嶋文右衛門上ケ屋敷立具目錄

一、門扉 但、^{くび}錠^び有^る多^しび^{なし}。 三枚。

一、間戸 小障子。 貳本。

一、植木 大小。 九本。

元祿十五年午七月廿一日

生島文右衛門内 竹内清三郎印

屋鋪渡預繪圖證文

元祿十五壬午年

七月五日渡。秋山一壽上ケ地及長谷川正悦上ケ地割殘共

中野下役 水上作右衛門

一、赤坂元馬場百貳拾坪

中野下役 安藤長門守

七月六日渡。丹羽和泉守上ケ屋敷

中野下役 鈴木清内

一、筋違橋外貳千貳百六拾五坪

中野下役 佐橋儀兵衛

一、川田ケ窪百貳拾坪

鈴木清内

同日預。同斷割殘

鈴木清内

市街充實時代

七月十日渡。明地之内

酒井右京亮組與頭
窪田伊右衛門

但、元屋敷差上、爲代地被下。

七月廿一日預。淺野大學上リ屋敷
一、木挽町三町目横町千九拾坪

松平駿河守
預地。

○朱
當八月十三日内藤山城守に渡ス。

同日渡。三好市平上ヶ屋敷

一、小川町六百七拾四坪

役名不知
生嶋文右衛門

七月廿一日預。生島文右衛門上ヶ屋敷
一、小川町貳百貳拾坪

役名不知
小堀大
預地。

屋敷書拔

物價騰昂等
禁制

物價騰昂等
禁制事蹟

十八日戊戌 〇元祿十五年(紀元二二三六) 米穀足ラズ、下民窮困スルノ故ヲ以テ物價ノ騰昂ヲ禁遏シ、釀酒額ヲ限制ス。○柳營日記。常憲院殿御實紀。

物價騰昂等禁制 左ノ如シ。

十八日 〇元祿十五年 七月 〇中略。

一、本多伯耆守 〇正 被相渡書付一通、并口上書、

覺

一、近年米穀不足ニ付、下々及困究ハ、就夫爲御救、當年之酒造米員數相定ハ、向後米并

諸色共ニ近年之相場を直シ、相應之直段ニ商賣可仕ハ、尤諸職人作料日傭賃ニ至迄高直ニ仕間敷ハ、若不相應成義於有之者、急度遂吟味、曲事可申付者也。

午七月 〇撰要永久錄七 月廿日ニ作ル。

別紙 覺

一、當午年酒造ハ義寒造之外、新酒一切可爲停止事。

一、當暮寒造之酒分量之義、元祿十五年酒造米之五分一ニシテ、來年酒造

米高三分一之積可造之事。

一、來未年右米高之外、造かけハ儀停止ニシテ、來年五月

一、家業之外ニ酒造ハ、一切停止ニシテ、來年五月

右之通諸國共堅相守ヘシ。若違背之輩於有之者、可爲曲事ハ、間所々奉行御代官私領ニ

地頭より、念を入相改、相違無之様可被申付ハ、來未年 〇元祿十六年。酒造米之員數ニ、來年五月

中可被相伺ハ、以上。

午 〇元祿十五年。七月

一、本多伯耆守口上ニシテ、被申渡覺、

此度申渡ハ書付之趣、并酒造米員數之儀、嚴密被申付、紛敷儀無之様可被致、酒造道具被改又ニ相殘酒道具蒔印等、念を入時節ニ至彌人を廻シ、急度改させ可申ハ、若猥成儀有

市街充實時代

之、米高致相違、外より相聞ひ、可爲不念い、且又難相極事もい、其段御勘定所へ可被窺ひ以上。

柳營日記

十八日元祿十五年七月此日令せらるゝは、近年米穀たらざれば、賤民疲弊に及べり、よて賑救のため、ことし釀酒米の員數定めれば、今より後米穀并に諸色共に近年の時價をあらため、相當の價もて商賣すべし、尤諸工匠の工價備賃にいたるまでたとくすべからず、もし應ぜざる事あらば、をこそかに査檢すべしとなり。又今年酒かもす事、寒製の外新酒一切停禁たるべし、ことし寒造の分量は、元祿十年の五分の一たるべし、古より人もしり酒造のみ業と仕來しは、まゐるして勘定所へ伺ひ、其上丑年酒造米額三分の一の積りたるべし、來年もことし米額の外つくるへからず、家業の外に酒造る事は一切停禁すべし、この旨各國共にかたく守るべし、もし違犯のものあらば曲事たるべし、來年の造額は其五月中に伺ふべしと令せらる。またことたびの令并に、酒造米額の事きびしく命じ、まぎらはしき事なきやうせしむべし、釀具査檢し、又は残りし酒具、蒔印等心いれ、其時に至り、彌人を廻し、きびしく査檢せしむべければ、もしみだりなる事ありて、米額たがひしむね他より聞えなば、過失たるべし、はた定めがたき事もあらば、其旨勘定所に伺はしむべしと令せらる。

常憲院殿御實紀

附記

〔附記〕 處罰

廿六日元祿十五年七月

一本多出雲利先年酒井左衛門尉眞の御預被置之處、近年違亂ニ成、附參い家來久林八太夫清水源左衛門兩人折檻いとし、奉公不能成旨、左衛門尉家來迄訴出之、於評定所、

水野監物〇忠之家來へ

本多出雲事、窺前不仁成義有之、酒井左衛門尉へ御預被置い處、家來非義之召仕様重々不届い、死罪も可被仰付い得共、亂氣之仕方ニ付る、今度其方へ御預ケ被成い、をり入稱敷仕可差置旨、被仰出い、此旨監物家來へ申渡之。

本多出雲

窺前不仁成義有之、酒井左衛門尉へ御預ケ被置い處ニ、家來非義之召仕様、重々不届い、死罪も可被仰付いへ共、亂氣之仕方ニ付る、此度水野監物に御預ケ急度押込可差置旨、被仰付之。

久村八太夫 清水源左衛門

兩人儀、出雲御預ケ之先迄附參い上、何分も可相勤處、奉公不能成由、左衛門尉家來迄訴之い段、不届い、仍之遠嶋申付者也。

右之通、安藤筑後守、松前伊豆守、保田越前守、水野小左衛門、安部式部立合、申渡之。
一、阿部豊後守宅ニ有、

酒井左衛門尉

右本多出雲儀不届之仕方兩人之召仕訴出い迄不申上段、不念い出雲事考、水野監物へ御預けい。左衛門尉義閉門被仰付旨、老中列座、豊後守申渡之。近藤備中守鈴木源五右衛門、久松忠次郎出座。

柳營日記

八月五日甲寅元祿十五年(紀元二三三)六月二日屋鋪預有り。外二是月元祿十五年(紀元二三三)六月二日八月。

屋鋪授受若干。屋鋪渡預繪圖證文、屋敷書拔、柳營日記記、寛政呈請。

屋鋪授受事蹟

屋鋪授受 元祿十五年八月ニ於ケル屋鋪授受左ノ如シ。

圖略○

小川町竹内彌兵衛上ケ屋敷 坪數貳百貳拾坪。内、建家八拾坪。

東 山田十太夫。西 道。

南 生島文右衛門上ケ屋敷。北 生島文右衛門上ケ屋敷。

東 七間壹尺。西 七間三尺。

南北 三十間。

竹内彌兵衛殿上ケ屋敷、土井甲斐守知利御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、并建家立具略中等、迄御帳面を以相改、相違無御座御預り申い。爲後日仍如件。

元祿十五年八月五日

土井甲斐守内 稻垣 茂 左衛門 印

水野權十郎内永田庄助。

土井利知

右立合、相改預之。

竹内彌兵衛上ケ屋敷建家立具植木目錄

- 一、門扉 但、くゞ共。三枚。
- 一、戸 但、半戸共。四十貳本。
- 一、障子 但、半障子共。貳十九本。
- 一、襖 但、小襖共。十八本。
- 一、疊 但、半疊共。六十四疊半。
- 一、梯子 壹挺。
- 一、植木 八本。
- 以上。

元祿十五年八月五日

圖略○

木挽町三丁目裏通り内藤山城守政森屋敷 坪數千九拾坪。建家有。

内藤政森

東 京極主殿。西 町屋。

南 道。北 脇坂淡路守。

東 四十壹間。西 三十七間四尺。

南 貳十九間四尺。北 貳十九間。

市街充實時代

淺野大學殿上リ屋敷内藤山城守拜領仕_レ。四方間數坪數、右御繪圖之面、并建家立具疊土藏植木石等迄、御帳面を以相改、相違無御座請取申_レ。爲後日仍如_レ件。

元祿十五壬午年八月十三日

内藤山城守内

渡邊 七右衛門 印

圖○

前田孝教

麻布新堀端前田采女_○孝教屋敷 坪數貳千四百九拾坪。

東 百性町屋。西 京極喜内。
南 道。北 道。

東 五十間四尺。西 四十貳間三尺五寸餘。
南 五十九間。北 四十九間。

麻布新堀端ニ多前田采女屋敷拜領仕_レ。四方間數坪數、右御繪圖之面、御定枕之通、相違無御座請取申_レ。爲後日仍如_レ件。

元祿十五壬午年八月十四日

前田采女内

稻垣 清左衛門 印

圖○

安部信方

安部小十郎_○信方屋敷 坪數千坪。

東 酒井善左衛門。西 道。
南 稻葉紀伊守。北 道。

東西 四十三間四尺。
南北 貳十貳間五尺四寸。

右悉於南本所三ノ橋通、今度安部小十郎屋敷就拜領仕_レ。四方間數坪數、傍示枕之通、御繪圖之面、相違無御座請取申_レ。爲後日仍如_レ件。

元祿十五壬午年八月廿三日

安部小十郎内

渡邊 治右衛門 印

甲斐庄喜右衛門。櫻井庄之助。酒井與九郎。
右三人立合、相渡之。

屋鋪渡預繪圖證文

元祿十五壬午年

八月五日預。竹内彌兵衛上ケ屋敷
一、同所_○小。貳百貳拾坪
一本抹消。

土井 甲斐 守
預地。

八月十三日渡。淺野大學上ケ屋敷
一、木挽町三丁目裏通千九拾坪
一本。但建家立具疊土藏植木石共。

内藤 山城 守

八月十四日渡。上ケ地不_レ知
一、麻布新堀端貳千四百九拾坪

前田 采女

八月廿六日渡。
一、同所_○北本所二。橋間通。貳千七百坪

佐竹 壹岐 守

同日渡。
一、南本所三ノ橋通千坪

役名不_レ知
安部 小十郎

屋敷書拔

市街充實時代

十日元祿十五年八月中略

田村建顯
兼大久保忠
三枝守俊
那須資徳

人見七郎
右

戸田光行

田村右京大夫建顯

前田

女敦孝

大久保玄蕃頭兼忠

三枝

津守俊守

○地所渡
那須

須與市資徳

右被爲召願之通屋敷被下之旨老中申渡之。

儒者

人見七郎右衛門

深川築地百四拾坪之抱屋敷願之通拜領地ニ被仰付、本湊町百五拾六坪之拜領屋敷御抱屋敷ニ可致之。

柳營日記

光行從五位下。河内守。初名牛之助。後改彈正少弼。

愛宕下中屋鋪者、芝二本榎下屋鋪地面之内ニ、徳山五兵衛元誓願寺前屋敷ニ、元祿十五年壬午年八月十日相對替願之通蒙御免。○下

寛政呈譜

元誓願寺前拜領屋敷千六百坪。

右元祿十五年八月芝二本榎拜領屋敷ノ内千六百坪ト相對替ニヨリ、徳山五兵衛へ交付。

子爵戸田家回答○松本藩

〔参考〕 戸田氏邸

光行從五位下。河内守。初名牛之助。後改彈正少弼。
○戸田。

吳服橋内居屋鋪大權現様御入國之節、先祖丹波守康長拜領之以後、代々居有之。愛宕下中屋鋪者、芝二本榎下屋鋪地面之内ニ、徳山五兵衛元誓願寺前屋敷ニ、元祿十五年壬午八月十日相對替願之通蒙御免、同十七年甲申七月廿九日右誓願寺前屋鋪ニ、松平讃岐守頼豐芝三田屋鋪之内ニ、相對替願之通蒙御免、寶永五年戊子八月廿二日右芝屋鋪ニ、愛宕下大道寺内藏助屋鋪ニ、又相對替願之通御免、于今持傳之。麻布長坂下屋鋪者、二本榎下屋鋪地面之内ニ、清水龜庵右麻布長坂屋鋪ニ、寛文十一年辛亥相對替願之通蒙御免、享保八年癸卯五月右屋鋪御用ニ付差上、同所ニ、地所拜領被仰付、當時分知戸田孫十郎光智、戸田内藏助光爲ニ、借置之。深川海邊新田小名木川通抱屋敷家作永々願、寶永五年戊子三月九日願之通勝手次第之旨、新地奉行杉山安兵衛差圖有之。

寛政呈譜

一、同○元十五年淺野大學○長木挽町屋敷千九拾坪受領。○内藤

子爵内藤家回答○母藩

〔附記、一〕

松平忠充除封

二十一日元祿十五年八月伊豫國長嶋城主松平佐渡守忠充失心して、親類とも議セに家老用人留守居三人其子までを殺すといふ叟を、親類訴申に依て、城地を奪て其身を幽囚す。壹万石の内五千石を長子又四郎千石を次子造酒丞領す。二十二日石川近江守綱茂長嶋城を收て守は。

憲廟實錄

市街充實時代

附記、一
松平忠充
除封

廿一日元祿十五年八月 波之間

松平又四郎 同造酒之丞
父佐渡守亂氣ニ付勢州長嶋城地被召上併筋目有之付惣領又四郎に五千石次男へ千石被下旨。
右之通老中列座申渡之。

○書キ入レ
松平佐渡守事當月十五日家老用人留守居之者三人切服申付其うへさられ共死罪申付ニ付一類共致僉儀い所佐渡守亂心付る大小を取押込差置い一類ヲ付惣領又四郎十二歳二男造酒之丞十歳ニ罷成い名跡相續之儀丹後守申渡之。

——柳營日次記

附記二 博奕改

〔附記二〕 博奕改

九日元祿十五年閏八月

御弓頭

赤井七郎兵衛○正

——柳營日次記

右博奕改被仰付之。
九日元祿十五年閏八月先手頭赤井七郎兵衛正幸博徒考察を命ぜらる。これ新置の兼職なり。

——常憲院殿御實紀

〔參考〕 博奕處罰

五日元祿十五年十一月

御仕置被仰付い者共、申渡之覺

御天守番青木彦兵衛組

内田甚五郎

進上奉行 松本五郎兵衛

明屋敷伊賀之者隠居 種田長兵衛

右之者共博奕をうち其上詮義之節度々偽を申色々ちんし重々不屈至極ニ付斬罪申付者也。

小普請溝口攝津守組元御書院番 嶋田三右衛門

同人組元御納戸 河西孫右衛門

孫右衛門子 河西彦十郎

小普請松平主計頭組元小十人 小嶋彦五郎

溝口組元表火之番 馬橋四郎右衛門

御徒稻葉左衛門組 平野甚兵衛

御仕丁頭 山田藤右衛門

小石川御殿同心 今井彦兵衛

御切手同心大平角太夫組 岡谷數右衛門

甲府殿家中小十人 蜂巢源左衛門

野邊惣左衛門

右之者共博奕打不屈ニ付遠嶋申付者也。

市街充實時代

父長兵衛博突打其上詮議之節色々ちんし不届之付斬罪被仰付、悴三右衛門事遠嶋申付者也。

伊賀之者 長兵衛養子 種田 三右衛門

三右衛門子	嶋田 一郎 兵衛	<small>彦兵衛養子</small>	今井 彌十郎
<small>甚兵衛養子</small>	平野 彌兵衛	<small>藤右衛門子</small>	山田 牛之助
<small>數右衛門子</small>	岡谷 龜之助	<small>惣左衛門子</small>	野邊 新藏
		<small>三歳</small>	

親々博突打不届之付、遠嶋申付、悴共追放申付者也。

但幼少之せりれ共先例之通十五歳親類に被預之。

右之通於評定所、仙石伯耆守并丹羽遠江守久貝因幡守多川傳八郎長田甚左衛門立合、申渡之。

一、右之外博突仕町人百姓等三十六人、翌六日博突改赤井七郎兵衛方ニ之遠嶋申付。

一、去ル二日、右同罪之町人百姓八人、内斬罪獄門人七郎兵衛方ニ之申付之。

廿六日元祿十五年十一月○中略。

一、井上大和守被相渡、御書付之寫、

覺

博突打儀、前々御法度之處、今度御扶持人之内、其外ニも博突打者有之、不届之付、多段々御仕置被仰付、向後彌相慎博突、一切不仕様、組中支配々々并召仕等迄、急度可被申渡、町中在々ニも博突堅く不仕様、可被相觸、以上。

柳營日記

屋鋪授受

閏八月十一日庚寅元祿十五年(紀元二三三) 庚寅三正綜覽。屋鋪受領者有リ。外ニ是月元祿十五年

(紀元二三六) 閏八月。屋鋪ノ授受若干。屋鋪渡預繪圖 證文。屋敷書拔。

屋鋪授受事蹟

屋鋪授受 元祿十五年閏八月、左ノ屋鋪授受有リ。

圖略○

竹内正祥

小石川築地竹内平左衛門正祥屋敷 坪數三百九坪。

東 宅間庄三郎。西 井田藤九郎。

南 道。北 齋藤小三郎。

東 貳十六間貳尺。西 貳十七間貳尺五寸。

南 十壹間貳尺五寸。北 十壹間三尺五寸。

小石川築地齋藤甚助殿上リ屋敷、今度竹内平左衛門屋敷拜領仕、四方間數坪數、右御繪圖之面、傍示枕之通、相違無御座、請取申、爲後日仍如件。

元祿十五年閏八月十一日

竹内平左衛門内 柳 仙右衛門 印

市街充實時代

一二四三

水野權十郎渡之。

原五郎左衛門。中村半治。市川三十郎。

柳澤吉保

圖略○

深川築地松平美濃守○柳澤吉保屋敷

坪數壹万八千九百六拾坪。内千坪川。

東 十間川。西 貳十間川。

南 十五間川。北 貳十間川。

東 貳百九間。西 百八十六間。

南 九十六間。北 九十八間。

今度深川築地之内ニ有、松平美濃守屋敷拜領仕ハ付、御渡シ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、傍示杭之通、相違無御座請取申ハ爲、後日仍如件。

元祿十五壬午年閏八月十二日

松平美濃守内

依田 十 助 印

河内 武 太 夫 印

水野權十郎渡之。

圖略○

深川築地

坪數壹萬八千九百六拾坪。内千坪川。

東 十間川。西 貳十間川。

南 十五間川。北 貳十間川。

東 貳百九間。西 百八十六間。
南 九十六間。北 九十八間。

右ニ於深川築地松平美濃守○柳澤吉保様ニ相渡リハ地面御引渡シ、間數坪數、右御繪圖之通、相違無御座請取申ハ爲、後日仍如件。

元祿十五壬午年閏八月十二日

水野權十郎内

永田 庄 助 印

中村 傳 右衛門 印

伊奈半左衛門様内

奥村 與五 左衛門 殿

小野澤彌一 右衛門 殿

圖略○

坪數百拾五坪。

東 道(川岸)。西 土手。

南 百姓。北 割残り。

東西 五間壹尺三寸三。

南北 貳十貳間。

右ニ於北本所中之郷出村、今度いさ野御屋敷就拜領仕ハ、四方間數坪數傍示杭之通、御繪圖之面、相違無御座請取申ハ爲、後日仍如件。

元祿十五壬午年閏八月十六日

淺羽伊之助内

相留 重 郎 兵衛 印

市街充實時代

一二四五

いさ野

櫻井庄之助内渡利小一右衛門。鈴木源助。酒井與九郎内
灰方彦兵衛。高川彌二右衛門。
右四人立合相渡。

右々伊奈半左衛門御代官所之内、今度御屋鋪被成御渡、間數坪數相違無御座也。以上。

伊奈半左衛門内
石母與五郎

圖略○

坂部廣達

外櫻田坂部安次郎^達屋敷 坪數千九百六拾三坪。建家有。

東南 永井豐熊。西北 井上周防守。

東北 道。西南 松平安藝守。

東南 四十貳間三尺。西北 三十三間。

東北 五十三間。西南 五十三間壹尺。

鍛冶橋之内坂部安次郎屋敷御用地之被召上^中爲代地、藤堂伊豫守殿上ケ屋敷拜領仕也。四方間數坪數、右御繪圖之面、并建家立具^略。御帳面を以相改、相違無御座請取申^中爲後日仍如件。

元祿十五壬午年閏八月廿三日

坂部安次郎内
高橋平左衛門印

甲斐庄喜右衛門渡^レ之。

安川善太夫。吾孫子幸右衛門。中村半治。

石原正益
窪田善之丞
田名瀨助
左三浦元勝

圖略○

小石川御殿近所佐脇次郎左衛門上リ屋敷 坪數貳百五拾坪。内、建家三拾四坪。

東北 藤井喜右衛門。西南 石原與兵衛。

西北 道。東南 原市右衛門、由田助太夫。

東北 貳十間。西南 貳十間。

西北 十貳間三尺。東南 十三間壹尺。

佐脇次郎左衛門上ケ屋敷、石原久左衛門^元。窪田善之丞、田名瀨助左衛門、三浦兵十郎^元。右四人^元御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、并建家立具、疊長屋植木等迄、御帳面を以相改、相違無御座、御預申^中爲後日仍如件。

元祿十五壬午年閏八月廿九日

石原久左衛門内
坂澄忠太夫印

窪田善之丞内
村上彦左衛門印

三浦兵十郎内
石川六太夫印

佐脇次郎左衛門上リ屋鋪建家立具目錄

一、大戸 但、く、ま、戸有。 壹枚

一、疊 但、床、疊共。 十八疊

一、障子 十貳本。

市街充實時代

一、戸
一、植木

壹本。
六本。

那須資徳

那須與一○資屋鋪 坪數八百坪。

東 明地。西 道。
南 由比太左衛門。北 溝口傳四郎。
東西 貳十貳間五尺。
南北 三十五間貳寸ヨ。

右者於北本所二三之橋間通。今度那須與一御屋敷就拜領仕、四方間數坪數、傍示杭之通御繪圖之面、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

元祿十五年閏八月廿九日

那須與市内 板 垣 外 記 印

水野權十郎。櫻井庄之助。酒井與九郎。
右三人立合相渡ス。

屋鋪渡預繪圖證文

元祿十五年午年

閏八月十一日渡。藤助上リ地
一、小石川築地三百九坪

役名不知
竹内平左衛門

閏八月十二日渡。築地之内
一、深川築地壹万八千九百六拾坪

松平美濃守

閏八月十六日渡。伊奈半左衛門御代官所之内
一、北本所中之郷出村百拾五坪

い さ 野

閏八月廿三日渡。藤堂伊豫守上ケ屋敷
一、外櫻田千九百六拾三坪

同 坂部安次郎

但、鍛冶橋内屋敷御用地ニ被召上、爲代地被下。

閏八月廿九日預。在臨次郎左衛門上ケ屋敷
一、小石川御殿近所百五拾六坪

役名不知
石原久左衛門

窪田善之丞
三浦兵十郎
右四人預地。

田名瀬助左衛門

閏八月廿九日渡。
一、同所○北二三ノ橋間通八百坪

那須與市
——屋敷書拔

郡山藩

一、深川

下賜 元祿十五年閏八月十二日。壹万八千九百六拾坪。

——伯爵柳澤家回答

十五日甲午○元祿十五年紀元二三六二長崎奉行丹羽長守江○遠ヲ江戸町

奉行ニ任ジ、尋デ役屋鋪ヲ鍛冶橋○市内ニ設ケシム。是ニ於テ江戸町

奉行三員ト爲ル。○柳營日記。憲廟實錄。享保撰要類集。屋鋪渡預繪圖證文。

市街充實時代

一二四九

町奉行増員

町奉行増員

町奉行増員 江戸町奉行二員ナリシ者は時増シテ三員ト爲ル。
十五日○元祿十五年閏八月○中略

於御前

長崎奉行
丹羽遠江守○長

柳營日記

右、江戸町奉行被仰付。
十五日○元祿十五年閏八月○中略

長崎奉行丹羽遠江守長守當町奉行とふる。増員ふり。

憲廟實錄

十五日○元祿十五年閏八月○中略此日長崎奉行丹羽遠江守長守府の町奉行仰付られ是より三員となる。
常憲院殿御實紀

同奉行

丹羽遠江守長守

柳營補任

長守○吉松藩十郎左近五左衛門。遠江守。從五位下。致仕号勝齋。

○上八年○元祿十五年閏八月○中略二月五日長崎の奉行にうつり、○中十五年○元祿十五年閏八月○中略閏八月十五日町奉行とふり、正徳四年正月二十六日職を辭し、寄合に列し、六月二十六日致仕す。

寛政重修諸家譜

覺

丹羽遠江守様、今日町奉行被仰付。向後町御奉行御三人ニる。就夫町中之者御祝義ニ伺公仕。義前々方御出入之外、此方申渡迄、無用可致旨被仰付。間、此旨町中不殘可被相觸。以上。

閏八月十五日○元祿十五年

町年寄
三二 人

撰要永久錄○正實事錄同。

役屋敷

廿一日○元祿十五年閏八月○中略

坂部安次郎○廣達屋敷丹羽遠江守○長守御役屋敷被仰付之。安次郎は藤堂伊豫守○良上ケ屋敷被下之。

廿八日○元祿十五年閏八月○中略

町奉行丹羽遠江守役屋敷御普請料金貳千五百兩、并材木五千五百本、樽木壹万八千挺被下之。
柳營日記

廿八日○元祿十五年閏八月○中略町奉行丹羽遠江守長守官宅構造の費用金二千五百兩、材木五千五百本、樽木一万八千挺たまふ。
常憲院殿御實紀

市街充實時代

圖略○

鍛冶橋内御役屋敷丹羽遠江守^{○長} 坪數貳千五坪。

東 道。西 松平伊與守。
南 道。北 松平丹波守。

東 三十七間貳尺。西 三十五間三尺。
南 五十三間貳尺。北 五十九間四尺。

鍛冶橋之内坂部安次郎殿上ケ屋敷今度丹羽遠江守御役屋敷ニ御渡被成^レ。四方間數坪數右御繪圖之面傍示杭之通り相違無御座請取申^レ爲^レ後日仍如^レ件。

元祿十五壬午年九月十六日

丹羽遠江守内 秋山源右衛門 印

甲斐庄喜右衛門内田邊作太夫。服部七右衛門。中村半治。吾孫子幸右衛門。

右立合、相改渡^レ之。

圖略○

鍛冶橋之内公事人溜腰掛所 坪數六拾坪

東 土手。西 道。
南 道。北 道。

東西 貳十間。

南北 三間。

丹羽遠江守御役屋敷向土手際公事人溜腰掛所御渡被^レ成。四方間數坪數右御繪圖之面傍示杭之通り相違無御座請取申^レ爲^レ後日仍如^レ件。

元祿十五壬午年十月十日

丹羽遠江守内 秋山源右衛門 印

甲斐庄喜右衛門内田邊作太夫。宇野小兵衛。安川善太夫。吾孫子幸右衛門。

右立合、相改渡^レ之。

屋鋪渡預繪圖證文

元祿十五壬午年

九月十六日渡。坂部安次郎上屋敷 一、鍛冶橋内貳千五坪

町奉行 御役屋敷[○]丹羽遠江守

但、町奉行丹羽遠江守に渡ス。

十月十日渡。御堀土手際 一、鍛冶橋内六拾坪

町奉行 丹羽遠江守 屋敷書拔

但、公事人腰掛地所ニ渡ス。

覺

遠江守様御指合ニ付、今日より伊豆守様御月番被遊^レ間、新規訴訟有^レ之者ハ、伊豆守様^レ可罷出^レ。此旨町中不殘可被相觸^レ。以上。

市街充實時代

十二月八日元祿十五年

覺

遠江守様御役屋敷出來御移徙、今日御月番被遊ゆ間、新規訴訟有之者ハ、遠江守様に可し罷出し。此旨町中不殘可被相觸ひ以上。

十二月廿三日元祿十五年

町年寄

三

撰要永久錄

人

〔附記〕 町與力同心

十九日元祿十五年

八月○中略

一、荒井奉行御役御免相止關所久世出雲守之重へ被仰付旨、與力同心も江戸町奉行方へ割込ニ被仰付之。

柳營日記記

十九日元祿十五年 八月○中略。こたび荒井關番を久世出雲守重之に命ぜらるゝにより、今までの奉行を停廢あり、所屬の與力同心は、府の町奉行に屬せしめらる。

常憲院殿御實紀

一、諏訪美濃守組與力之儀ハ、元祿十五年午閏八月十五日町奉行壹人新規ニ出來、丹羽遠江守被仰付、遠州荒井并三崎走水御番所相止、右之與力同心被召呼、遠江守組に被仰付、此節保田越前守組と與力三人、同心拾人、松前伊豆守組と與力三人、同心拾人宛割込

ニ成、壹組人數與力貳拾貳騎同心七拾五人宛、但、與力知行之儀と御藏米ニ被下置取來い。

一、元祿拾五年午閏八月町奉行三人ニ被仰付、兩組より與力六人、同心拾人つゝ分ケ人ニ成、壹組與力貳拾貳人、同心七拾五人宛ニ罷成い。

享保撰要類集

與力同心屋鋪ハ、

三日元祿十五年

十月○中略

一、町奉行丹羽遠江守組與力同心屋敷、於八丁堀被下下之。

柳營日記記

一、諏訪美濃守組屋敷之儀と、元祿十五年午閏八月十五日丹羽遠江守新規ニ被仰付いニ付、小濱佐右衛門并御徒組屋敷其外被召上、同年拜領仕、龜島町と唱申い。且同心屋敷之儀と、正徳元卯年古組之通町屋敷ニ被仰付い。

享保撰要類集

圖略○

北八町堀與力四人分屋敷 坪數八百坪

東 道。西 道。

南 道。北 道。

東 貳十貳間三尺。西 貳十間三尺五寸。

南 三十八間三尺。北 三十六間貳尺。

同 與力四人分屋敷 坪數八百坪

市街充實時代

東道。西道。
南道。北道。

東 二十間三尺。西 二十間壹尺。
南 四十間四尺。北 三十八間四尺。

同 同心貳拾壹人分屋敷 坪數千四百七拾坪。

東道。西道。
南道。北道。

東 三十壹間。西 二十貳間壹尺。
南 四十五間三尺。北 五十六間壹尺。

同 同心貳拾壹人分屋敷 千四百七拾坪。

東道。西道。
南道。北道。

東 三十九間壹尺。西 三十七間貳尺。
南 三十八間壹尺。北 四十五間。

同 同心拾三人分屋敷 坪數九百拾坪。

東道。西 木村養運、小濱十郎左衛門。
南 保田越前守組。北道。

東 貳十三間。西 貳十壹間貳尺六寸。
南 四十貳間。北 四十間壹尺。

同 與力三人分屋敷 坪數六百坪。

東道。西 松前伊豆守組。
南 與力五人分屋しき。北 神尾市左衛門。

東 西 十四間五尺六寸。
南 三十九間貳尺。北 四十壹間。

同 與力五人分屋敷 坪數千坪。

東道。西道。
南 割残り、道。北道。

東 四十壹間。西 二十間、十五間三尺。
南 十八間壹尺、十六間。北 三十六間四尺。

北八丁堀小濱民部嶋田數馬御徒衆七人之上ヶ地之る、今度丹羽遠江守組與力同心御屋敷拜領仕、大繩之る御渡被成、四方間數坪數、右御繪圖之面傍示杭之通り、相違無御座、請取申、爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十月廿九日

丹羽遠江守組與力

谷村郷九 右衛門 印

同斷

平塚伊右衛門 印

同斷

衣笠新八 印

同斷

上田市郎右衛門 印

丹羽遠江守組同心

五十嵐佐左衛門 印

同斷

山本藤四郎 印

水野權十郎内永田庄助。
清水喜兵衛。宇野小兵衛。中村半治。
右立合、相改渡之。

圖略○

北八丁堀割殘 坪數貳百五拾貳坪。

東 丹羽遠江守組。西 道。
南 道。北 丹羽遠江守組。
東 十五間三尺。西 十五間壹尺。
南 十八間三尺。北 十八間壹尺。

北八丁堀嶋田數馬上ヶ地割殘リ、丹羽遠江守組に御預ヶ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座御預リ申。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十月廿九日

丹羽遠江守組與力 谷村 郷 右衛門 印
同斷 平塚 伊右衛門 印
水野權十郎内永田庄助。
右立合、相改預之。

圖略○

北八丁堀丹羽遠江守組の場 坪數九拾坪八合。

東 丹羽遠江守組屋敷。西 道。
南 割殘リ。北 丹羽遠江守組屋敷
東西 五間。
南北 十八間壹尺。

今度北八丁堀嶋田數馬上地ニ多、丹羽遠江守組與力御屋敷拜領仕。右割殘地同組爲の場奉願ハ處、願之通相濟、被成御渡、四方間數坪數、右御繪圖之面、傍示杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十一月三日

丹羽遠江守組與力 谷村 郷 右衛門 印
同斷 平塚 伊右衛門 印
同斷 五十嵐 佐左衛門 印
同斷 衣 笠 新 八 印
水野權十郎内中村傳右衛門。
右立合、相改渡之。
清水喜兵衛。宇野小兵衛。中村半治。

——屋鋪渡預繪圖證文

元祿十五壬午年

十月廿九日預。島田數馬上ヶ地割殘

一、北八丁堀貳百五拾貳坪

町奉行丹羽遠江守組 中 預地。谷村郷右衛門、平塚伊右衛門預地。

市街充實時代

十月廿九日渡。小濱民部、島田敷馬并御徒衆七人上ヶ地

町奉行丹羽遠江守組
與力同
七拾壹人分屋敷

一、北八町堀七千五拾坪
但、與力拾六人、貳百坪宛、同心五拾五人、七拾坪宛、都合七拾壹人分屋敷大繩之る渡ス。

○一本、
三千貳百坪

町奉行丹羽遠江守組與力
谷村郷右衛門

但、與力十六人分大繩之る渡ス。

三千八百五拾坪

町奉行丹羽遠江守組同心
五十嵐治左衛門

但、同心五十五人分同斷

同 衣笠新八

同 山本藤四郎

同 上田市郎右衛門

右同斷
丹羽遠江守組

一、屋敷書拔

十一月三日渡。島田敷馬上ヶ地割發
一、同所九拾坪八合
但、爲の場渡ス。

八町堀之内
○中

一、元祿十五年十月前書。御徒七人組屋敷并同續岡部新八郎小濱八太夫小濱民部屋敷共、被召上、町與力屋敷之被下、屋敷間新道三箇所出來、新八郎上ヶ地、竹島町屋

二成。○中

八町堀之内
○中

元祿十五年十月前書。長澤町北續溝口左近、同續島田五郎兵衛屋敷、同所神尾市左衛門屋敷、内右五郎兵衛屋敷西續之所共、御用地被召上、地所割替有之、左近上ヶ地内東之方入込、山名中務屋敷被下、屋敷折廻西北通入堀出來、并東之方川端通新道出來、殘地所町奉行組屋敷被下、同所北之方市左衛門、五郎兵衛上ヶ地、町與力屋敷被下之、東之方川端通、方與力屋敷間南に折廻新道出來、且同所東之方、龜島橋掛渡有之、其外屋敷屋敷主代リ、所も有之。

御府内其外沿革圖書

訴訟制

十八日丁酉。元祿十五年(紀元二三六二)年閏八月○丁酉三正絲覽。訴訟ノ制ヲ布達ス。○憲教類典。撰要永久錄。

訴訟制事蹟

訴訟制 左ノ如ク布達ス。

元祿十五年閏八月十八日

一、公儀引負金銀之事。

一、拜借金之事。

一、爲替金銀之事。

一、當座雇日備賃、職人日手間賃之事。

一、家賃金銀之事。

市街充實時代

一、田畑質金銀之事。

右之分と前々之通、年月之無構裁許有之事。

午○元祿十五年閏八月十八日、彈正少弼○本多忠晴内寄合にて、觸頭とも申渡之。

元祿十五年閏八月

覺

一、近年金銀之出入多ク、外之御用之支とも罷成の間、十八年已前五年二〇貞享之通、相對を以埒明の様ニ被申渡、當午○元祿十五年正月より之分可有裁許ハ尤預金、買懸り、賣物之前金諸職人作料手間賃等、惣る相對之筋にて金銀出入も、同前之事。

一、方々負方有之者、身上つふし分散願之儀、向後借主同心不仕者有之ハ共、相待ゆるも目當も無之者、先願之通分散を仕一應埒明、後々身上仕直ハ其節訴ハ様ニ可被申付ハ事。只今までも借用金又ハ利付之分、無取上、預金と有之ハへ、被致裁許ハ得とも、畢竟内證と同前之事ニハ間、向後とも様ニ可被申付ハ事。

一、奉公人引負又ハ取逃仕ハ者、請人方より給金を急度辨濟致させ、其外引負取逃ハ辨金も、請人分限有次第辨させ、不足之分、主人損失ニ爲致、欠落仕ハハ、請人ニ尋出ハ様、急度可申付、右之不届者ハ死罪、又ハ流罪可被申付ハ事。

一、欠落取逃引負仕ハ者、只今までも其品ニより當分牢舎又ハ手錠被申付、金銀之滯相濟ハ得ハ指免ハ。向後ハ品ニより遠島被申付、大分引負取逃仕ハハ、死罪も可被申付ハ事。

事。

一、跡式之出入訴出ハ節、以惡心爲之筋ニハハ、品ニより跡式相續不申付、家屋敷家財等とも取上可被申付ハ事。

一、神社佛閣修造金銀之事。

一、出家之出世金、坐頭之官金等之類之事。

右二ヶ條とも、向後ハ年月之無構、可有裁許ハ事。

一、在々之者、公事訴訟、其外江戸ハ罷出ハ節、百姓宿仕ハもの、久々逗留致させ、金銀費シハ様ニ仕ハ。向後ハ百姓宿仕ハ物久々逗留ハさせハハ、大屋又ハ名主方より吟味仕ハ様ニ、可被申付ハ事。

一、公事訴訟を以、兎、目安を認、工ニ成儀をおしハ、諸事出入ハ義をとり持、禮金を取經營ニ仕ハ者、常々遂吟味、町々ハ不差置ハ様ニ、可被申付ハ事。

一、難立公事訴訟ニ、遠國之者を目安裏判并指紙を以呼集ハハ、向後訴ハ者過怠牢舎又ハ過料出さハ様ニ、可被申付ハ事。

一、輕奉公人町人百姓等、喧嘩又ハ酒狂杯仕ハもの、只今までも當分牢舎之上、追拂ニ申付ハ處、宿なし盗人とも、罷成ハ間、向後ハ品ニより遠島も可被申付ハ事。已上。

元祿十五年閏八月

元祿十五年八月廿一日

市街充實時代

一、什物金銀祠堂金銀ハ出家之出世金ニ相准年月ニ無構可申付申付事。

元祿十五壬午年閏八月
一、養子并妻持參金出入、父方より養子相返しハ、歎夫之方より妻ハ暇をとらさハ、持參金相返し可申付。養子又ハ妻女方より暇をとリハ、持參金相對次第ニ可仕由申付事。

右ノ前々之通、向後も申付ハ、答ニ相談之上相極ハ、間申上置ハ、已上。

閏八月元祿十五年

元祿十五壬午年

覺

金銀出入多ハ、付、十八年已前丑年二〇貞享二年之通ニ、去巳年迄之金銀出入ニ取上無之ハ、相對を以埒明ハ、様ニ可仕ハ、當午元祿十五年正月より之分ハ、可有裁許。尤預金、懸賣惣前金、諸職人、作料手間賃等、惣ハ相對之筋ニテ、金銀出入ニ、其同前之事。

一、神社佛閣修造金銀

一、出家之出世金、座頭之官金等之類。

右貳ヶ條ニ、向後年月之無構可有裁許事。

金銀出入其外被仰渡

覺

憲教類典

一、近年金銀之出入多く、外之御用之支ニ及罷成ハ、間、十八年以前丑之年二〇貞享二年之通、去ル巳ノ年元祿十四年迄之金銀出入を取上無之。相對を以埒明ハ、様ニ可申渡、當年元祿十五年正月ノ分、可在裁許ハ、尤預リ金、買掛リ賣物之前金、作料、手間賃等、惣ハ相對之積ニ、金銀出入ニ同前之事。

一、只今迄ハ、借入金又ハ利付之分ニ無取上、預金有之ハ、得テ、被致裁許ハ、得共、畢竟同前之事ニハ、間、向後ハ、一樣可被申付事。

一、奉公人引負又ハ取逃仕ハ、者、請人方ハ給金ニ急度返濟爲致、其外引負取逃之辨金ト、請人分限有次第爲辨、不足分ト主人損失ニ爲致、欠落仕ハ、請人ニ尋させハ、様ニ急度被申付、右之不屈者ト、死罪又流罪可被申付事。

一、欠落取逃引負仕ハ、者、只今迄ハ、其品ニより當分牢舎又ハ手錠被申付ハ、金銀滯相濟ハ、得テ被差免ハ、向後ハ、品ニより遠島被申付、大分引負取逃仕ハ、死罪ニも可被申付ハ、事。

一、跡式出入訴ハ、節、惡心を以偽之筋ハ、品ニより跡式相續不申付、家屋敷家財等、取上可被申付事。

一、神社佛閣造金之事。

一、出家出世金、座頭之官金等類事。

右二ヶ條ニ、向後年月ニ無構裁許可有事。

市街充實時代

一、在々之者公事訴訟其外江戸に罷出の節、百姓宿仕の者、永々滞留爲致、金銀ついやしの
 へ、百姓宿仕の者之町之大屋又赤名主方々吟味の様、可被申付事。
 一、公事訴訟を去り、兎目安を認、たくみ成義をおしへ、諸事出入之分取持、禮金を取いとふ
 る仕の者、常々町々を不差置の様、可申付事。
 一、難立公事訴訟、遠國之者を目安裏判并差紙を以呼集、向後訴の者過怠牢又と過料
 出させの様、可被申付事。

一、輕キ奉公人百姓町人之喧嘩又と酒狂仕の者、當分牢舍其上追拂、被申付の得、無
 宿盜人之可罷成の間、向後品より遠嶋、可被申付事。午元祿十五年閏八月

一、公儀引負金銀之事。

一、家賃金銀之事。

一、田畑質金銀之事。

一、拜借金之事。

一、爲替金銀之事。

一、當座雇日雇賃、職人日手間賃之事。

右之分へ、前々之通、年月を無構裁許可有事。

一、方々負方之者、身上潰し分散願之義、向後借主同心不仕者有之共、相待の共、目當及無
 之者、先規之通、分散を以一應埒明後々身上仕直のへ、其節許の様、可被申付事。

覺

一、奉公人給金去ル已年元祿十四年已前出入及請人、只今迄之通、可申付事。

一、請人下請人に懸りの義、辨濟之分量程、下受人に可申付事。

一、什物金銀祠堂金銀、出家出世金に相准シ、年月無構可申付事。

一、髮結床船床金書入の金銀出入申出のへ、家質之類相准可申付事。

一、養子并妻持參金之出入、父方養子相返の敷、夫方妻に暇ヲとらせのへ、持參金相

返シ可申付。養子亦と妻女方が暇取のへ、持參金相對次第可仕被申付。

右と前々之通、向後及申付管之相談之旨申上置。元祿十五年午閏八月

右と閏八月廿七日樽屋藤左衛門方、町中名主請負判致。撰要永久錄

〔附記〕 處罰

廿五日元祿十五年閏八月

佐脇次郎左衛門儀、町人方より金子借り、返濟滯由、御勘定奉行内寄合の度々訴出
 付る被、遂御僉議之處、何及不届成仕形故、次郎左衛門兄弟以下、今日左之通申渡。

於評定所

小普請大久保玄蕃頭組

佐脇次郎左衛門

次郎左衛門弟

新太郎

右兩人、町人之方、金子借用ニ付、謀書謀判認渡之侍、不似合仕形、不届至極の依之
 斬罪被仰付者也。

市街充實時代

父不届有之付遠嶋十五歳まで親類へ御預ケ。

次郎左衛門子 佐脇藤九郎

佐脇次郎左衛門借金ニ付、白紙手形ニ致加判ハ段、不埒成儀ハ依之逼塞被仰付者也。

小普請松平主計頭組 伊奈主 税○忠

中村屋 水道町 平左衛門

佐脇次郎左衛門金子借ハ付、白紙手形取置、謀書不届者ニ付引廻死罪獄門ニ可行旨、保田越前守へ被仰渡之。

右之通於評定所、仙石伯耆守保田越前守、天野傳四郎、杉田五左衛門立合、申渡之。

柳營日次記

東叡山門跡 領加寄

九月三日辛亥

○元祿十五年(紀元二三六二年)○辛亥(三正綜覽)

東叡山門跡領一千石ヲ加寄ス。

柳○

營日次記、常憲院殿、御實紀、東叡山令條。

東叡山門跡 領加寄事蹟

東叡山門跡領加寄 相傳フ、

三日○元祿十五年(九月)○中略。

一、今度紅葉山ニ生シハ靈芝、今日備上覽、依之日光御門跡被登城、於奥御對顔、其以後千石御門跡料被増進之、且又御囃子有之、御饗應。

柳營日次記

三日○元祿十五年(九月)○中略。こたび紅葉山に靈芝生ずるにより慶宴ひらかれ、日光門主公辨法親王饗せられ、囃子の御遊あり。この祥瑞によて、法親王に門跡料千石増加し給ひ、○下

常憲院殿御實紀

武藏國東叡山門跡領同國豐島足立兩郡之内千石、隱居領五百石、別錄在、右者最前所令寄附之舊領也。今度同國豐島郡之内三河島村三百三拾六石七斗九升餘、足立郡之内柳島村百五拾六石六升餘、蓮沼村八拾五石五斗四升餘、新里村貳百五石九斗四升餘、原村五百貳拾貳石八斗餘、合千石、新加之、都合貳千五百石事、全御知行永不可有相違之狀、如件。

元祿十五年九月十二日

綱 吉御判。

一品親王法親王。

東叡山令條

十四日壬戌

○元祿十五年(紀元二三六二年)○壬戌(三正綜覽)

屋鋪受領者有リ。外ニ是月

○元祿十五年(紀元十

二、三、六、二、九、月、

屋鋪ヲ授受スル者若干。

○屋鋪渡預繪圖、證文、屋敷書披。

屋鋪授受 元祿十五年九月中ノ屋鋪授受ヲ擧グ。

圖○

小石川御殿近所横井定右衛門上ケ地 坪數五拾四坪七合。

東 恩田小右衛門。西 道。

南 上田庄右衛門。北 宮下彦右衛門。

市街充實時代

屋鋪授受

屋鋪授受事

東西 九間。
南 六間壹尺。北 六間。

小石川御殿近所横井定右衛門上ヶ地、私共兩人に御預ヶ被成。四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座御預リ申。爲後日仍如件。

宮下彦右

小石川御殿御露次之者
宮下彦右衛門印

上田庄右

壹橋御用屋敷同心
上田庄右衛門印

元祿十五壬午年九月十四日

甲斐庄喜右衛門内岡直右衛門。

市川三十郎。宇野小兵衛。

右立合、相改預之。

圖略。

兼大久保忠

大久保玄蕃頭忠屋敷 坪數三千五百五十九坪貳合餘。

東 百姓町屋。西 道(淺草川)。
南 百姓町屋。北 松平主水。
東 八間三尺五寸。西 六十五間三尺。
南東へ 五十三間三尺五寸。北 九十九間五寸。

右に於北本所中之郷今度大久保玄蕃頭御屋敷就拜領仕、四方間數坪數、傍示枕之通、御繪圖之面相違無御座請取申。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年九月十六日

大久保玄蕃頭内

源兵衛印

奥田八郎右衛門、櫻井庄之助、酒井與九郎。

右に伊奈半左衛門御代官所之内、今度御屋敷ニ被成御渡間數坪數相違無御座。以上。

伊奈半左衛門内

勘兵衛印

屋鋪渡預繪圖證文

元祿十五壬午年

九月十四日預。横井定右衛門上ヶ地
一同所御殿近所。五拾四坪七合

小石川御殿御露次之者
宮下彦右衛門

九月十六日渡。伊奈半左衛門御代官所之内
一同所本所中之郷三千五百五拾九坪貳合餘

一橋御用屋敷同心
上田庄右衛門
兩人預地。

屋敷書拔

本所吉岡町續中之郷代地町

一當町往古中之郷元町之内ニ有之。元祿十五壬午年大久保玄蕃頭様御屋敷ニ相成。ニ付御用地ニ被召上。下
文政町方書上

是月

元祿十五年(紀元三三六二年)九月

本所

市内。深川

市内。ノ所管ヲ定ム。

憲教類典。

本所深川所
管本所深川所
管事蹟

本所深川所管

憲教類典ニ據レバ左ノ如シ。

市街充實時代

元祿十五年壬午年九月

覺

一、本所堅川通横川通其外町中々町奉行御勘定奉行向々方、向後可有支配事。
 一、御用は懸りの拜借地ニ在之町屋ニありて、町奉行御勘定奉行方、向後支配可有之事。
 一、兩國橋之制札も、本所奉行方建させ可申い。其外上水田堀より瓦會根迄十三ヶ所制札も伊奈半十郎方、向後建させ可申い。
 一、本所深川之侍屋敷町屋敷寺社方等も、普請之内當分圍などの義向後本所屋敷改方可有差圖事。
 右本所奉行相伺いニ付、此書付之通相達しい間、可被存其旨い。已上。

十月九日丙戌元祿十五年(紀元二三三) 元祿十五年(紀元二三三) 丙戌(三正) 屋敷預繪圖 屋鋪受領者有リ。外ニ是月元祿十五年(紀元二三三) 元祿十五年(紀元二三三)

若干屋鋪授受サ元祿十五年(紀元二三三) 元祿十五年(紀元二三三) 屋敷預繪圖ル。證文。屋敷書拔。

屋鋪授受 左ノ諸屋鋪ハ、元祿十五年十月ノ授受ニ係ル。

屋鋪授受事
蹟
伊達村豊

一、同年元祿十五年(紀元二三三) 元祿十五年(紀元二三三)十二月九日伊達左京 亮村豊代

白銀町下屋敷ノ内六百坪ヲ以テ南八丁堀上屋敷續キ松崎氏ノ屋敷六百坪ト相對替出願聽許。

一、同年元祿十五年(紀元二三三) 元祿十五年(紀元二三三)同月元祿十五年(紀元二三三) 元祿十五年(紀元二三三)

上屋敷前河岸地百拾七坪并揚場十一坪添地窺濟。

子爵伊達家回答吉田藩

圖略。

大久保忠
兼前揚場

大久保玄蕃頭忠屋敷前川岸揚場。

東道。西 淺草川
南 番所。北 淺草川
東西 九尺。
南北 三間。

右繪圖之通、北本所中之郷大川端大久保玄蕃頭拜領屋敷前通川岸ニ九尺三間之揚場願之通被仰付い。揚ヶ場九尺之間、雁木附可申い。自然就揚場障申儀有之い敷、又々河岸損申いハ、御差圖次第、從玄蕃頭方爲直可申い。爲後日仍如件。

元祿十五年壬午年十月九日

大久保玄蕃頭内
稻川市郎左衛門印
櫻井庄之助内川添孝左衛門。酒井與九郎内加島喜兵衛。
兩人立合渡之。

圖略。

湯島天神近所夏目藤右衛門組竹内傳八郎屋敷 坪數貳百六拾四坪。

東 同組増島段右衛門。西 道。
南 道。北 空地。

市街充實時代

増島段右

東 十七間貳尺。 西 十七間三尺。
南 十五間三尺三寸。 北 十四間四尺七寸。

同 同組増島段右衛門屋敷 坪數貳百五十六坪。
東 同組堀内儀兵衛。 西 同組夏目藤右衛門組竹内傳八郎。
南 道。 北 空地。

堀内儀兵

同 同組堀内儀兵衛屋敷 坪數貳百五十六坪。
東 同組黒上新兵衛。 西 同組増島段右衛門。
南 道。 北 空地。

東 十七間。 西 十七間壹尺。
南 十五間三尺。 北 十四間三尺。

黒上新兵

同 同組黒上新兵衛屋敷 坪數貳百五拾坪。

東 小泉兵庫組上田源五左衛門。 西 夏目藤左衛門組堀内儀兵衛
南 道。 北 空地。

東 十七間貳尺五寸。 西 十七間。
南 十六間三尺。 北 十三間三尺。

上田源五

同 同小泉兵庫組上田源五左衛門屋敷。

東 同組吉里權右衛門。 西 黒上新兵衛。

南 道。 北 空地。

東 十七間五尺。 西 十七間貳尺五寸。

南 十三間貳尺九寸。 北 十貳間五尺。

吉里權右

同 同組吉里權右衛門屋敷 坪數二百三拾坪。

東 同組海田儀右衛門。 西 上田源五左衛門。
南 道。 北 空地。

東 十八間一尺五寸。 西 十七間五尺。

南 十三間。 北 十貳間四尺八寸。

海田儀右

同 同組海田儀右衛門屋敷 坪數貳百三拾貳坪。

東 道。 西 吉里權右衛門。
南 道。 北 空地。

東 貳十貳間三尺。 西 十八間一尺五寸。

南 七間五尺。 北 十七間三尺。

八町堀拙者共七人元屋敷御用地ニ被召上ハ爲代地、湯島天澤寺近所明地之内ニ有、元坪
之通銘々拜領仕、四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通、相違無御座請取申、爲後日
仍如件。

元祿十五壬午年十月十日

同 堀内儀兵衛印

御徒 夏目藤右衛門内
岩上 新兵衛印

同 増嶋段右衛門印

市街充實時代

同 竹内傳八郎印

同 小泉兵庫組 上田源五左衛門印

同 海田儀右衛門印

同 吉里權右衛門印

圖略○

土岐賴殷

三田臺町土岐伊豫守殷預地 坪數四百八拾五坪

東 町屋。西 土岐伊豫守。

南 大圓寺。北 町屋。

東 百壹間。西 百貳間。

南 五間。北 五間。

三田臺町土岐伊豫守屋敷後空地四百八拾五坪、伊豫守に御預ヶ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、傍示枕之通、相違無御座御預り申い。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十月十日

土岐伊豫守内 海老原平七印

甲斐庄喜右衛門内田邊作太夫。

安川善太夫。吾孫子幸右衛門。宇野小兵衛。

右立合、相改預之。

圖略○

萩原重與

市ヶ谷加賀屋敷萩原市右衛門重與屋敷 坪數貳百四拾四坪壹合

東 江原九郎右衛門、大久保金兵衛。西 松崎小左衛門。
南 小野次郎兵衛。北 道。

東 貳十七間。西 貳十七間一尺五寸。

南北 九間。

同 松崎小左衛門屋敷 坪數貳百四拾四坪壹合。

東 貳十七間壹尺五寸。西 貳十七間三尺壹寸。

南 八間五尺。北 九間。

東 萩原市右衛門。西 神谷忠右衛門。

南 小野治郎兵衛。北 道。

市ヶ谷加賀屋敷之内内藤十郎兵衛殿上ヶ屋敷、今度松崎小左衛門、萩原市右衛門兩人ニ多拜領仕い。四方間數坪數、右御繪圖之面、傍示枕之通、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十月十日

松崎小左衛門内 石川六右衛門印
萩原市右衛門内 岩崎奥右衛門印

水野權十郎渡之。

圖略○

新黒鉄四十五人

麻布白金新堀端新黒鉄四十五人分屋敷 坪數三千百五拾坪。但、壹人ニ付七拾坪宛。

東 道。西 道。
南 道。北 半窪權右衛門組屋敷。

市街充實時代

東 五十七間三尺。西 三十六間。
南 六十五間貳尺。北 百十壹間三尺。

白金新堀端明地之内ニ有、今度新黒鋳四拾五人分屋敷拜領仕、四方間數坪數、右御繪圖
之面、傍示枕之通、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十月十八日

河合彌兵衛組新黒鋳組頭
平井平右衛門 印

同斷

白井藤左衛門 印

同斷

松崎三太夫 印

甲斐庄喜右衛門内岡直右衛門。

平野善三郎。清水喜兵衛。安川善太夫。服部七右衛門。

右立合、相改渡之。

圖略。

赤坂築地橋本權之助上ケ屋敷 坪數四百九拾壹坪。内、建家百貳十七坪。

東 脇坂甚兵衛。西 道。

南 道。北 山本平右衛門。

東 十四間。西 十四間一尺。

南 三十三間四尺。北 三十六間壹尺。

相良頼喬

赤坂築地橋本權之助殿御役屋敷被召上、付、相良遠江守高。頼御預ケ被成、四方間數
坪數、右御繪圖之面、并建家立具略。中御目錄之通、相違無御座御預リ申、爲後日仍如件

元祿十五壬午年十月廿日

相良遠江守内
内 藤 武 助 印
富岡源右衛門 印

水野權十郎内中村傳右衛門。
右立合、相改預之。

橋本權之助上リ屋敷立具疊植木石目錄

一、門扉 但、鏡蓋有、
三枚。

一、戸 但、半戸共。
八十六本。

一、障子 但、半障子共。
十四本。

一、疊 但、半疊共。
百貳十疊。

一、植木 但、大小。
五十本。

一、梯子 壹挺。

一、石 大小。
四十五。

以上。

圖略。

赤坂おけおさま 坪數貳百五坪四合。

東 町屋。西 米倉主計。

南 道。北 清岸寺。

市街充實時代

米倉昌照

東 四十三間。西 四十四間。
南 二間八寸。北 八間三尺。

赤坂米倉主計昌照屋敷後おけふま之所、主計に御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、傍示杭之通、相違無御座御預リ申い、爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十月廿一日

米倉主計内
水村金兵衛印
甲斐庄喜右衛門内田邊作太夫。
右立合、相改預レ之。

花井定賢

圖略○

市ヶ谷柳町花井兵助預リ地 坪數四百坪。

東 道。西 百姓町屋。
南 道。北 割殘。
東 三十貳間四尺。西 十四間五尺。
南西へ 貳十四間一尺。北 十五間五尺。

市ヶ谷柳町森本市右衛門殿上ヶ屋敷、今度花井兵助拜領仕い。四方間數坪數、右御繪圖之面、傍示杭之通、相違無御座請取申い、爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十月廿三日

花井兵助内
三土五郎太夫印
水野權十郎渡レ之。

清水喜兵衛。宇野小兵衛。原五郎左衛門。吾孫子幸右衛門。

圖略○

市谷柳町花井兵助預リ地 坪數八拾八坪五合。

東 道。西 百姓町屋。
南 花井兵助。北 西山源藏。
東西 五間五尺。
南 十五間五尺。北 十五間貳尺。

市谷柳町森本市右衛門殿上ヶ屋敷割殘、花井兵助に御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座御預リ申い、爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十月廿三日

花井兵助内
三上五郎太夫印
水野權十郎内
平野善三郎。吾孫子幸右衛門。安川善太夫。

井上正興

圖略○

赤坂馬場跡井上左門正興屋敷 坪數七百坪。

東 道。西 道。
南 道。北 岡野權次郎。
東 貳十間貳尺五寸。西 貳十三間五尺。

市街充實時代

岡野規明

同 岡野權次郎○規明屋敷 坪數五百坪。
南 三十四間。北 三十間三尺。
東 道。西 道。

南 井上左門。北 新道。

東 十七間壹尺四寸ヨ。西 十七間三尺。

南 三十間三尺。北 二十七間三尺。

寬五右

同 寬五右衛門屋敷 坪數四百坪。

東 道。西 明地。

南 町屋。北 細井金三郎。

東 十貳間三尺。西 貳十貳間、九間三尺。

南 三十三間三尺。北 貳十間。

細井正附

同 細井金三郎屋敷 坪數四百坪。

東 道。西 明地。

南 寬五右衛門。北 仁賀保半三郎。

東 西 貳十間三尺餘。

南 貳十間。北 十九間。

仁賀保誠

同 仁賀保半三郎○誠屋敷 坪數四百坪。

東 道。西 明地。

南 細井金三郎。北 町屋。
東 貳十七間壹尺。西 貳十五間四尺。
南 十九間。北 十四間。

今度赤坂馬場跡並馬場前之於明地、井上左門、岡野權次郎、細井金三郎、仁賀保半三郎、寬五右衛門屋敷拜領仕ハ。四方間數坪數、右御繪圖之面傍示杭之通、相違無御座、銘々請取申ハ。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十月廿五日

井上左門內 渡邊市之進 印

岡野權次郎內 櫻井縫殿右衛門 印

細井金三郎內 中澤源五右衛門 印

仁賀保半三郎內 大谷五右衛門 印

寬五右衛門內 村野作左衛門 印

水野權十郎渡之。

清水喜兵衛、宇野小兵衛、原五郎左衛門、吾孫子幸右衛門。

中村平治。

屋鋪渡預繪圖證文

元祿十五壬午年

十月九日渡。同所本所。中之鄉大川端新規物揚場

大久保玄蕃頭

十月十日渡。明地之內。一、湯島天澤寺近所貳百五拾坪

夏日藤右衛門組御從 岩上新兵衛

但、八町堀屋敷御用地ニ被召上、爲代地、元坪之通被下。

市街充實時代

同日渡。同斷
一、同所貳百五拾六坪宛

堀田儀兵衛

但、右同斷

增島段右衛門

同日渡。同斷
一、同所貳百六拾四坪

竹内傳八郎

但、右同斷

同日渡。同斷
一、同所貳百三拾貳坪宛

上田源五左衛門

但、右同斷

海田儀右衛門

同日渡。同斷
一、同所貳百三拾坪

吉里權右衛門

但、右同斷

同日預。屋敷後空地
一、三田臺町四百八拾五坪

土岐伊豫守

同日渡。内藤十郎兵衛上ヶ地
一、市谷加賀屋敷貳百四拾四坪壹合宛

萩原市左衛門

一、白銀新堀端三千百五拾坪

河合彌兵衛組

松崎小左衛門

但、壹人ニ付七拾坪宛四拾五人分屋敷、大繩ニ渡ス。

新黒鉄之者〇一本、河合彌兵衛組新黒鉄組頭平井平四拾五人分屋敷。右衛門同白井藤左衛門同松崎三太夫。

同日預。橋本權之助御役屋敷上リ地
一、赤坂築地四百九拾壹坪

相良遠江守

同日渡。同斷
一、同所四百坪宛

十月廿一日預。主計屋敷後かけ志之れ。
一、赤坂貳百五坪四合

米倉主

十月廿三日預。森本市右衛門上ヶ地割殘
一、市谷柳町八拾八坪五合

花井兵

十月廿五日渡。森本市右衛門上ヶ地
一、市谷柳町四百坪

花井兵助

同日渡。同斷
一、赤坂馬場跡七百坪

井上左門

同日渡。同斷
一、同所五百坪

岡野權次郎

同日渡。同斷
一、同所四百坪宛

細井金三郎

仁賀保半三郎

寛五左衛門

屋敷書拔

正興〇井上。

元祿十五壬午年赤坂田町五丁目ニ有七百坪賜居屋敷ヲ。

寛政呈譜

赤坂之内〇中

同〇元十五午年十月前書略。馬場地之所南之方寛五右衛門、六月不知親次郎右衛門、安永十年同

人屋敷内、金森彦四郎切坪、二々屋敷ニ成、藤屋敷之方、文化十二年十二月和子源助、當時半十郎ニ至。北續細

市街充實時代

井金三郎、二月不知田、藤四郎、寛延三年十月石野傳三郎、寶曆十一年六月秋山豊五郎、寛政十一年十月同續仁賀保半三郎、享和元年十二月淺沼三郎兵衛原平七郎、文政二年閏四月野藤太郎、當辰友三、右三人屋敷ニ成、同所東之方道向明地之場所、南之方井戸左門、寛政十一年八月、藤原六巳年四月同人屋敷内三輪滿藏、切坪二ヶ屋敷ニ成、仁賀保半三郎、野藤太郎、當辰三輪滿藏屋敷之方、文政九年七月、藤野茂兵衛ニ至、北續岡野權次郎、寶永三年正月、石野平藏、天明七年三月、荻原彌五兵衛、兩人屋敷ニ成、北之方東西之新道式出來、四方道式ニ成。

御府内 其外還 沿革圖書

〔附記、一〕 犬毀傷者切腹

十三日 元祿十五年 十月 中略。

申渡之覺

權之助事、犬を損さし、依之先頃於評定所僉議之上、揚座敷に遣置、今日左之通御仕置

伯樂方 橋本權之助

生類あこれ之事、度々被仰出之處、御法度相背、今度犬損さし、不仁之仕形、其上申様惡敷、旁不届至極ニ付、切腹被仰付旨、御目付水野小右衛門申渡之。

十五日 元祿十五年 十月 中略。

一、左之御書付之寫、

覺

附記、一 犬毀傷者切腹

諸人仁愛之心有之様ニと、常々被思召ひ故、生類あこれ之儀、度々被仰出ひ處、今度橋本權之介犬を損さし、不届ニ被思召ひ、依之死罪被仰付ひ、彌人々仁愛之心ニ罷成、の様ニ、大身小身共ニ相守、末々迄急度可申含ひ者也。

柳營日次記

〔附記、二〕 役料渡方

廿八日 元祿十五年 十月 中略。

一、稻垣對馬守被相渡御書付、

覺

江戸并遠國御役人御役料、向後三ツニ分け、春夏冬三度ニ相渡ひ答ニ成、事。

柳營日次記

十一月四日 辛亥 元祿十五年 紀元二三〇〇年 屋鋪受領者有、外ニ是月 元祿十年

屋鋪授受 元祿十五年十一月左ノ屋鋪授受サル。

圖略。

松平万次郎 正屋敷 坪數千五百坪。

東道。西阿部伊豫守。

市街充實時代

附記、二 役料渡方

屋鋪授受

屋鋪授受事

松平正基

南道。北 丹羽和泉守。
東西 三十三間貳尺。
南北 四十五間。

右於南本所三四之橋間通、今度松平方次郎御屋敷就拜領仕、四方間數坪數傍示杭之通、御繪圖之面相違無御座請取申、爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十一月四日

松平方次郎内
宇野小右衛門印
甲斐庄喜右衛門、櫻井庄之助、酒井與九郎。
右三人立合、相渡ス。

圖略○

四谷久能町松本五郎兵衛上リ屋敷 坪數四拾貳坪九合。

東 久野藤八。西 百性地。
南 細倉武左衛門。北 重本伊太夫。
東 八間四尺。西 八間三尺。
南北 五間。

四谷久野町松本五郎兵衛上ケ屋敷、私に御預ケ被成、四方間數坪數、略○中御預リ申、爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十一月十二日

五之丸様御覽取番之頭三橋八郎左衛門組
重本伊太夫印

重本伊太夫

甲斐庄喜右衛門内田邊作太夫。
右立合、相改預レ之。

安川善太夫。原五郎左衛門。吾孫子幸右衛門。

圖略○

大久保四丁町河西孫右衛門上リ屋敷 坪數三百貳拾八坪。

東 松井庄之助。西 市川平右衛門。
南 道。北 龍野新八。
東 貳十間三尺。西 同上。
南北 十六間。

大久保四丁町河西孫右衛門殿上リ屋敷、私に御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座御預リ申、爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十一月十二日

大久保立番頭組
松井庄之助印
甲斐庄喜右衛門内田邊作太夫。
清水喜兵衛。原五郎左衛門。安川善太夫。
右立合、相改預レ之。

松井庄之助

圖略○

巢鴨今井彌十郎上ケ地 坪數百拾八坪。

市街充實時代

東道。西 小田善兵衛上ヶ地。
 南 木代與五兵衛。北 久野五郎三郎。
 東 四間四尺五寸。西 四間貳尺三寸。
 南北 貳十五間五尺八寸。

巢鴨今井彌十郎上ヶ地、私共兩人に御預被成、四方間數坪數、略御預申、爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十一月十四日

小田庄兵
飛田七右

飛田七右衛門 清印
戸田權九郎、橋原次郎左衛門、柴田助右衛門、佐藤三左衛門、中島助六郎、組同心

甲斐庄喜右衛門内田邊作太夫。
右立合、相改預之。

原五郎左衛門。安川善太夫。

圖略。

番町根岸三左衛門定屋敷 坪數三百坪。

東 櫻井庄八郎。西 道。
 南 内藤十郎兵衛。北 鳥田孫太夫、建部隼之助。
 東 十四間壹尺五寸。西 十貳間五尺八寸。
 南 貳十貳間三寸。北 貳十貳間壹尺。

番町明地之内ニ多、根岸三左衛門今度屋敷拜領仕、四方間數坪數、略請取申、爲後日

根岸定徳

仍如件。

元祿十五壬午年十一月十六日

根岸三左衛門内
久保利右衛門 印

甲斐庄喜右衛門渡之。

安川善太夫。原五郎左衛門。中村半治。

圖略。

番町石野權八郎正屋敷 坪數三百五坪。

東道。西 鳥田孫太夫。
 南 櫻井庄八郎。北 猪俣源六郎。
 東西 十五間五尺七寸。
 南北 十九間壹尺三寸。

番町明地之内ニ多石野權八郎今度屋敷拜領仕、四方間數坪數、右御繪圖之面、略請取申、爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十一月十六日

石野權八郎内
宮下吉左衛門 印

甲斐庄喜右衛門渡之。

安川善太夫。原五郎左衛門。中村半次郎。宇野小兵衛。

圖略。

番町猪俣源六郎屋敷 三百五坪。

市街充實時代

石野正全

猪俣源六

東 道。西 鳥田孫太夫。
南 石野權八郎。北 道。

東 貳十七間七寸餘。西 十壹間三尺七寸ヨ。
南 十九間壹尺三寸。北西へ、貳十壹間三尺。

番町明地之内ニ有猪俣源六郎今度屋敷拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面、傍示杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十一月十六日

猪俣源六郎内

鈴木數右衛門印

甲斐庄喜右衛門渡之。

安川善太夫。原五郎左衛門。中村半次郎。宇野小兵衛。

圖略○

鳥田將安

番町鳥田孫太夫^{○將}屋敷 坪數三百五坪。

東 石野權八郎、猪俣源六郎。西 建部隼之助。
南 根岸三左衛門。北 道。

東 貳十七間三尺。西 貳十貳間。
南 十貳間貳尺。北 十三間四尺。

番町明地之内ニ有鳥田孫太夫今度屋敷拜領仕。四方間數坪數、^{○中}請取申。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十一月十六日

鳥田孫太夫内

三田次郎兵衛印

甲斐庄喜右衛門渡之。

安川善太夫。原五郎左衛門。中村半次郎。

圖略○

櫻井勝凭

番町櫻井庄八郎^{○勝}屋敷 坪數四百坪。

東 道。西 根岸三左衛門。
南 美の部彦左衛門。北 石野權八郎。

東 十六間。西 十四間壹尺五寸。
南 貳十六間貳尺七寸。北 貳十六間三尺。

番町明地之内ニ有櫻井庄八郎今度屋敷拜領仕。四方間數坪數、^{○中}請取申。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十一月十六日

櫻井庄八郎内

佐藤與右衛門印

甲斐庄喜右衛門渡之。

安川善太夫。宇野小兵衛。原五郎左衛門。中村半治。

圖略○

建部隼之助

番町建部隼之助屋敷 坪數三百五坪。

東 鳥田孫太夫。西 道。

市街充實時代

南 根岸三左衛門。北 道。
東 貳十貳間。西 十四間壹尺。
南 十七間七寸。北 十八間五尺。

番町明地之内ニ多建部隼之助今度屋敷拜領仕。四方間數坪數。右御繪圖之面。傍示杭之通。相違無御座請取申。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十一月十六日

建部隼之助内
高橋宅右衛門印

甲斐庄喜右衛門渡之。
安川善太夫。原五郎左衛門。中村半治。宇野小兵衛。

圖略○

番町榊原金左衛門○金右衛門屋鋪 坪數三百坪。

東 窪田伊右衛門。西 道。
南 明地。北 戸田六兵衛。
東 西 十四間貳尺四寸。
南 北 貳十間五尺。

番町明地之内ニ多榊原金左衛門今度屋敷拜領仕。四方間數坪數。右御繪圖之面。傍示杭之通。相違無御座請取申。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十一月十六日

榊原金左衛門内
町田平藏印

榊原貞亮

德永昌清

甲斐庄喜右衛門渡之。

安川善太夫。原五郎左衛門。中村半治。宇野小兵衛。

圖略○

麴町天神近所福王市左衛門上ヶ地 坪數四百拾五坪。

東 町屋。西 曾雌次郎右衛門。
南 道。北 道。
東 三十五間。西 三十三間五尺。
南 十六間。北 五間三尺。

麴町新四丁目福王市左衛門殿上り地。德永備前守○昌に御預ヶ被成。四方間數坪數。右御繪圖之面。相違無御座預り申。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十一月廿五日

德永備前守内
小林次左衛門印

水野權十郎内中村傳右衛門。
右立合。相改預之。

屋鋪渡預繪圖證文

元祿十五壬午年

十一月四日渡。
一、南本所三四ノ橋間通千五百坪
十二月十二日預。松本五郎兵衛上ヶ地
一、四谷久能町四拾貳坪九合

役名不詳
松平万次郎
五之丸様御廣敷番之頭三橋八郎左衛門組
重本伊太夫
預地

市街充實時代

一二九五

同日預河孫右衛門上ヶ地
一、犬久保四丁目三百貳拾八坪
一、十一月十四日預今井孫十郎上ヶ地
一、巢鴨百拾八坪

大久保玄蕃頭組
松井庄之助預地

十一月十六日渡明地之内
一番町四百坪

小田庄兵衛
飛田七右衛門兩人預地

十一月十六日渡明地之内
一番町三百坪宛

櫻井庄八郎役名不知
根岸三左衛門役名不知

同日渡同斷
一、同所三百五坪宛

猪俣源六郎
建部隼之助

柳原金左衛門同
石野權八郎同
鳥田孫太夫

十一月廿五日預福王市左衛門上ヶ地
一、麴町天神近所四百拾五坪

德永備前同
屋敷書拔預地

一番町之内略

一、元祿十五年方同十六未年十月迄之内、前書略。新道貳番町通東之方三ヶ所明地之内
北之方三番町通方右新道折廻角本多若狹守南續新見忠左衛門、森本市右衛門屋鋪被下、

本所奉行更
任

南之方道向建部隼人鳥田孫太夫猪俣源六郎右野權八郎根岸三左衛門櫻井庄八郎内藤
十郎兵衛美濃部彦左衛門松田善右衛門稻葉河内守戸田六兵衛福王市左衛門神原金左
衛門窪田伊右衛門三浦半之丞山岡吉左衛門屋鋪被下、半之丞吉左衛門南續明地間、有來
道式及取壞ニ成、右道跡之邊割殘明地出來、明地南之方石來助六郎塚原彌三郎島田利兵
衛中澤八右衛門樋口又兵衛松田孫左衛門屋敷被下、右被下、屋鋪々東通南北筋違新道
出來、右出來之道式者新道壹番町通ニ有之。
御府内往還沿革圖書

廿九日丙子元祿十五年(紀元二二六二)十一月書院番坪内定常覺左本所奉行ニ

任ズ。是月元祿十五年(紀元二二六二)十一月十八日乙丑乙丑、三櫻井勝次之助辭免スルヲ

以テ之ニ代ル也。柳營日次記、柳營補任、寛政重修諸家譜。

本所奉行更任 八、

十八日元祿十五年(紀元二二六二)十一月

御役御免。久々相動ニ付命

廿九日元祿十五年(紀元二二六二)十一月

一、御書院番新庄土佐守組坪内角左衛門常。本所奉行櫻井庄之助跡被仰付之。

柳營日次記

市街充實時代

本所奉行更
任

十八日元祿十五年(紀元二二六二)十一月

御役御免。久々相動ニ付命

廿九日元祿十五年(紀元二二六二)十一月

一、御書院番新庄土佐守組坪内角左衛門常。本所奉行櫻井庄之助跡被仰付之。

柳營日次記

市街充實時代

同元 十五壬午年十一月二十九日新庄土佐守組院書之節本所奉行被仰付旨阿部豊後守殿被仰渡い。

寶永二己酉年正月十一日三枝攝津守組之節本所奉行より御目付被仰付い。

定常半藏主稅覺左衛門

十年元 三月十八日御書院番に列し、十五年十二月二十九日より本所奉行をつとめ

寶永二年正月十一日御目付に進み、略下

柳營補任之ヲ

本所築地奉行

元祿九子五月

トスルハ誤ナル可シ。

〔附記〕

烟草本田畑ニ培養スルヲ禁ズ

二日元祿十五年

一、本多伯耆守正被相渡い書付、

附記
烟草
本
田
畑
ニ
養
育
ス
ル
ヲ
禁
ズ

藤堂跡
坪内角左衛門

覺

前々よりたゞこ本田畑ニ作間敷旨、度々相觸いへ共連々まこ大分作出しい。來未年はこ作い儀、當年迄作來い半分作之、殘る半分之、所ニハ土地相應之穀類可作之い。若相背輩於有之、可爲曲事者也。

午元祿十五年十二月

覺

相觸い書付之通、御料と奉行御代官、私領と地頭より、堅申付之、當年迄たゞこ作い所々、町歩之高書付、其内半分はこ作りい様ニ申付、残り半分と穀類作りい様ニ申付い段書記之、來年二月迄之内御勘定所へ可差出之。且又穀類可作之所々、種不足之所と奉行御代官地頭より種之儀申付之、田畑荒さる様ニ可被致い以上。

午元祿十五年十二月

柳營日次記

十二月二日戊寅元祿十五年(紀元二二六二年) 戊寅三正綜覽。屋鋪替有リ。外ニ屋鋪授受若干是

月元祿十五年(紀元二二六二年) 十二月。ヲ以テ行ハル。寛政呈譜。屋鋪渡預繪圖證文。屋敷書拔。柳營日次記。輯參滿載。

屋鋪授受 左ノ屋鋪授受ハ、元祿十五年十二月ニ在リ。

政因伊豆守從五位下。初内記。池田。

元祿十五年十二月二日叙五位下伊豆守。麴町三丁目屋敷外櫻田松平玄蕃頭屋敷ト相

市街充實時代

屋鋪授受

屋鋪授受事

池田政因

對替。

金田正明

正明○正春。正恒。正彦。銀太夫。能登守。周防守。

水野勝政

同年○元祿十五年。十二月四日、市谷ニ屋敷被下之。

石尾氏信

勝政○從五位下。攝津守。後日向守。隱居後攝津守。

仙石政明

一、同年○元祿十五年。十二月十四日、神田橋兄隱岐守○勝長。屋敷引移申候。

金森可棟

氏信○阿波守。幼名犬松。更部。

島田直時

同○元祿十五年。壬午年二月十五日、御目付被仰付、火之元改兼帶、賜屋敷、年號月日不知。麻布一本松ニ有之、之い處、同年十二月十九日如願小川町御臺所町室賀源四郎賜屋敷。

寬政呈譜

政明○從五位下。越前守。幼名主稅。

屋敷ト相對替、願之通被仰出。

一、同○元祿十五年。壬午年十二月十九日、拜領地木挽町築地中屋敷、麻布鷺森金森彦四郎○可棟。

圖略○

鳴田數馬○直時。屋敷 坪數貳千坪。

東 道四ノ橋通。

西 明地。

南 高木九助、明地。

北 道。

東 貳十八間貳尺、十三間四尺二寸。西 四十貳間貳寸。
南 四十壹間壹尺、十九間四尺九寸三。北 六十壹間。
右者於北本所四之橋通、今度島田數馬御屋敷就拜領仕ハ、四方間數坪數、傍示杭之通、御繪圖之面、相違無御座受取申ハ、爲後日仍如件。

元祿十五年壬午年十二月二日

鳴田數馬○直時。渡邊政右衛門 印

水野權十郎、酒井與九郎。

右兩人立合改レ之。

右者伊奈半左衛門支配所之内、此度御屋敷被成御渡、四方間數坪數、相違無御座ハ。以上。

伊奈半左衛門○內。石母與五郎

圖略○

淺草三十三間堂跡三宅孫十郎○信定。屋敷 坪數貳百六拾坪。

東 道。西 道。

南 石井十右衛門、隆光寺。北 道。

東 九間壹尺二寸三。西 十六間五尺貳寸三。

南 十八間壹尺四寸三、五間三尺。北 貳十四間。

淺草三十三間堂之跡上野武左衛門殿上ケ地、并割殘四拾坪共ニ、願之通三宅孫十郎今度拜領仕ハ、四方間數坪數、右御繪圖之面、傍示杭之通、相違無御座、請取申ハ、爲後日仍如件。

市街充實時代

元祿十五壬午年十二月六日

三宅孫十郎内

吉江藤右衛門印

甲斐庄喜右衛門渡之。

清水喜兵衛。平野善三郎。中村半治。

圖略○

番町鈴木源左衛門上ヶ地 坪數百三十八坪。

東 道。西 前田隼人。

南 新見傳兵衛。北 道。

東 十七間貳尺。西 十七間壹尺。

南北 八間。

前田利英

鈴木源左衛門殿上ヶ地、今度前田隼人^{○利}屋敷内ニ有元坪之通御切替、則隼人^{○利}御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座、御預リ申[○]、爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十二月七日

前田隼人内

齋藤十左衛門印

水野權十郎内永田庄助。

右立合、相改預之。

平野善三郎。吾孫子幸右衛門。中村半治。

圖略○

裏四番町池田兵部^{○政}屋敷

坪數千四百貳拾四坪七合。建家有。

池田政親

東 道。西 大木伊兵衛。

南 米津喜兵衛、酒井下總守。北 美の部藤三郎。

東南 三十七間貳尺。西北 三十貳間四尺。

東北 三十六間。西南 三十壹間三尺。

黒田源右衛門殿上ヶ屋敷、池田兵部拜領仕[○]、四方間數坪數、御繪圖之面、并建長屋立具塗垂植木石等迄、御帳面を以相改、相違無御座、請取申[○]、爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十二月七日

池田兵部内

都築市左衛門印

圖略○

龍慶橋近所水野齋宮^{○忠}屋敷 建家有。坪數五百六拾七坪。

東 本多主殿。西 道。

南 大屋雲四郎。北 三井吉三郎。

東 十七間五尺。西 十七間四尺。

南 三十壹間四尺。北 三十三間三尺。

三橋佐左衛門殿上リ屋敷、水野齋宮拜領仕[○]、四方間數坪數、御繪圖之面、并建家立具疊長屋土藏植木等迄、御帳面を以て相改、相違無御座、請取申[○]、爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十二月七日

水野齋宮内

牧野惣右衛門印

圖略○

市街充實時代

水野忠位

村田長菴

東京市史稿

元山王村田長菴屋敷 坪數四百四十貳坪九合。有建長屋。

東 榎原兵左衛門。西 蛭川彦左衛門。

南 瀧川讚岐守、伊澤吉兵衛。北 道。

東 貳十四間四尺。西 貳十四間壹尺。

南 貳十貳間。北 十四間四尺。

小川左衛門殿上ヶ屋敷、村田長菴拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面、并建家具共御目錄之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十二月七日

村田長菴內

奧村喜右衛門印

中村淺右

牛込元天龍寺跡中村淺右衛門屋敷 坪數貳百坪。

東 道。西 石崎甚助。

南 道。北 水谷又市。

東 貳十三間五尺。西 貳十三間四尺。

南 八間四尺壹寸。北 八間壹尺。

牛込元天龍寺前小林藤左衛門殿上ヶ屋敷、今度拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面、傍示杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十二月九日

水野權十郎內中村傳右衛門。

中村淺右衛門印

清水喜兵衛、安川善太夫、市川三十郎。右立合、相改渡之。

松平近鎮

圖略○

西丸下松平主計頭屋敷 坪數貳千貳百拾五坪。

東 道。西 道。

南 道。北 大久保隱岐守。

東 貳十四間、貳十壹間五尺。西 四十七間三尺。

南 四十六間壹尺。北 五十間四尺。

西丸下中根大隅守殿上ヶ屋敷、松平主計頭拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面、并建家具、立具、疊長屋土藏植木石等迄、中略。請取申。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十二月十二日

松平主計頭內

鈴木伴右衛門印

甲斐庄喜右衛門渡之。

安川善太夫、吾孫子幸右衛門、中村半治。

圖略○

赤坂築地、向坂內藏助屋敷 坪數四百九拾壹坪。

東 脇坂甚兵衛。西 道。

南 道。北 山本平右衛門。

向坂內藏助

市街充實時代

東 十四間。西 十四間壹尺。
南 三十二間四尺。北 三十六間壹尺。

小川町元屋敷差上ケ爲代地赤坂築地橋本權之助殿上リ屋敷向坂内藏助拜領仕。四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通并建家立具。中略。請取申。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十二月十三日

向坂内藏助内
水野權十郎内中村傳右衛門。
宇野小兵衛。吾孫子幸右衛門。安川善太夫。
荒井伴右衛門 印
右立合、相改渡之。

圖略○

小川町稻葉彦三郎上ケ屋敷

坪數六百五拾坪。建家有貳百九十坪。

東 松平助四郎。西 道。

南 道。北 小堀伊兵衛、下山十郎右衛門。

東 貳十壹間一尺。西 貳十間三尺。

南 三十壹間一尺。北 三十壹間三尺。

小川町稻葉彦三郎殿上ケ屋敷松平志摩守の御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、并建家立具。中略。以御帳面相改、相違無御座御預リ申。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十二月十四日

松平志摩守(直丘)内
有澤勘右衛門 印

松平直丘

圖略○

駿河臺杉藤藏屋敷 建家有。坪數五百四拾七坪。

東 堀平右衛門。西 道。

南 大堀大膳。北 道。

東 三十壹間。西 三十間三尺。

南 十七間三尺五寸。北 十八間。

山岡孫七郎殿上ケ屋敷、今度杉藤藏[○]繁拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面、并建家立具。中略。以御帳面相改、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十二月十四日

杉藤藏内
木嶋万右衛門 印

圖略○

小川町丸茂清三郎拜領屋敷 建家有。坪數六百五拾坪。

東 松平助四郎。西 道。

南 道。北 下山十郎右衛門、小堀伊兵衛。

東 貳十壹間壹尺。西 貳十間三尺。

南 三十壹間壹尺。北 三十壹間三尺。

稻葉彦太郎殿上ケ屋敷丸茂清三郎拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面、并建家立具。中略。等迄御帳面を以相改、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

市街充實時代

丸茂清三

杉繁孝

元祿十五壬午年十二月十五日

丸茂清三郎内
川合瀬兵衛印

小濱廣隆

小濱民部隆屋鋪 坪數六百六拾貳坪。

東 道。西 明地。

南 小濱民部。北 百姓。

東 十七間。西 九間四尺五寸。中 九間半。

南 四十六間壹尺壹寸。北 二十三間壹尺壹寸、貳十貳間五尺。

右考於南本所猿江村小名木川端、今度小濱民部御屋敷就拜領仕、四方間數坪數、傍示杭之通、御繪圖之面相違無御座請取申、爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十二月十六日

小濱民部内
加賀六郎左衛門印

甲斐庄喜右衛門。酒井與九郎。坪内覺左衛門。
右三人立合、相渡ス。

右考伊奈半左衛門支配所之内、今度御屋敷御渡被成、四方間數坪數、相違無御座、以上。

圖略○

小濱民部屋敷 坪數四千六百三坪。

東 明地。西 道。

南 道。北 森和泉守。

東西 七十五間五尺貳寸。

南北 六十間四尺。

右考於北本所四之橋通、今度小濱民部御屋敷就拜領仕、四方間數坪數、傍示杭之通、御繪圖之面相違無御座請取申、爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十二月十六日

小濱民部内
加藤六郎左衛門印

甲斐庄喜右衛門。酒井與九郎。坪内覺左衛門。
右三人立合相渡ス。

右考伊奈半左衛門支配所之内、今度御屋敷被成御渡、四方間數坪數、相違無御座、以上。

伊奈半左衛門内
石母與五郎

圖略○

小川町荒川兵左衛門屋敷建家有。 坪數六百坪。

東 荒川土佐守。西 道。

南 松浦八左衛門。北 道。

東西 貳十間貳尺貳寸。

南 貳十九間貳尺五寸。北 貳十九間三尺。

市街充實時代

荒川兵左

小川町梶川三之丞殿上ケ屋敷今度荒川兵左衛門拜領仕い。四方間數坪數、右御繪圖之面、傍示杭之通、并建家立具略。御帳面を以相改相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十二月十八日

荒川兵左衛門内
田所半右衛門印

甲斐庄喜右衛門内岡直右衛門。
右立合、相改渡レ之。

服部七右衛門。清水喜兵衛。中村半治。

圖略。

内藤宿栗津金右衛門上ケ地 坪數貳百貳拾坪。

東 春日小右衛門上ケ地、成田源八郎。西 道。

南 堀本一甫。北 渡部彦三郎。

内藤宿栗津金右衛門殿上ケ地、堀本一甫に御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座御預リ申い。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十二月十八日

堀本一甫内
藤井市郎右衛門印

甲斐庄喜右衛門内田邊作太夫。
右立合、相改預レ之。

宇野小兵衛。原五郎左衛門。吾孫子幸右衛門。

圖略。

堀本一甫

石原正盈
武川孫平

左岡本新五

小石川割殘リ 坪數三拾六坪。

東 原市右衛門。西 道。

南 石原久左衛門。北 武川孫平。

東北 貳十間。西南 貳十間。

西北 壹間五尺。東南 壹間五尺。

佐脇次郎左衛門上ケ地割餘リ、石原久左衛門正。武川孫平兩人に御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座御預リ申い。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十二月廿一日

石原久左衛門内
坂澄忠太夫印
武川孫平内
川鍋八兵衛印

吾孫子幸右衛門。安川善太夫。

圖略。

赤坂岡本新五左衛門屋敷 坪數貳百五十七坪。

東 御下男。西 道。

南 御下男。淨土寺。北 竹腰近江守。

東 十三間五尺。西 十貳間四尺。

南 貳十間貳尺。北 十八間壹尺五寸。

赤坂内藤八郎左衛門上ケ地、願之通今度新規屋敷拜領仕い。四方間數坪數、右御繪圖之面、

市街充實時代

傍示杭之通、相違無御座請取申_レ爲後日仍如_レ件。

元祿十五壬午年十二月廿一日

御勘定支記
岡本新五左衛門印

甲斐庄喜右衛門内岡直右衛門
右立合、相改渡_レ之。

清水喜兵衛、中村半治、宇野小兵衛

圖略○

筭橋福井覺太夫屋敷 坪數貳百貳拾坪。

東 道。西 道。

南 柴田彦左衛門。北 矢部四郎右衛門上ヶ地。

東西 九間壹尺。

南北 貳十四間。

筭橋近所山本角兵衛上ヶ地、并矢部四郎右衛門上ヶ地之内、貳拾坪添今度屋鋪拜領仕_レ。四方間數坪數、右御繪圖之面傍示杭之通、相違無御座請取申_レ爲後日仍如_レ件。

元祿十五壬午年十二月廿一日

前田八右衛門組添番
福井覺太夫印

甲斐庄喜右衛門内岡直右衛門。

清水喜兵衛、中村半治、宇野小兵衛。

右立合、相改渡_レ之。

福井角太夫

武川孫平

圖略○

小石川武川孫平屋敷 坪數貳百貳拾坪。

東北 藤井喜右衛門。西南 割残り。

東南 由田助太夫、原市右衛門。西北 道。

東北 貳十間。西南 貳十間。

東南 十壹間貳尺。西北 十間四尺。

佐脇次郎左衛門上ヶ地之内、私拜領仕_レ。四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申_レ爲後日仍如_レ件。

元祿十五壬午年十二月廿一日

御奥火之御番
武川孫平印

圖略○

筭橋矢部四郎右衛門上ヶ地割残り 坪數百八拾坪。

東 道。西 道。

南 福井角太夫。北 三宅權七郎上ヶ地。加藤傳兵衛。

東 八間。西 七間。

南北 貳十四間。

筭橋近所矢部四郎右衛門上ヶ地割残り、私_レ御預被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座御預_レ申_レ爲後日仍如_レ件。

市街充實時代

柴田彦左

東京市史稿

元祿十五壬午年十二月廿一日

柴田彦左衛門印

一三二四

甲斐庄喜右衛門内岡直右衛門。
右立合、相改預之。

清水喜兵衛。宇野小兵衛。中村半治。

圖略○

市ヶ谷柴田安兵衛屋敷 坪數百四拾坪五合。

東 稻荷。西 服部甚五兵衛。

南 道。北 山内平太夫。

東 十三間三尺。西 十六間。

南 十間三尺四寸。北 八間三尺。

小石川御殿近所屋敷差上、爲代地馬橋四郎右衛門上リ屋敷之内ニ有、願之通リ拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面、傍示杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十二月廿二日

大奥火之御番
柴田安兵衛印

甲斐庄喜右衛門内田邊作太夫。
右立合、相改預之。

清水喜兵衛。安川善太夫。原五郎左衛門。中村半治。

圖略○

市谷服部甚五兵衛屋敷 坪數百四拾坪五合。

服部甚五兵衛

東 柴田安兵衛。西 道。

南 道。北 山内平太夫。

東 十六間。西 十八間。

南 八間壹尺六寸。北 八間三尺。

本所中之郷屋敷差上、爲代地馬橋四郎左衛門上リ屋敷之内ニ有、願之通拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面、傍示杭之通、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十二月廿二日

大奥御添番
服部甚五兵衛印

甲斐庄喜右衛門内田邊作太夫。

清水喜兵衛。原五郎左衛門。安川善太夫。中村半次郎。

右立合、相改預之。

圖略○

番町村田長菴上ヶ屋敷 坪數五百十五坪

東 道。西 道。

南 道。北 山下新兵衛。中山傳五郎。

東北へ 三十九間四尺。西 十九間四尺五寸。

南 十間三尺。北 三十九間壹尺。

番町村田長菴老上ヶ屋敷内藤八郎左衛門。御預ヶ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座御預申。爲後日仍如件。

市街充實時代

一三一五

内藤忠勝

元祿十五壬午年十二月廿二日

内藤八郎左衛門内

藤田太郎左衛門印

水野權十郎内永田庄助。
右立合、相改預之。

圖略○

一ツ橋外丸毛清三郎上ケ屋敷 坪數四百四拾六坪八合。内建家貳百五坪。

東 北村再昌院法印。西 道。
南 小笠原平兵衛。北 道。

東 貳拾壹間三尺五寸。西 貳十貳間貳尺。
南 十九間四尺。北 貳十壹間五寸。

丸毛清三郎殿上ケ屋敷、松平志摩守^{○直}に御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、并建家立具^{○中}等迄御目錄を以相改、相違無御座御預申[○]爲後日仍如件。

松平志摩守内
有澤勘右衛門印

元祿十五壬午年十二月廿三日

丸茂清三郎上ケ屋鋪建家立具目錄

一、門扉 但、^{く、}錠[、]有[、]共 三枚。

一、戸 但、半戸共。 百壹本。

一、疊 但、半疊共。 百三十疊。

松平直丘

山岡景福

- 一、障子 但、半障子共。 三十七本。
- 一、襖 但、小襖共。 貳十五本。
- 一、植木 但、大小。 貳十壹本。
- 一、石 但、大小。 九ツ。

以上。

元祿十五壬午年十二月廿三日

圖略○

川田ケ窪袋寺町山岡孫七郎^{○景}屋敷 建家有。 坪數四百六拾四坪九合

東 光徳院。西 水野土佐守。

南 道。北 惠光寺、明傳寺。

東 四十七間三尺。西 五十貳間三尺。

南 貳間五尺。北 十貳間三尺。

美濃部文左衛門殿上リ屋敷山岡孫七郎拜領仕[○]。四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通リ、并建家立具疊等迄、御帳面を以て相改、相違無御座、請取申[○]爲後日仍如件。

山岡孫七郎内
秋葉治太夫印

元祿十六癸未年十二月廿三日

圖略○

麻布六本木梶川三之丞^{○忠}屋敷 建家有。 坪數四百四拾貳坪。

市街充實時代

梶川忠榮

東 道。西 山田源右衛門。
南 道。北 河内喜右衛門。

東 貳十壹間貳尺。西 十五間貳尺。
南 貳十五間壹尺五寸。北 貳十四間貳尺。

麻布六本米津監物殿上ヶ屋敷、梶川三之丞拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面、御定
杭之通并建家共、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十二月廿三日

程川三之丞内
關 戶 源 左 衛 門 印

圖略。

小川町土屋長次郎上ヶ屋敷 坪數五百拾六坪。内建家百八十坪。

東 小澤庄右衛門。西 道。

南 朝倉藤十郎。北 増田壽徳。

東 貳十間。西 十九間六寸。

南 貳十六間二尺五寸。北 貳十六間貳尺五寸。

小川町土屋長治郎殿上ヶ屋敷、内藤駿河守[○]清[○]に御預ヶ被成、四方間數坪數、右御繪圖之
面、并建家[○]中[○]等迄、御帳面を以相改、相違無御座御預リ申。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十二月廿五日

内藤駿河守内
川 西 佐 二 右 衛 門 印

内藤清枚

土屋長治郎上リ屋敷立具疊植木目錄

- 一 門扉 但、錠鑰有。くゝ共。 三枚。
 - 一 戸 但、半戸共。 六十壹本。
 - 一 障子 但、半障子共。 貳十五本。
 - 一 襖 但、小襖共。 十五本。
 - 一 疊 但、半疊共。 九十疊。
 - 一 植木 大小。 八本。
- 以上。

午[○]元祿十五年十二月廿五日

圖略。

一ツ橋外長井庄左衛門屋敷 建家有。 坪數四百四拾六坪八合。

東 北村再昌院法印。西 道。

南 小笠原平兵衛。北 道。

東 貳十壹間三尺五寸。西 貳十貳間貳尺。

南 十九間四尺。北 貳十壹間五寸。

一ツ橋外丸茂清三郎殿上ヶ屋敷、長井庄左衛門拜領仕。四方間數坪數、右御繪圖之面、御
定杭之通并建家立具[○]中[○]等迄御目錄を以相改、相違無御座請取申。爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十二月廿五日

長井庄左衛門内
小 林 加 兵 衛 印

市街充實時代

長井庄左

水野權十郎内永田庄助。
右立合、相改渡_レ之。

服部七右衛門。清水喜兵衛。宇野小兵衛。

圖略○

番町三浦半之助_忠。屋敷。坪數六百六拾坪。

東 明地。西 道。
南 明地。北 榑原金左衛門。
東 貳十五間三尺七寸_三。西 貳十七間貳尺。
南 三十間四尺。北 貳十間五尺。

三番町川浦半之助屋敷御用地_二被召上、爲代地番町明地之内_一、願之通拜領仕、四方間數坪數、右御繪圖之面、傍示枕之通、相違無御座請取申_レ、爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十二月廿六日

森川紀伊守組三浦半之助内
木村太兵衛 印

甲斐庄喜右衛門内田邊作太夫。
右立合、相改渡_レ之。

宇野小兵衛。吾孫子幸右衛門。安川善太夫。原五郎左衛門。

圖略○

牛込原町小澤庄右衛門_忠。屋敷。坪數五百貳拾貳坪

小澤忠順

東北へ 百姓地。西 齋藤佐源太。

南 道。北 百姓地。

東北へ 四十六間。西 貳十六間三尺。

南 三十九間。

牛込原町杉藤藏殿上ヶ屋敷、小澤庄右衛門拜領仕_レ、四方間數坪數、右御繪圖之面、傍示枕之通、并建家立具_略。請取申_レ、爲後日仍如件。

元祿十五壬午年十二月廿六日

大久保玄蕃頭組小澤庄右衛門内
清水治郎右衛門 印

甲斐庄喜右衛門内田邊作太夫。
右立合、相改渡_レ之。

安川善太夫。原五郎左衛門。吾孫子幸右衛門。宇野小兵衛。

圖略○

小川町新見市郎左衛門屋敷。建家有。坪數五百拾六坪。

東 小澤庄右衛門。西 道。

南 朝倉藤十郎。北 道。

東 貳十間。西 十九間六寸。

南 貳十六間貳尺五寸。北 貳十六間貳尺五寸。

土屋長次郎殿上ヶ屋敷、新見市郎左衛門拜領仕_レ、四方間數坪數、右御繪圖之面、并建家立具_略。相改、相違無御座請取申_レ、爲後日仍如件。

市街充實時代

新見市郎
左